

はじめに

三重県は本州中部、紀伊半島東岸に位置し、南北約170 km、東西約80 kmと南北に細長い地形を有している。東部は愛知県、北部は岐阜県、西部は北から滋賀県、京都府、奈良県、南部は和歌山県にそれぞれ接している。県北部は伊勢湾、南部は北西太平洋の一部である熊野灘に面し、その海岸線は長く1,083 kmに達している。伊勢湾は典型的な内湾で、湾中央部でも水深30 m程度、最深部は50 m未満である。底質は砂泥が多く、海岸線は主に砂浜や北部工業地帯ではコンクリート護岸で構成されている。湾奥には木曾三川と呼ばれる大河川の木曾川、長良川、揖斐川が流入し、伊勢湾西岸には北から員弁川、鈴鹿川、安濃川、雲出川、櫛田川、宮川などが流れ込む。志摩半島東岸の鳥羽市から志摩市の大王崎までは伊勢湾口域となり、大王崎から三重県南端に位置する紀宝町までは熊野灘に面している。このうち志摩半島から熊野市までの海岸線は小湾が隣接する複雑なリアス海岸を呈し、岩礁が発達する。また小湾の奥部には小規模な砂浜が形成されていることも多い。これ以南は七里御浜と呼ばれている単純な礫浜が和歌山県境まで続いている。熊野灘は急峻な海底地形を示し、200 m以深の深海が沿岸近くまで接近している。熊野灘に流入する河川はこのような地形から規模の小さいものが多く、比較的大きな河川としては赤羽川、銚子川および和歌山県境となる熊野川がある。

熊野灘を流れる黒潮の流路は年によって大きく変化し、2017年に始まった黒潮大蛇行以前では黒潮は潮岬に接岸することが多く、熊野灘は黒潮の内側域に入る。特に直進流路(N型)では熊野灘沿岸は低水温になりやすい。一方で大蛇行期には黒潮は熊野灘の遠く沖合を流れて伊豆諸島や遠州灘からの内側反流(通常西向きの流れ)域になることが多く(2024年8月)、稀に黒潮が直接熊野灘沿岸に接岸し、強い北東流を示すこともある(2022年8月)。このように熊野灘沿岸は黒潮の直接的あるいは間接的影響を受け、このため大蛇行時にはこの地方は比較的温暖な気候となり、海面水温は3月で15–17°C、8月で25–29°C程度である。

陸域では北部の伊勢湾沿岸は平野部が広がり伊勢平野と呼ばれる一方、南部の熊野灘沿岸は山地が海岸近くまで迫り、平野が非常に少ない。三重県西部の伊賀地方は上野盆地とも呼ばれ、東は布引山地、北は甲賀丘陵と信楽高原、西は大和高原、南は高見山地に囲まれている。上野盆地は古琵琶湖が形成された地域であり、ここを流れる服部川や名張川、木津川は琵琶湖淀川水系の一部をなしている。

このように三重県は多様な水域をもち、そこに生息する魚類の多様性も高いと考えられる。三重県全体の魚類相が最初にまとめられたのは松原ほか(1951)で、451種が列記された。この出版物は三重県に分布する動植物をまとめた「三重県産生物目録」(三重県生物調査委員会、1951)の一部であり、この委員会の委員長は三重県立大学水産学部初代学部長であり、日本魚類学会初代会長の岡田彌一郎氏(以下敬称略)であった。その後、三重県全体の魚類相に関する出版物は片岡・富田(1981)が知られている。これはこれまでの文献資料と鳥羽水族館および三重県立博物館に所蔵されている標本、および現地調査に基づいたもので、904種を記録し、一部の種については白黒写真が掲載されている。しかし、残念なことに掲載された写真に標本番号がなく、さらに現在では所在不明の標本も多く(高村直人、私信)、再同定が困難な状態にある。

三重県全体の淡水魚類相については樋口(1980)が知

られている。掲載種は主として現地調査に基づくものであるが、採集された標本についてはまったく記述がなく、追跡調査は不可能である。鈴木・片岡(1997)は805種の三重県産海水魚類について、標本に基づいた形態記載と白黒写真(一部はスケッチ)を掲載した。しかし、これも残念ながら記載と写真を掲載した標本の番号は明示されず、当時の三重大学水産学部附属水産実験所(FRLM)に登録された標本を除いて、掲載種の再同定は困難な状態にある。また後述するように、標本の産地に疑問のあるものも含まれている。

このほか三重県内の地域的な魚類相調査は比較的多く、それらは樋口(1980)や片岡・富田(1981)で詳細に紹介されている。ただし、これらの多くは国立公園関係などの調査報告書で現在では入手が困難なものも多い。三重大学水産学部資源生物学研究室および三重大学大学院水産学研究科附属水産実験所(三重大学水産学部附属水産実験所から改組)では三重県内の地域魚類相に関して以下に記した論文等を発表している。長良川—鈴木・木村(1977)、英虞湾—Kimura and Suzuki(1980; 1982)、英虞湾アマモ場—木村ほか(1983)、英虞湾集魚灯—木村ほか(1984)、熊野地方の河川—山下ほか(1997)、長良川仔稚魚—Kimura et al.(1999)、志摩地方の河川—淀ほか(2001)、五十鈴川—佐藤ほか(2010)。

前述のように熊野灘は急峻な海底地形をもち、戦前から沖合底曳漁業が栄えていた。この底曳網の漁獲物は主に尾鷲(現在はおわせ、以前はおわしと呼ばれていた)や紀伊長島に水揚げされている。また熊野灘では愛知県の漁船も操業し、三河地方にも水揚げされている。これらの漁獲物には非常に珍しい魚類が含まれ、農林省水産講習所の松原喜代松氏(以下敬称略)によって多くの種が新種記載された。戦後も京都大学農学部教授となった松原はいくつかの熊野灘産魚類の新種記載を行っている。その後、岡田彌一郎と鈴木 清氏(以下敬称略)も数種の熊野灘産魚類の新種記載を行った。鈴木は本文の筆者である木村清志の指導教官であり、1950年代の尾鷲での採集の様子をよく話していた。それによると、当時紀勢線はいくつかに分断されており、1958年までは三重県側の南端は尾鷲市(1954年以降、それ以前は尾鷲町)であった。鈴木は尾鷲市の商人宿に寝泊まりし、水揚場で沖合底曳網の漁獲物を集め、一斗缶に採集物とホルマリンを入れて町の鍛冶屋で蓋を半田付けしてもらい、標本とホルマリンの入った一斗缶をぶら下げて汽車で津に帰ったとのことであった。

三重県産標本に基づいた新種は52種になる(表1)。最も古いものは1916年に発表されたトバカスベ *Raja tobae* Tanaka 1916 とフウリュウウオ *Malthopsis kobayashii* Tanaka 1916 である。ただし、*R. tobae* は現在ではコモンカスベ *Okamejei kenojei* (Bürger 1841) の新参シノニムとされている。Okada and Kubota (1957) は津市の小川や池から採集された20個体に基づいてホソモツゴ *Pseudorasbora parva uchidai* Okada & Kubota 1957 を記載した。細谷(2013)は亜種の可能性も残しながら、本種をモツゴ *Pseudorasbora parva* (Temminck & Schlegel 1846) の未成魚とした。このように52種のうち、11種が新参シノニムとされている。

表1に示した種以外に三重県産の可能性のある標本に基づいた新種はクサウオ科の“サラサビクニン *Careproctus sarasa* Tanaka 1916”とタナバタウオ科のナカハラタナバタウオ *Plesiops nakaharae* Tanaka 1917 がある。前者はタイプ産地(担名タイプの産地)が「恐らくは志州鳥羽に於て採集せられたるものならん」と記され正確なタイプ産地は明らかではない(田中, 1916a)。また、タイプ標本はすでに失われているようで、正確な再同定も不可能である。Kido (1988) は本名義種がスナビクニ

表 1. 三重県産標本に基づいた新種

現在の科の和名	名義種（亜種）の学名	種（亜種）の和名	産地
ガンギエイ科	<i>Raja tobae</i> Tanaka 1916 ^a	コモンカスベ(トバカスベ)	鳥羽
アカグツ科	<i>Malthopsis kobayashii</i> Tanaka 1916	フウリュウウオ	熊野灘
ハタンボ科	<i>Pempheris sasakii</i> Jordan & Hubbs 1925	ミエハタンボ	鳥羽
ホラアナゴ科	<i>Dysomma japonicus</i> Matsubara 1936	アサバホラアナゴ	熊野灘
ソコギス科	<i>Notacanthus macrorhynchus</i> Matsubara 1936 ^b	キツネソコギス	熊野灘
ソコダラ科	<i>Coelorinchus hubbsi</i> Matsubara 1936	モヨウヒゲ	尾鷲
トクビレ科	<i>Percis matsuii</i> Matsubara 1936	トンボイヌゴチ	尾鷲
ゲンゲ科	<i>Japonolycodes abei</i> (Matsubara 1936)	アベゲンゲ	熊野灘
ゲンゲ科	<i>Lycodes caudimaculatus</i> Matsubara 1936	イレズミガジ	尾鷲
ハリゴチ科	<i>Hoplichthys fasciatus</i> Matsubara 1937	シマハリゴチ	熊野灘
ホウボウ科	<i>Pterygotrigla multiocellata</i> (Matsubara 1937)	オニソコホウボウ	熊野灘
ギンハダカ科	<i>Polymetme elongata</i> (Matsubara 1938)	リュウグウハダカ	熊野灘
ワニトカゲギス科	<i>Melanostomias pauciradius</i> Matsubara 1938	カンテントカゲギス	熊野灘
ヒトツセビレカスベ科	<i>Notoraja tobitukai</i> (Hiyama 1940)	トビツカエイ	熊野灘
アオメエソ科	<i>Chlorophthalmus acutifrons</i> Hiyama 1940	トモメヒカリ	熊野灘
ニギス科	<i>Glossanodon lineatus</i> (Matsubara 1943)	イチモンジイワシ	熊野灘
ソコダラ科	<i>Coelorinchus kamoharai</i> Matsubara 1943	イチモンジヒゲ	熊野灘
ソコダラ科	<i>Coelorinchus longissimus</i> Matsubara 1943	トンガリヒゲ	熊野灘
ソコダラ科	<i>Coelorhynchus vermicularis</i> Matsubara 1943 ^c	ヤリヒゲ	熊野灘
ソコダラ科	<i>Kumba japonica</i> (Matsubara 1943)	カガミヒゲ	熊野灘
ソコダラ科	<i>Lionurus abei</i> Matsubara 1943 ^d	ヒゴソコダラ	熊野灘
オニオコゼ科	<i>Ocosia fasciata</i> Matsubara 1943	シマハチオコゼ	熊野灘
アシロ科	<i>Pycnocraspedum microlepis</i> (Matsubara 1943)	ヒメイタチウオ	熊野灘
アナゴ科	<i>Japonoconger sivicolus</i> (Matsubara & Ochiai 1951)	ミナミアナゴ	熊野灘
ペロガレイ科	<i>Samariscus latus</i> Matsubara & Takamuki 1951	ツマリツキノワガレイ	熊野灘
アイトラギス科	<i>Bembrops curvatura</i> Okada & Suzuki 1952	ナミアイトラギス	尾鷲
アイトラギス科	<i>Bembrops filodorsalia</i> Okada & Suzuki 1952 ^e	イトヒキアイトラギス	尾鷲
イソギンポ科	<i>Xiphasia matsubarae</i> Okada & Suzuki 1952	ヒメウナギギンポ	尾鷲
ホタルジャコ科	<i>Acropoma hanedai</i> Matsubara 1953	ハネダホタルジャコ	熊野灘
クロタチカマス科	<i>Epinnula orientalis pacifica</i> Grey 1953 ^f	トウヨウカマス	熊野灘
イトギンポ科	<i>Eulophias owashii</i> Okada & Suzuki 1954 ^g	イトギンポ	熊野灘
カクレウオ科	<i>Eurypleuron owasianum</i> (Matsubara 1953)	ソコカクレウオ	熊野灘
ハダカエソ科	<i>Lestidium prolixum</i> Harry 1953	ナメハダカ	熊野灘
カマツカ科	<i>Pseudorasbora parva uchidai</i> Okada & Kubota 1957 ^h	ホソモツゴ	津
ギギ科	<i>Tachysurus ichikawai</i> (Okada & Kubota 1957)	ネコギギ	宮川
スミクイウオ科	<i>Parascombrops analis</i> (Katayama 1957)	バケスミクイウオ	尾鷲
アナゴ科	<i>Acromycter nezumi</i> (Asano 1958)	ヒモアナゴ	尾鷲
アナゴ科	<i>Ariosoma shiroanago</i> (Asano 1958)	シロアナゴ	尾鷲
アナゴ科	<i>Gnathophis ginanago</i> (Asano 1958)	ニセギンアナゴ	尾鷲
ムネエソ科	<i>Polyipnus matsubarae</i> Schultz 1961	ホシホウネンエソ	熊野灘
ソコダラ科	<i>Coelorhynchus asteroides</i> Okamura 1963 ⁱ	カタヒゲ	尾鷲
ギギ科	<i>Coreobagrur okadai</i> Jayaram 1966 ^j	ネコギギ	鈴鹿川
ウミヘビ科	<i>Muraenichthys okamurai</i> Machida & Ohta 1996 ^k	ミサキウナギ	熊野灘
フサアンコウ科	<i>Chaunax abei</i> Le Danois 1978	ミドリフサアンコウ	鳥羽
ヤセムツ科	<i>Epigonus ctenolepis</i> Mochizuki & Shirakihara 1983	ナガヤセムツ	尾鷲
アシロ科	<i>Neobythites stigmosus</i> Machida 1984	シマイタチウオ	熊野灘
ウミヘビ科	<i>Ophichthus megalops</i> Asano 1987	メダマウミヘビ	熊野灘
カズナギ科	<i>Zoarchias macrocephalus</i> Kimura & Sato 2007	シンジュカズナギ	英虞湾
シャチブリ科	<i>Guentherus katoi</i> Senou, Kuwayama & Hirate 2008	ヒョウモンシャチブリ	熊野灘
ドジョウ科	<i>Cobitis minamorii tokaiensis</i> Nakajima 2012	トウカイコガタ スジシマドジョウ	津
ナマズ科	<i>Silurus tomodai</i> Hibino & Tabata 2018	タニガワナマズ	櫛田川水系
カマツカ科	<i>Pseudogobio agathonectris</i> Tominaga & Kawase 2019	ナガレカマツカ	鈴鹿川水系安楽川

a-k 現在使われている古参シノニム。a *Okamejei kenojei* (Bürger 1841), b *Notacanthus abbotti* Fowler 1934, c *Coelorinchus multispinulosus* Katayama 1942, d *Nezumia proxima* (Smith & Radcliffe 1912), e *Bembrops filifer* Gilbert 1905, f *Neopinnula orientalis* (Gilchrist & von Bonde 1924), g *Eulophias tanneri* Smith 1902, h *Pseudorasbora parva* (Temminck & Schlegel 1846), i *Coelorinchus hige* Matsubara 1943, j *Tachysurus ichikawai* (Okada & Kubota 1957), k *Scolecenchelys aoki* (Jordan & Snyder 1901).

表 2. 三重県産標本がバラタイプに指定された種（タイプ産地が三重県産以外）

現在の科の和名	種の学名	種の和名	産地
ウチワザメ科	<i>Platyrrhina hyugaensis</i> Iwatsuki, Miyamoto & Nakaya 2011	オニノウチワ	志摩市
ウミヘビ科	<i>Scolecenchelys fuscogularis</i> Hibino, Kai & Kimura 2013	ノドグロミミズアナゴ	熊野灘
ウミヘビ科	<i>Apterichthys hatookai</i> Hibino, Shibata & Kimura 2014	ダイダイマダラウミヘビ	熊野灘
ウミヘビ科	<i>Neenchelys similis</i> Ho, McCosker & Smith 2015	ムカシウミヘビ	南伊勢町
ウミヘビ科	<i>Ophichthus kusanagi</i> Hibino, McCosker & Tashiro 2019	クサナギウミヘビ	熊野灘
エソ科	<i>Synodus lautus</i> Furuhashi & Motomura 2025	ハレギエソ	熊野灘
オクスデルクス科	<i>Luciogobius adapel</i> Okiyama 2001	カワリミミズハゼ	志摩市
カマス科	<i>Sphyræna stellata</i> Morishita & Motomura 2020	ホソカマス	志摩市, 尾鷲市
ウシノシタ科	<i>Cynoglossus nigropinnatus</i> Ochiai 1963	ヒレグロゲンコ	熊野灘
ヒメキチジ科	<i>Plectrogenium kamoharai</i> Uesaka, Yamakawa, Matsunuma & Endo 2021	ヨロイヒメキチジ	熊野灘
イトギンボ科	<i>Eulophias spinosior</i> Nakayama, Yamakawa, Takami & Endo 2023	トゲイトギンボ	熊野灘
クロサギ科	<i>Gerres akazakii</i> Iwatsuki, Kimura & Yoshino 2007	セダカダイミョウサギ	志摩市
マツダイ科	<i>Hapalogenys sennin</i> Iwatsuki & Nakabo 2005	ヒゲダイ	志摩市
キントキダイ科	<i>Priacanthus sagittarius</i> Starnes 1988	ミナミキントキ	志摩市
キントキダイ科	<i>Priacanthus zaiserae</i> Starnes & Moyer 1988	キビレキントキ	志摩市

表 3. 三重県産日本初記録種

現在の科の和名	種の学名	種の和名	産地
ウミヘビ科	<i>Cirrhimuraena chinensis</i> Kaup 1856	ゴテンバウミヘビ	津市
ウミヘビ科	<i>Muraenichthys thompsoni</i> Jordan & Richardson 1908	シノミミズアナゴ	英虞湾内座賀島
ウミヘビ科	<i>Scolecenchelys iredalei</i> (Whitley 1927)	サンゴミミズアナゴ	志摩市
ヤリエソ科	<i>Coccorella atrata</i> (Alcock 1894)	ミナミヤリエソ	熊野灘
フサイタチウオ科	<i>Aphyonus gelatinosus</i> Günther 1878	コンニャクオクメウオ	熊野灘
エボシダイ科	<i>Psenes maculatus</i> Lütken 1880	シマハナビラウオ	志摩市
シマガツオ科	<i>Brama pauciradiata</i> Moteki, Fujita & Last 1995	オオバンシマガツオ	熊野灘
アジ科	<i>Decapterus kurroides</i> Bleeker 1855	キツネアカアジ	御浜町, 南伊勢町
オニオコゼ科	<i>Ocosia spinosa</i> Chen 1981	アカハチオコゼ	熊野灘
ウラナイカジカ科	<i>Psychrolutes macrocephalus</i> (Gilchrist 1904)	クマノカジカ	熊野灘
フサアンコウ科	<i>Chaunax apus</i> Lloyd 1909	アカフウセン	熊野灘

ン *Liparis punctulatus* (Tanaka 1916) の新参シノニムであることを示唆し、スナビクニンは三重県でも採集されている。ナカハラタナバタウオは現在でも有効名であるが、タイプ産地が「本種の採集地不明なれど、志摩沿岸又は紀州沿岸にて採集せられたるものならんか」と記され(田中, 1917), 正確なタイプ産地は不明である。このようなことからこの2種については表1から除外した。

ガンギエイ科のゾウカスベ *Dipturus gigas* (Ishiyama 1958) [= *Raja (Tengujei) gigas* Ishiyama 1958] のタイプ産地は熊野灘であるが、原記載に愛知県沖熊野灘と明記され、またこれまでに三重県産標本も知られていないことから、本種を三重県産魚類に含めなかった。

タイプ産地が三重県以外で、バラタイプに三重県産標本が指定された種は表2のとおり15種が知られている。このうちの多くは志摩市で採集され、これらは現在三重大学に保管されている。また、三重県産標本が日本初記録となった種を表3に示した。これらはほとんどが熊野灘で採集されたものである。(木村清志・笹木大地)

三重県立大学および三重大学の魚類標本

三重県立大学水産学部は1950年に設立され、校舎は津市、津駅の西方、現在の三重県立美術館付近にあった(大谷校舎)。魚類学関係では前述の岡田や鈴木、窪田三郎氏、森浩一郎氏が在籍した。彼らが収集した標本(県大標本)には番号が付けられたが、機関名(機関コード)は与えられていなかった。その後三重県立大学は国立大学に移管する方向で進み、1968年国立三重大学の隣接地に新たな校舎が建てられた(江戸橋校舎)。その過程で標本も移動することになり、鈴木の話によると、

大谷校舎にあった多くの魚類標本が廃棄されたとのことである。この廃棄された標本には *Bembrops filodorsalis* Okada & Suzuki 1952, *Pseudorasbora parva uchidai* Okada & Kubota 1957, *Tachysurus ichikawai* (Okada & Kubota 1957) の担名タイプも含まれていた。また県大標本の標本台帳は現存せず、論文等に使用された標本以外は採集地、採集日などのデータは不明である。

国立移管後、鈴木は新たに入手した標本、未登録の標本に対し新たな標本番号を付けた(国大標本)。この標本の一部はその後三重大学生物資源学部附属水産実験所に移管されて、新たにFRLM番号が付与された。大変残念なことに、国大標本についても標本台帳は行方不明で、論文等に記された標本や木村が鈴木から直接聞いた場合を除いて、標本データは不明である。また標本の管理状況から産地に疑問のあるものも含まれている。なお、国大標本にはタイプ標本は含まれていない。

三重大学水産学部附属水産実験所は、1974年にそれまで三重県立大学水産学部附属臨海実験所として使用されていた三重県浜島水産試験場(当時、現三重県水産研究所)の一部を使用して開設された。その後1978年4月に英虞湾の無人島である座賀島に独自の施設としての水産実験所が開所し、同年9月に木村が水産実験所助手として採用された。水産実験所の魚類標本は木村の赴任直後から登録が始まった。最初は鈴木が1970年に現在の南伊勢町や志摩市で採集した標本の整理、登録であった。

三重大学水産学部は1987年に農学部と統合され、新たに生物資源学部が創設された。その後1990年に新しい生物資源学部校舎が完成し、江戸橋校舎に残されていた魚類標本を回収することになった。江戸橋校舎には標本室があったが、その内容はまさに「ゴミ屋敷」のよう

な廃棄物倉庫であった。その中でホルマリン漬けの魚類標本を探し出し、水産実験所に運び登録を行った。この中には岡田の私的な標本や奄美大島調査 (Suzuki, 1964) で得られた標本なども含まれていた。またナミアイトラギス *Bembrops curvature* Okada & Suzuki 1952, ヒメウナギギンポ *Xiphasia matsubarae* Okada & Suzuki 1952, “オワシイトギンポ” *Eulophias owashii* Okada & Suzuki 1954 のホロタイプを見つけ出し、新たに FRLM 番号を付けて登録した。

座賀島の水産実験所は南海トラフ大地震による大津波によって完全に水没する危険性から、鳥羽市に移転することとなった。しかし、新水産実験所には標本室が設置されないことになり、水産実験所の魚類標本は津の三重大学メインキャンパスに移設することになった。標本の搬送は2019年9月から2020年5月にかけて行われ、すべての標本が無事に移送された。これには当時の大学院生物資源学研究科海洋生物学専攻の教員、学生、および附属施設事務職員、技術職員など多数の協力があつた。このようにして、現在約65,000点の標本が三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本として管理されている。

(木村清志)

三重県の漁業

三重県内の主として魚類を対象とした漁業について、伊勢湾域、伊勢湾口～熊野灘域、河川域に分けてその概略を述べる。なお、養殖業や遊漁については説明を省いた。

伊勢湾域 もっとも漁獲量が多い漁業種類は主にカタクチイワシやマイワシを対象として操業する船曳網漁業である。操業範囲はほぼ伊勢湾全域であり、漁獲物の多くが鈴鹿市の白子漁港と津市の白塚漁港に水揚げされる。同漁業ではシラス（主にカタクチイワシの仔稚魚）を対象として操業することもあり、またマダイやクロダイ、スズキなどの水産重要種も混獲される。かつてはイカナゴも主要な漁獲対象種であったが、2016年以降は本種を対象とした操業は行われていない（山本ほか、2023）。

小型底曳網漁業は木曾三川河口から鳥羽市の離島域で操業されている。底曳網はさらに漁具によってまめ板網、桁網など多くの漁業許可に分けられている。主な漁獲対象種はマアナゴ、スズキ、ヒラメ、マダイ、クロダイのほか、ガザミ、シャコ、クルマエビ、サルエビなどの甲殻類、アサリ、ハマグリ、バカガイ、トリガイなどの貝類も重要な漁獲対象物である。伊勢湾における漁業のうち、船曳網と底曳網では比較的多くの魚種が混獲され、その一部は三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本として保管されている。

一本釣りではサワラ、マダイ、スズキ、マアジなどを対象としており特に鳥羽市の離島域で盛んに行われている。刺網は各地で行われているが鳥羽市の離島域を除いて伊勢湾には岩礁域が少ないため、操業の対象となるものは主にヒラメ、カレイ類、マゴチなどの砂泥底に生息する魚類となる。鳥羽市の離島域ではマダイ、メバル類、カサゴなどの岩礁域に多い魚類も漁獲される。また、伊勢湾内ではサワラやシログスを対象とした流し網や漕ぎ刺網も操業されている。このほか、規模の小さい定置網やカゴ漁業、延縄なども伊勢湾内で操業されている。

伊勢湾口～熊野灘域（鳥羽市以南の外海域） 漁獲量が多い漁法は中型巻網と定置網であり、中型巻網では沖合でマサバ、ゴマサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マアジなど小型の回遊性浮魚を対象として操業する。また、カツオやキハダ、ビンナガなどを対象とすることもある。夜間に集魚灯を用いて操業するため、

鉛直回遊を行う深海性魚類を含む多様な魚種が混獲される。本書掲載魚でもこの漁法で採集されたものが多く含まれている。定置網は設置水深によって大型定置網と小型定置網に大別される。大型定置網は志摩市から御浜町の主に外海に設置されており、主な漁獲対象種はブリ、マアジ、マルソウダ、サバ類、シイラなどの回遊魚のほか、イサキやマダイなども多く漁獲される。小型定置網は熊野灘各地の湾内や湾口付近に設置されていることが多く、イワシ類やマアジ、ヤマトカマス、アカカマスなどが漁獲される。多くの標本を三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本に提供いただいた志摩市志摩町御座のやまみ大敷も小型定置網に分類される。定置網漁業はもっとも魚種の多様性の高い漁法であると考えられ、本書掲載種もこの漁法で漁獲されたものが多い。

熊野灘では沖合底曳網が操業されている。現在は三重県と愛知県合わせて数隻のみしか操業していない、主に水深150～400 m程度の海域で操業され、主な漁獲物はニギス、アオメエソ、ムツ、アカムツなどであり、ヒゲナガエビをはじめとする甲殻類も主要な漁獲物である。きわめて多くの魚種が混獲され、本書の掲載種も多い。前述のとおり、熊野灘で操業する本漁法で得られた標本に基づいて多くの新種が記録されている。

鳥羽市以南の沿岸部にはリアス海岸が形成されており、多くの漁村集落が存在する。それぞれの地先では刺網や一本釣り、延縄などが営まれており多くの魚種が水揚げされている。刺網は地区によって対象となる魚種が異なるが、どの地区でもイセエビを対象として操業することが多い。イセエビを対象とした操業では主に岩礁域に生息するブダイやタカノハダイ、カサゴ、カワハギ、メジナなどが主な混獲物であるが、市場に流通しない種も多く混獲される。これに加え、鳥羽市石鏡から志摩市大王町波切ではヒラメやホウボウなど砂底の魚種を対象とすることもあり、志摩市志摩町和具ではワラサ（ブリの小型個体で概ね2～5 kg程度の個体）を対象とした刺網もある。尾鷲湾や七里御浜ではアカカマスやシログスを対象として操業することもあり、県内各地で多様な魚種が水揚げされる。

釣り漁業では鳥羽市の離島域と同様に地先でイサキやマダイを対象としている。さらに黒潮の影響を受ける海域ではカツオやキハダ、ビンナガなどのマグロ類を曳き縄釣りや生きたカタクチイワシを撒き餌に用いる一本釣り（はね釣り）で漁獲している。延縄はクエやアカハタ、トラフグ、カサゴ、アマダイ類、ハモなどを対象として操業されている。

熊野市遊木浦では主にサンマを対象とした棒受網漁業が営まれていたが、近年はサンマの来遊量の減少に伴って操業されていない状況である。これら以外にもカゴ漁業など様々な漁業が沿岸各地で行われている。

河川域 三重県内の河川での漁業は、地域や季節限定的な極めて小規模のみである。シラウオ漁は例年1月から3月にかけて木曾三川下流域から伊勢湾奥部で船曳網によって漁獲され、桑名市赤須賀漁港や木曾岬漁港に水揚げされている。

かつて長良川下流域ではスズキやボラ、メナダを対象に、また冬季にはギンブナやオオキンブナを対象とした刺網漁があり、この地域に出荷されていた。宮川では夏季に刺網で漁獲したアユが主に伊勢市で販売されていた。鳥羽市、志摩市、南伊勢町では春季に遡上するシロウオを四つ手網で漁獲し、地域のスーパーマーケットなどで販売していた。

なお、県内各地の河川下流域から河口にかけては、ニホンウナギの稚魚（シラスウナギ）の採捕も行われている。

(笹木大地・岡田 誠・木村清志)

三重県の魚類相の概観

本書に掲載した魚類は57目274科1,472種となった。これらを淡水魚と海水魚に大別すると、淡水魚は16目32科93種、海水魚は49目246科1,379種となる。淡水魚および海水魚の目別組成を図1、2にそれぞれ示した。なお、目などの高位分類は原則としてVan der Laan et al. (2025) にしたがった。淡水魚ではコイ目 Cypriniformes (42種) が最も種数が多く、次いでハゼ目 Gobiiformes (19種) となる。海水魚ではペルカ目 (新称) Perciformes (197種) が最も多く、次いでニザダイ目 Acanthuriformes (154種)、アジ目 Carangiformes (122種)、ハゼ目 (110種)、フグ目 Tetraodontiformes (77種)、ウナギ目 Anguilliformes (63種)、サバ目 Scombriformes (60種)、ギンボ目 Blenniiformes (59種)、ヨウジウオ目 Syngnathiformes (51種)、ハダカイワシ目 Myctophiformes (47種)、ベラ目 Labriformes (43種) と続く。

海水魚を浅海性魚類、深海性魚類およびその両域に生息する種に分けると、浅海性魚類38目167科977種(70.8%)、浅海－深海性魚類19目45科64種(4.6%)、深海性魚類30目98科338種(24.5%)となる。また浅海性魚類を熱帯－亜熱帯性魚類、温帯性魚類、冷水性魚類に分けると、熱帯－亜熱帯性魚類が32目117科586種(60.0%)、温帯性魚類31目110科371種(38.0%)、冷水性魚類5目11科20種(2.0%)となる。このように、三重県に生息する海産魚類の多くの種が浅海性であるが、深海性種も海水魚全体の約1/4を占めている。浅海性種では熱帯－亜熱帯性魚類が温帯性魚類よりも多く、冷水性種は極めて少ない。(木村清志)

本書について

本書では、三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本室(旧三重大学大学院生物資源学研究科附属水産実験所)に保管されている三重県産の標本、種の同定が可能な三重県内で漁獲あるいは採集された魚類のカラー写真、および三重県産標本を用いた記載論文に基づいて掲載種を決定した。なお、分類体系は前述のとおり原則としてVan der Laan et al. (2025) に、種の和名と学名も同様に本村(2025)にしたがった。各種の分布域については、中坊(2013)および本村(2025)から基本的な情報を得た。各種の写真の数字は三重県におけるその種の珍しさを示したもので、よく見る種を1、ほとんど見ない種を5とした。判定は漁法別の漁獲頻度や我々自身による採集頻度、保存標本の多寡などに基づいた。

本書の写真説明にある機関コードは次のとおりである。BSKU: 高知大学理工学部海洋生物学研究室, FAKU: 京都大学農学部資源生物科学科, FRLM: 三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本室, FUMT: 東京大学総合研究博物館水産動物部門, HUMZ: 北海道大学総合博物館水産科学館, KAUM: 鹿児島大学総合研究博物館, KMNH: 北九州市立自然史・歴史博物館, KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館, MSM: 東海大学海洋科学博物館, NSMT: 国立科学博物館, OMNH: 大阪市立自然史博物館, TAMBL-P: 鳥羽水族館生物学研究室, TOU-AE: 国立台湾海洋大学(台湾), WMNH: 和歌山県立自然博物館。写真の著作権は撮影者が、標本写真についてはその機関コードに示された機関が保有する。ただし、撮影者が明示された標本写真の著作権はその撮影者が保有する。標本個体の大きさは、SL: 標準体長, TL: 全長, あるいは体盤幅: DW で表した。タツノオトシゴ属についてはH: 高さ[頂冠の先端から尾部後端までの距離(Lourie et al., 1999)]を用いた。(木村清志・笹木大地)

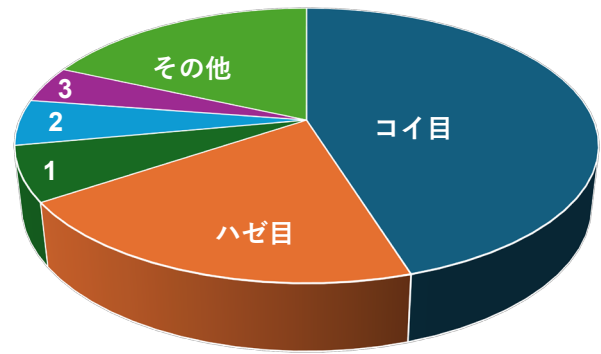


図1. 淡水魚の目別組成。1, サンフィッシュ目(新称); 2, ナマズ目; 3, ペルカ目(新称)。

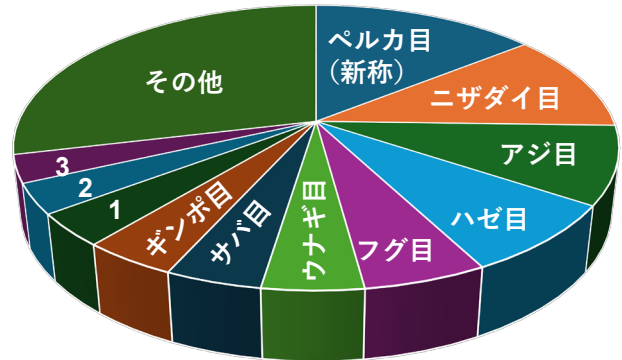


図2. 海水魚の目別組成。1, ヨウジウオ目; 2, ハダカイワシ目; 3, ベラ目。

謝 辞

本書の作成にあたって、以下の漁業者や鮮魚店などの皆さんから、たいへん多くの魚を標本用にご寄付いただいた。やまみ大敷の竹内幹雄氏と竹内幹一氏ほか乗組員諸氏(志摩市志摩町御座)、片田定置株式会社の皆さん(志摩市志摩町片田)、株式会社早田大敷の中井恭佑氏(尾鷲市早田町)、阿田和大敷漁業生産組合の東 諒輔氏ほか乗組員諸氏(御浜町阿田和)、丸友定置の岩崎貴宏氏(尾鷲市)、柱掛定置の濱田浩孝氏(尾鷲市)、松島定置の山下訓右氏(尾鷲市)、三重外湾漁業協同組合の湯浅光太氏、開洋漁業有限会社(南伊勢町賛浦)、清洋水産株式会社(南伊勢町東宮)、長久水産有限会社(南伊勢町奈屋浦)、賛浦大敷株式会社(南伊勢町賛浦)、大征丸の坂口征規氏(南伊勢町宿浦)、株式会社甚昇(紀北町長島)、株式会社島勝大敷(紀北町島勝浦)、三重外湾漁業協同組合、鈴鹿市漁業協同組合、紀南漁業協同組合(紀宝町)、しんちゃんまの山下真次氏(熊野市二木島町)、ヤダヤ商店(志摩市志摩町和具)、岩崎魚店の岩崎 肇氏(尾鷲市)、志摩市志摩町御座および和具の刺網漁業の皆さん、元尾鷲市長の岩田昭人氏、元三重県職員の津本欣吾氏、鳥羽水族館、夢市場…ドルフィンの山本 桂氏(南伊勢町)、三重大学大学院生物資源学学術科の河村功一氏と小川清宏氏、大分マリーンパレス水族館「うみたまご」の星野和夫氏、西岡幸彦氏(志摩市志摩町越賀在住)、三重県職員の岡 謙佑氏、志摩市職員の岡本航一氏、高見明宏氏(名古屋市在住)、中 優氏(伊勢市在住)。

本書では三重大学生物資源学部魚類標本室が管理する標本写真を中心に掲載したが、写真のない種も多く、次の方々から写真の提供を受けた。標本写真は鹿児島大学総合研究博物館本村浩之氏、高知大学理工学部の遠藤広光氏と中山直英氏、北海道大学総合博物館水産科学館の田城文人氏、国立科学博物館の中江雅典氏、神奈川県立生命の星地球博物館の瀬能 宏氏と和田英敏氏、京都大学舞鶴水産実験所の甲斐嘉晃氏、東海大学海洋科学博

物館の富山晋一氏、水産研究・教育機構開発調査センターの岡本 誠氏、大阪市立自然史博物館の波戸岡清峰氏と松井彰子氏、和歌山県立自然博物館の楫 善継氏、国立台湾海洋大学の Yung-Chieh Chiu 氏。漁獲直後の現場での写真は岩田昭人氏、中井恭佑氏、小川清宏氏、津本欣吾氏、岡本航一氏、山下訓右氏、長宗商店の長野 淳氏（熊野市）、三重県職員の佐口智之氏、三重外湾漁業協同組合の久保貴史氏、阿田和大敷の鈴木国司氏（御浜町阿田和）、丸舟水産の久保典彦氏（松阪市）。

標本の同定については、本村浩之氏、中山直英氏、瀬能 宏氏、和田英敏氏、国立科学博物館の松浦啓一氏、宮内庁生物学研究所の林 公義氏、東京大学総合研究博物館の百瀬 樹氏、京都大学舞鶴水産実験所の松沼瑞樹氏、米国ノバ・サウスイースタン大学の Tracey T. Sutton 氏、いおワールドかごしま水族館の中村潤平氏、水産研究・教育機構の福地伊芙映氏、海洋生物環境研究所の吉田朋弘氏、鹿児島大学連合農学研究科の古橋龍星氏の協力を得た。このほか、志摩市の英虞湾内座賀島にあった旧三重大学大学院生物資源学研究科水産実験所のスタッフおよび学生の皆さん、三重大学大学院生物資源学研究科附属練習船勢丸乗組員諸氏、県内各地の漁業者、市場関係者、仲買人などの皆さん。以上の方々に著者一同、心から厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Abdussamad, E. M., T. B. Rethesh, R. Thangaraja, K. K. Bineesh and D. Prakashan. 2015. *Sphyraena arabiansis* a new species of barracuda (family: Sphyraenidae) from the south-west coast of India. *Indian Journal of Fisheries*, 62: 1–6.
- Abe, K., D. Sasaki, J. MacLaine and S. Kimura. 2023. First northwest Pacific record of the apogonid Fish, *Pristiapogon taeniopterus* (Actinopteri: Kurtiformes) from Minamidaito Island, Okinawa Prefecture, Japan. *Species Diversity*, 28: 117–122.
- 饗場空璃・遠藤広光. 2023. ウラシマチョウチョウウオの日本における3例目の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 34: 19–22.
- 藍澤正宏・土居内龍. 2013. トビウオ科. 中坊徹次（編）pp. 655–664, 1928–1933. 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 赤崎正人. 1982. *Centropholis petersii* Hilgendorf リュウグウノヒメ. 岡村 収・尼岡邦夫・三谷文夫（編）, pp. 234–235, 380. 九州—パラオならびに土佐湾の魚類 大陸斜面未利用資源精密調査. 日本水産資源保護協会, 東京.
- Akihiro and K. Meguro. 1988. Two new species of goby of the genus *Astrabe* from Japan. *Japanese Journal of Ichthyology*, 34: 409–420.
- 秋山天汰・川瀬裕司. 2025. 南房総から得られた北限記録のクラカケエビス（イトウダイ科）. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 54: 60–63.
- 尼岡邦夫. 2016. 日本産ヒラメ・カレイ類. 東海大学出版部, 平塚. 229 pp.
- 荒井孝友・佐藤 崇. 2021. 三重県南部から得られた本州初記録のシラヌイハタ. *魚類学雑誌*, 68: 151–155.
- Chow, S., T. Yanagimoto, K. Matsuzaki, K. Kofuji and K. Hoshino. 2019. Little genetic difference between controversial Japanese codling species *Physiculus japonicus* and *P. maximowiczii*. *Aquatic Animals*: 2019: 1–9.
- Fraser, T. H., S. V. Bogorodsky, A. O. Mal and T. J. Alpermann. 2021. Review of the cardinalfishes of the genus *Cercamia* (Percomorpha: Apogonidae) of the Red Sea and Indian Ocean with descriptions of three new species. *Zootaxa*, 5039: 363–394.
- Fricke, R. 2017. *Ocosia sphex*, a new species of waspfish from New Hanover, Papua New Guinea (Teleostei: Tetrarogidae). *Journal of the Ocean Science Foundation*, 28: 1–9.
- Fricke, R. 2020. New record of the Oriental armoured gurnard *Scaliscus orientalis* (Fowler 1938) from La Réunion, southwestern Indian Ocean (Teleostei: Peristediidae). *FishTaxa*, 16: 1–7.
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. Van der Laan (eds). 2025. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. <https://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp> (2025-04-01)
- 藤井栄一・上野輝弥. 1976. 西部北太平洋産オオクチワシ属（ハダカイワシ科）について. *魚類学雑誌*, 22: 227–233.
- Fujiwara, K. and Y. Ikeda. 2024. Description of a new species of *Opistognathus* (Perciformes: Opistognathidae) from the southern Japan Sea. *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-024-00951-7. (also appeared in *Ichthyological Research*, 72: 1–8)
- 藤原恭司・高山真由美・桜井 雄・本村浩之. 2015. 日本におけるハタ科魚類キテンハタ *Epinephelus bleekeri* の記録と分布状況. *タクサ*, 39: 40–46.
- 藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之. 2017. ハタ科イブナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. *魚類学雑誌*, 64: 121–129.
- 深谷真央. 2023. 東京大学総合研究博物館所蔵標本に基づく富山湾からのマエソの確かな記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 31: 31–34.
- Fukui, Y. 2020. A new wrasse, *Novaculops compressus* n. sp. (Perciformes: Labridae), from the western Pacific Ocean. *Zootaxa* 4742: 555–564.
- 古橋龍星・本村浩之. 2022. 奄美大島から得られた琉球列島初記録のマエソ, ならびに本種のユーラシア大陸東部と東南アジアの個体群にみられる形態と色彩の地理的変異. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 25: 4–12.
- 古橋龍星・本村浩之. 2023. ドロヅメエソとツケアゲエソの国内からの追加記録と両種の識別形質および分布の再検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 36: 5–16.
- Furuhashi, R. and H. Motomura. 2025. A new species of *Synodus* from southern Japan, with a redescription of *Synodus usitatus* Cressey 1981 (Teleostei: Aulopiformes: Synodontidae). *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-025-01025-y.
- Gill, A. C., J. J. Pogonoski, G. I. Moore and J. W. Johnson. 2021. Review of Australian species of *Plectranthias* Bleeker and *Selenanthias* Tanaka (Teleostei: Serranidae: Anthiinae), with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 4918: 1–116.
- Grey, M. 1953. Fishes of the family Gempylidae, with records of *Nesiarchus* and *Epinnula* from the Western Atlantic and description of two new subspecies of *Epinnula orientalis*. *Copeia*, 1953: 135–141.
- Hasan, M. E., A. Hasan, P. Béarez, K.-N. Shen, C.-W. Chang, T. T. V. Tran, D. Golani, A. Al-Saboonchi, P. J. A. Siddiqui and J.-D. Durand. 2022. *Planiliza lauvergnii* (Eydoux & Souleyet, 1850), a senior synonym of *Planiliza affinis* (Günther, 1861) with a re-evaluation of keeled back mullets (Mugiliformes: Mugilidae). *Zootaxa*, 5194: 497–518.
- 畑 晴陵. 2020. ワカウナギ. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之（編）, p. 68. 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市.
- 畑 晴陵・伊東正英・山田守彦・高山真由美・本村浩之. 2015. 4 標本に基づく鹿児島県のシマガツオ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 41: 73–93.
- Hata, H. and Y. Kai. 2019. First specimen-based records of the fusilier *Pterocaesio marri* (Perciformes: Caesionidae) from the Sea of Japan. *Biogeography*, 21: 43–47.
- Hata, H., S. Lavoué and H. Motomura. 2021. Taxonomic status of nominal species of the anchovy genus *Stolephorus* previously regarded as synonyms of *Stolephorus commersonnii* Lacepède 1803 and *Stolephorus indicus* (van Hasselt 1823), and descriptions of three new species (Clupeiformes: Engraulidae). *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-020-00792-0. (also appeared in *Ichthyological Research*, 68: 327–372)
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018. カタクチイワシ科魚類タイワンアイノコイワシの志布志湾からの確かな記録. *Nature of Kagoshima*, 44: 333–340.
- Hibino, Y. and E. Agyeman. 2025. First record of *Cirrhimuraena chinensis* (Actinopterygii: Anguilliformes: Ophichthidae) from Ise Bay, central Japan. *Species Diversity*, 30: 17–24.
- Hibino, Y., H.-C. Ho and J. E. McCosker. 2019. A new species of *Muraenichthys* (Anguilliformes: Ophichthidae) from Taiwan, with redescription of *Muraenichthys thompsoni* Jordan & Richardson, 1908. *Zootaxa* 4702: 41–48.

- Hibino, Y., K. Koeda, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2022. List of the specimens of the family Anguillidae (Actinopterygii: Anguilliformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, 129: 137–148.
- 日比野友亮・長野 淳. 2020. 三重県熊野灘で水揚げされた熱帯・亜熱帯性魚類. ニッチェ・ライフ, 7: 28–33.
- Hibino, Y., M. Okada, M. Moteki and S. Kimura. 2014. Redescription of the shortfin pomfret, *Brama pauciradiata*, based on Japanese specimens (Actinopterygii: Perciformes: Bramidae). Species Diversity, 19: 111–115.
- 日比野友亮・田口智也・岩田一夫・古橋龍星. 2019. 宮崎県大淀川水系から得られたオヤニラミ属魚類コウライオヤニラミ. Nature of Kagoshima, 45: 243–248.
- 日比野友亮・田口智也・国松翔太. 2024. 2017年に宮崎県大淀川水系で確認されたオヤニラミ属魚類に関する追補. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 47: 21–25.
- 樋口行雄. 1980. 三重県の淡水魚類相. 三重県立博物館研究報告 自然科学, 2: 69–100.
- 平嶋健太郎・富川 光・平井厚志・内山りゅう. 2018. 銚子川の伏流水から採集された紀伊半島初記録のユウスイミミズハゼ (脊索動物門・ハゼ科). 南紀生物, 60: 178–181.
- Ho, H.-C., H. Endo, C.-L. Lee and T.-W. Chu. 2020. *Bregmaceros anchovia* sp. nov., a new codlet species from the western Pacific Ocean (Gadiformes: Bregmacerotidae). Zootaxa 4801: 559–569.
- Ho, H.-C. and T. Kawai. 2024. Verification of two barracudina species *Lestrolepis japonica* (Tanaka, 1908) and *L. philippina* (Fowler, 1934) (Aulopiformes, Paralepididae). Zookeys, 1220: 79–92.
- Ho, H.-C., H. Motomura, H. Hata and W.-C. Chiang. 2017. Review of the fish genus *Epinnula* Poey (Perciformes: Gempylidae), with description of a new species from the Pacific Ocean. Zootaxa, 4363: 393–408.
- Ho, H.-C., D. G. Smith, J. E. McCosker, Y. Hibino, K.-H. Loh, K. A. Tighe and K.-T. Shao. 2015. Annotated checklist of eels (orders Anguilliformes and Saccopharyngiformes) from Taiwan. Zootaxa, 4060: 140–189.
- Ho, H.-C., D. G. Smith, K. A. Tighe, Y. Hibino and J. E. McCosker. 2018. Checklist of eels of Taiwan (orders Anguilliformes and Saccopharyngiformes): an update. Zootaxa, 4454: 5–17.
- Ho, H.-C., S.-Y. Tsai and H.-H. Li. 2019. The barracudina genera *Lestidium* and *Lestrolepis* of Taiwan, with descriptions of two new species (Aulopiformes: Paralepididae). Zootaxa, 470: 114–139.
- 本田康介・和田英敏・瀬能 宏. 2023. 相模湾から得られたシノビテングハギの北限記録とその分布要因. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 44: 5–9.
- 細谷和海. 2013. コイ科. 中坊徹次 (編), pp. 308–327, 1813–1819, 1948–1949. 日本産魚類検索全種の同定, 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Huang, W.-C., A. Mohapatra, P. T. Thu, H.-M. Chen and T.-Y. Liao. 2020. A review of the genus *Strophidon* (Anguilliformes: Muraenidae), with description of a new species. Journal of Fish Biology, 97: 1462–1480.
- Huang, W.-C., D. G. Smith, K.-H. Loh and T.-Y. Liao. 2021. Two new moray eels of genera *Diaphenchelys* and *Gymnothorax* (Anguilliformes: Muraenidae) from Taiwan and the Philippines. Zoological Studies, 60. DOI 10.6620/ZS.2021.60-24
- 飯野友香・前川隆則・本村浩之. 2022. 奄美群島喜界島沖と沖縄諸島硫黄島島沖から得られたツルギエチオピアの初記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 21: 8–12.
- 飯野友香・本村浩之. 2021. ベラ科魚類 *Pteragogus enneacanthus* キツネオハグロベラ (新称) の標本に基づく日本からの初記録, および国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 9: 21–26.
- 飯野友香・本村浩之. 2022. ベラ科魚類 *Pteragogus flagellifer* イトヒキオハグロベラ (新称) の標本に基づく日本からの初記録, および国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 5–10.
- Iino, T. and H. Motomura. 2022. *Pteragogus turdus*, a new species of wrasse (Perciformes: Labridae) from the Indo-West Pacific Ocean. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-022-00875-0. (also appeared in Ichthyological Research, 70: 207–214)
- 伊藤 玄・北村淳一・野口亮太・長太伸章・古屋康則. 2021. 三重県北勢地域における国内外来タビラ *Acheilognathus tabira* 類の確認と遺伝的特徴. 魚類学雑誌, 68: 47–52.
- 岩坪洸樹. 2017. アナゴ科. 岩坪洸樹・本村浩之 (編), pp. 32–35. 火山を望む寛海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島市・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 岩坪洸樹・本村浩之. 2016. スズメダイ科魚類 *Chromis analis* タンボボスズメダイ (新称) と *C. xouthos* ヒマワリスズメダイの日本における記録と標準和名. タクサ, 41: 40–45.
- ジョン ビョル・大富 潤・本村浩之. 2023. 鹿児島県大隅諸島から得られた北西太平洋初記録のフエダイ科魚類 *Etelis boweni* オオアカムツ (新称). 魚類学雑誌, 70: 95–102.
- Johnson, J. W., J. E. Randall and S. F. Chenoweth. 2001. *Diagramma melanacrum* new species of haemulid fish from Indonesia, Borneo and the Philippines with a generic review. Memoirs of the Queensland Museum, 46: 657–676.
- Kai, Y. and T. Nakabo. 2004. A new species of *Sebastes* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from the Pacific coast of southern Japan. Ichthyological Research, 51: 5–9.
- Kai, Y. and T. Nakabo. 2008. Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Ichthyological Research, 55: 238–259.
- Kai, Y. and T. Nakabo. 2013. Taxonomic review of the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Zootaxa, 3637: 541–560.
- Kai, Y. and F. Tashiro. 2019. *Zenopsis filamentosa* (Zeidae), a new mirror dory from the western Pacific Ocean, with redescription of *Zenopsis nebulosa*. Ichthyol. Res., DOI 10.1007/s10228-018-00679-1. (also appeared in Ichthyological Research, 66: 340–352)
- Kamohara, T., 1938. Gempylidae of Japan. Annotationes Zoologicae Japonenses, 17: 45–50.
- Kanayama, T. 1991. Taxonomy and phylogeny of the family Agonidae (Pisces: Scorpaeniformes). Memoirs of the Faculty of Fisheries Hokkaido University, 38: 1–199.
- 環境省. 2017. 別紙1①海洋生物レッドリスト:【魚類】海洋生物レッドリスト (2017). <http://www.env.go.jp/press/files/jp/106403.pdf>. (参照 2025-5-25)
- 片岡照男・富田靖男. 1981. 三重県の魚類相. 三重県立博物館研究報告 自然科学, 3: 1–110.
- Katayama, M. 1957. Four new species of serranid fishes from Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 6: 153–159.
- Kawaguchi, K. and B. G. Nafpaktitis. 1978. A new lanternfish, *Diaphus kuroshio* (Family Myctophidae), from the Kuroshio Waters off Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 25: 89–91.
- Kawai, T. 2019. Revision of an armored searobin genus *Scalicus* Jordan 1923 (Actinopterygii: Teleostei: Peristediidae) with a single new species. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-019-00691-z. (also appeared in Ichthyological Research, 66: 437–459)
- Kawai, T. 2020. Peristediidae. Pages 370–372. in P. N. Psomadakis, H. Thein, B. C. Russell and M. T. Tun, eds. Field identification guide to the living marine resources of Myanmar. FAO species identification guide for fishery purposes. FAO, Rome and MOALI, Naypyidaw.
- 河野光久・國森拓也・馬場俊典. 2018. 山口県瀬戸内海産魚類目録 (予報). 山口県水産研究センター研究報告, 15: 35–43.
- Kido, K. 1988. Phylogeny of the family Liparidae, with the taxonomy of the species found around Japan. Memoirs of the Faculty of Fisheries Hokkaido University, 35: 125–256.
- 木村清志. 2024. 山本章夫「本草動植物写生図譜」に描かれた三重県未記録の魚類. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 43–47.
- 木村清志・中村行延・有瀧真人・木村文子・森 浩一郎・鈴木 清. 1983. 英虞湾湾口部アマモ場の魚類に関する生態学的研究—I. 魚類相とその季節的变化. 三重大学水産学部研究報告, 10: 71–93.
- Kimura, S., M. Okada, T. Yamashita, I. Taniyama, T. Yodo, M. Hirose, T. Sado and F. Kimura. 1999. Eggs, larvae and juveniles of the fishes occurring in the Nagara River estuary, central Japan. Bulletin of the Faculty of Bioresources, Mie University, 23: 37–62.
- 木村清志・榊原弘陸・津本欣吾・岩槻幸雄. 2008. ベンガルフエダイ *Lutjanus bengalensis* (硬骨魚綱: スズキ目) の三重県からの記録. 三重大学生物資源学部紀要, 35: 65–69.
- Kimura, S. and K. Suzuki. 1980. Fish fauna of Ago Bay and its

- adjacent waters, Mie Prefecture, Japan. Report of the Fisheries Research Laboratory, Mie University, 2: 1–58.
- Kimura, S. and K. Suzuki. 1982. Fish fauna of Ago Bay and its adjacent waters, Mie Prefecture, Japan. Supplement-I. Report of the Fisheries Research Laboratory, Mie University, 3: 1–20.
- Kimura, S. and K. Suzuki. 1990. First record of an evermannellid fish, *Coccorella atrata*, from Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 37: 187–190.
- Kimura, S., S. Takeuchi. and T. Yadome. 2022. Generic revision of the species formerly belonging to the genus *Carangoides* and its related genera (Carangiformes: Carangidae). Ichthyological Research, DOI: 10.1007/s10228-021-00850-1. (also appeared in Ichthyological Research, 69: 433–487)
- 木村清志・津本欣吾・森 浩一郎. 1984. 灯火に蟬集する魚類の種組成とその季節的变化. 三重大学水産学部研究報告, 11: 227–239.
- 木村妙子・木村昭一・角井敬知・波々伯部夏美・倉持利明・藤田敏彦・小川晟人・小林 格・自見直人・岡西政典・山口 悠・広瀬 雅人・吉川晟弘・福地 順・下村通誉・柏尾 翔・上野大輔・藤原恭司・成瀬 貫・櫛田優花・喜瀬浩輝・前川陽一・中村 亨・奥村順哉・田中香月. 2019. 紀伊水道南方海域および熊野灘の深海底生動物相 (第2報). 三重大学フィールド研究・技術年報, 17: 1–29.
- 小枝圭太. 2018a. セトミノカサゴ. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), pp. 151–152. 黒潮あたる鹿児島県の海内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2018b. イシガキフグ. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), p. 491. 黒潮あたる鹿児島県の海内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2020a. ミエハタンボ. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), p. 409. 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2020b. ミエハタンボ. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), p. 544. 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K. 2019. Family Macroramphosidae. In Koeda K. and H.-C. Ho (eds), p. 493. Fishes of Southern Taiwan. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung, Taiwan.
- 小枝圭太. 2022. ニザダイ科 Acanthuridae. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編), pp. 270–274. 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K. and M. Bessho-Uehara. 2024. A review of the genus *Pempheris* (Teleostei, Pempheridae) found in Japan and Taiwan. ZooKeys, 1220: 123–163.
- Koeda, K. and H. Motomura. 2017. A new species of *Pempheris* (Perciformes: Pempheridae) endemic to the Ogasawara Islands, Japan. Ichthyological Research, DOI: 10.1007/s10228-017-0586-3. (also appeared in Ichthyological Research, 65: 21–28)
- Koeda, K. and M. Bessho-Uehara. 2024. A review of the genus *Pempheris* (Teleostei, Pempheridae) found in Japan and Taiwan. ZooKeys, 1220: 123–163.
- Koeda, K. and H. Motomura. 2017. A new species of *Pempheris* (Perciformes: Pempheridae) endemic to the Ogasawara Islands, Japan. Ichthyological Research, DOI: 10.1007/s10228-017-0586-3. (also appeared in Ichthyological Research, 65: 21–28)
- 小枝圭太・吉野哲夫・立原一憲. 2012. 沖縄島から採集されたツマグロハタンボ *Pempheris japonica* の初記録および南限記録とその稚魚の成長過程. 日本生物地理学会会報, 67: 67–73.
- 小泉雄大・田城文人. 2020. 三重県沖で採集された斑紋を欠く日本初記録のフサアンコウ属魚類. 魚類学雑誌, DOI: 10.11369/jji.20-021 (67: 203–207)
- Kokita T. and K. Nohara. 2011. Phylogeography and historical demography of the anadromous fish *Leucopsarion petersii* in relation to geological history and oceanography around the Japanese Archipelago. Molecular Ecology, 20: 143–164.
- Komiya, T., S. Fujita-Yanagibayashi, K. Watanabe. 2013. Multiple colonizations of Lake Biwa by *Sarcocheilichthys* fishes and their population history. Environmental Biology of Fish, 97: 741–755.
- 久保喜計・川端 青・朝井俊亘・花崎勝司・武内啓明・奥村大輝・山野ひとみ・細谷和海. 2012. 熊野灘で操業する沖合底曳網漁で得られた魚類. 近畿大学農学部紀要, 45: 193–239.
- 栗岩 薫・原崎 森・瀬能 宏. 2008. 日本初記録のハタ科魚類シラスイハタ (新称) *Epinephelus bontoides*. 魚類学雑誌, 55: 37–41.
- Kuiter, R. H. 2009. Seahorse and their relatives. Aquatic Photographics, Seaford. 333 pp.
- Last, P. R. and V. Vongpanich. 2004. A new finback catshark *Proscyllium magnificum* (Elasmobranchii: Proscylliidae) from the northeastern Indian Ocean. Phuket Marine Biological Center Research Bulletin, 6: 23–29.
- Lee, S. J., J.-K. Kim, Y. Kai, S. Ikeguchi and T. Nakabo. 2017. Taxonomic review of dwarf species of *Eumicrotremus* (Actinopterygii: Cottoidei: Cyclopteridae) with descriptions of two new species from the western North Pacific. Zootaxa, 4282: 337–349.
- Lin, J., D. G. Smith, K.-T. Shao and H.-M. Chen. 2015. *Saureuchelys gigas* sp. nov., a new nettastomatid eel (Teleostei, Anguilliformes, Nettastomatidae) from the western central Pacific. Zootaxa, 4060: 121–130.
- Lourie, S. A., A. C. J. Vincent and H. J. Hall. 1999. Seahorses: an identification guide to the world's species and their conservation. Project Seahorse, London. x+214 pp.
- Mabuchi, K., H. Senou, and M. Nishida. 2008. Mitochondrial DNA analysis reveals cryptic large-scale invasion of non-native genotypes of common carp (*Cyprinus carpio*) in Japan. Molecular Ecology, 17: 796–809.
- Machida, Y. 1984. 174 *Neobythite stigmosus* Machida sp. nov. 岡村 収・北島忠弘 (編), pp. 250–253. 沖縄舟状海盆及び周辺海域の魚類 I 大陸斜面未利用資源調査. 日本水産資源保護協会, 東京.
- Matsubara, K. 1936a. A new ophidioid fish found in Japan. Zoological Magazine Tokyo, 48: 382–384.
- Matsubara, K. 1936b. A new and a rare ophidioid fishes from Japan. Journal of the Imperial Fisheries Institute Tokyo, 31: 115–118.
- Matsubara, K. 1937. Studies on the deep-sea fishes of Japan. IV. A new mail-cheeked fish, *Hoplichthys fasciatus*, belonging to Hoplichthyidae. Dobutsugaku Zasshi, 49: 264–265.
- Matsubara, K. 1938. Studies on the deep-sea fishes of Japan. VI. On some stomiatoid fishes from Kumano-Nada. Journal of the Imperial Fisheries Institute, 33: 37–52.
- Matsubara, K. 1943. Studies on the scorpaenoid fishes of Japan (II). Transactions Sigenkagaku Kenkyusyo, No. 2: 171–486, Pls. 1–4.
- Matsubara, K. 1953. Revision of the Japanese serranid fish, referable to the genus *Acropoma*. Memoirs of the College of Agriculture Kyoto University, 66: 21–29.
- Matsubara, K. and T. Iwai. 1952. Studies on some Japanese fishes of the family Gempylidae. Pacific Science, 6: 193–212.
- 松原喜代松・岡田彌一郎・鈴木 清・橋本太郎. 1951. V Cyclostomata-Pisces 円口類・魚類. 三重県生物調査委員会 (編), pp. 19–43. 三重県産生物目録. 三重県生物調査委員会, 津.
- Matsubara, K. and H. Takamuki. 1951. The Japanese flatfishes of the genus *Samariscus*. Japanese Journal of Ichthyology, 1: 361–367.
- 松田 清・木村清志. 2023. 山本読書室資料の山本章夫筆魚類図一伊勢国魚類写生図を中心に一. 近世京都, 6: 100–19 (逆丁), 写真1–4.
- 松井彰子・中島 淳. 2020. 大阪府におけるドジョウの在来および外来系統の分布と形態的特徴にもとづく系統判別法の検討. 大阪市立自然史博物館研究報告, 74:1–15.
- Matsunuma, M., S. Ikeguchi and Y. Kai. 2020. First specimen-based records of *Canthidermis macrolepis* (Tetraodontiformes: Balistidae) from the Pacific Ocean and comparisons with *C. maculata*. Species Diversity, 25: 135–144.
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2014. A new species of scorpionfish, *Ebosia saya* (Scorpaenidae: Pteroinae), from the western Indian Ocean and notes on fresh coloration of *Ebosia falcata*. Ichthyological Research, 62: 293–312.
- Matsunuma, M., H. Motomura. 2017. Review of the genus *Banjos* (Perciformes: Banjosidae) with descriptions of two new species and a new subspecies. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-016-0569-9. (also appeared in Ichthyological Research, 64: 265–294)
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2021. Redescriptions of *Dampierosa daruma* Whitley 1932 and *Erosa erosa* (Cuvier in Cuvier and Valenciennes 1829) (Teleostei: Synanceiidae). Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-021-00828-z.

- (also appeared in Ichthyological Research, 69: 149–168)
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2025. フサカサゴ科ミノカサゴ亜科に
 帰属する属の標準和名. Ichthy, Natural History of Fishes of
 Japan, 54: 69–71.
- 松沼瑞樹・野村玲偉・甲斐嘉晃. 2022. 日本産アンコウ科ヒ
 メアンコウ属魚類の標準和名と分類形質. Ichthy, Natural
 History of Fishes of Japan, 21: 47–74.
- Matsunuma, M., F. Tashiro and H. Motomura. 2024. First
 Japanese records of the flounders *Pseudorhombus elevatus* and
P. quinquocellatus (Teleostei: Paralichthyidae) from Okinawa
 Island, Ryukyu Islands. Species Diversity, 29: 1–13.
- Matsunuma, M., K. Uesaka, T. Yamakawa and H. Endo. 2021.
 Review of the Indo-Pacific scorpaenoid genus *Plectrogenium*
 Gilbert 1905 (Plectrogeniidae) with descriptions of eight
 new species. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-
 021-00844-z. (also appeared in Ichthyological Research, 69:
 299–351)
- 松沼瑞樹・上阪健太・山川 武・遠藤広光. 2021. 日本産ヒメ
 キチジ属魚類の標準和名. Ichthy, Natural History of Fishes
 of Japan, 14: 35–38.
- Matsunuma, M., A. Ujihara and H. Endo. 2023. Two new
 species of *Aulotrachichthys* (Beryciformes: Trachichthyidae)
 from the northwestern Pacific. Ichthyological Research, DOI
 10.1007/s10228-023-00912-6. (also appeared in Ichthyological
 Research, 71: 56–82)
- 松浦啓一. 2018. 日本産フグ同定ガイド. 厚生労働科学研究費
 補助金 食品の安全確保推進研究事業. マリントキシンのリ
 スク管理に関する研究. 大城直雅. 平成 27 ~ 29 年度総合研
 究報告書 別添資料 2 (厚生労働科学研究成果データベース
<https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/26844>) (参照 2024-10-
 23)
- Matsuura, K., H. Endo and A. Ujihara. 2021. First Record
 of *Bathypylax omen* Tyler, 1966 from the Western Pacific
 (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Triacanthodidae).
 Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series
 A (Zoology), 47: 37–42.
- Maul, G. W. and G. E. Mead. 1958. *Taractes asper* and
 the systematic relationships of the Steinegeriidae and
 Trachyberycidae. Bulletin of the Museum of Comparative
 Zoology at Harvard College, 119: 393–417.
- 三重県生物調査委員会 (編). 1951. 三重県産生物目録. 三重
 県生物調査委員会, 津. iii+352 pp.
- 三澤 遼・木村克也・水町海斗・服部 努・成松庸二・鈴木勇
 人・森川英祐・時岡駿・永尾次郎・柴田泰宙・遠藤広光・田
 城文人・甲斐嘉晃. 2020. 東北太平洋沖における着底トロ
 ールで採集された魚類の分布に関する新知見. 魚類学雑誌, 67:
 265–286.
- Mishina, T., H. Takeshima, M. Takada, K. Iguchi, C. Zhang,
 Y. Zhao, R. Kawahara-Miki, Y. Hashiguchi, R. Tabata, T.
 Sasaki, M. Nishida, and K. Watanabe. 2021. Interploidy
 gene flow involving the sexual-asexual cycle facilitates the
 diversification of gynogenetic triploid *Carassius* fish. Scientific
 Reports, DOI 10.1038/s41598-021-01754-w.
- 三内悠吾・尾山大知. 2025. 三重県雲出川水系雲出川および
 岐阜県木曽川水系和良川における国内外来魚オオガタスジ
 マドジョウの標本に基づく記録. Ichthy, Natural History of
 Fishes of Japan, 54: 9–12.
- 宮本 圭・和田正昭・田中文也・木村清志・岩槻幸雄. 2011.
 テルメアジ (新称) *Selar boops* の日本からの初記録. タクサ,
 31: 19–22.
- 水町海斗・中山 透・手良村知功・遠藤広光. 2022. 日本初記
 録のイッテンカゴマトウダイ (新称) *Cyttopsis cypho* (マト
 ウダイ目ベニマトウダイ科) とカゴマトウダイ *C. rosea* との
 形態比較. 魚類学雑誌, 69: 33–41.
- Mochizuki, K. and K. Shirakihara. 1983. A new and rare
 apogonid species of the genus *Epigonus* from Japan. Japanese
 Journal of Ichthyology, 30: 199–207.
- Mochizuki, K., Y. Kai, H. Endo and H. Motomura. 2021. Revised
 diagnosis and first Japanese records of the waspfish *Ocosia*
spinosa (Teleostei: Tetraogridae). Species Diversity, 2: 281–287.
- 百瀬 樹. 2024. 本州から得られたヒメハゼ属魚類 4 種の記録
 とその識別形質についての検討. Ichthy, Natural History of
 Fishes of Japan, 45: 19–45.
- 森下悟至・三木涼平・瀬能 宏・本村浩之. 2020. 太平洋初記
 録のカマス科魚類 *Sphyræna arabiansis* ヤシカマス (新称)
 と本種の標徴に関する新知見, および *S. barracuda* オニカマ
 スとの形態比較. 魚類学雑誌, 67: 73–83.
- Morishita, S., R. Miki, H. Wada, M. Itou and H. Motomura.
 2020. Morphological comparisons of *Sphyræna qenie* with
S. putnamae, with a revised key to Indo-Pacific species of
Sphyræna lacking gill rakers (Sphyrænidae). Ichthyological
 Research, DOI 10.1007/s10228-020-00738-6. (also appeared in
 Ichthyological Research, 67: 456–463)
- Morita, K. and M. Kuroki. 2021. Japanese eel at the northern
 edge: glass eel migration into a river on Hokkaido, Japan.
 Ichthyological Research, 68: 217–221.
- 本川雅治・松沼瑞樹・岡部晋也・伊藤 毅・西川完途. 2023.
 教養部・第三高等学校由来動物標本 第一部 脊椎動物標本.
 京都大学総合博物館収蔵資料目録, 10: 1–123.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and
 freshwater fishes of Tanega-shima and Mageshima islands in
 the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new
 records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20:
 1–250.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録され
 た日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 30:
[https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html)
 html. (参照 2025-04-01)
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オ
 ニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*) の分類学的検
 討. 魚類学雑誌, 51: 89–115.
- Motomura, H., M. Aizawa and H. Endo. 2014. *Sebastapistes*
perplexa, a new species of Scorpionfish (Teleostei:
 Scorpaenidae) from Japan. Species Diversity, 19: 133–139.
- Mukai T., T. Suzuki and M. Nishida. 2003. Genetic
 Differentiation of the Brackish Water Goby, *Eutaeniichthys*
gilli (Perciformes, Gobiidae), between the Japanese and the
 Ryukyu Archipelagos. Biogeography 5: 49–53.
- Murase, A., R. Miki, M. Wada, M. Itou, H. Motomura and H.
 Senou. 2018. Review of the Japanese records of an endangered
 grouper, *Epinephelus tukula*, with comments on its population
 status (Teleostei, Serranidae). ZooKeys, 772:153–163.
- Murase, A., K. Nakashima and H. Senou. 2013. Northernmost
 record of a blenny *Parenchelyurus hepburni* (Snyder,
 1908) (Perciformes: Blenniidae) from the Kii Peninsula,
 central Japan, with description of the female coloration.
 Biogeography, 15: 79–83.
- 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索全種の同定, 第 3 版.
 東海大学出版会, 秦野. 1 + 1–864 + xxxii + 865–1747 + xvi +
 1751–2428.
- 中村潤平・伊東正英・本村浩之. 2019. 薩摩半島西岸から得ら
 れた分布北限記録のシラスイハタ. Nature of Kagoshima, 45:
 221–224.
- 中村潤平・本村浩之. 2021. ニホンイトヨリ *Nemipterus*
japonicus の日本からの初めての確かな記録. 魚類学雑誌, 68:
 81–85.
- Nakamura, J. and H. Motomura. 2021. *Epinephelus insularis*, a
 new species of grouper from the western Pacific Ocean, and
 validity of *E. japonicus* (Temminck and Schlegel 1843), a senior
 synonym of *Serranus reevesii* Richardson 1846 and *E. tankahkeei*
 Wu et al. 2020 (Perciformes: Epinephelidae). Ichthyological
 Research, DOI 10.1007/s10228-020-00790-2. (also appeared in
 Ichthyological Research, 68: 263–276)
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた
 日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の
 検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 19: 26–43.
- 中村潤平・永吉健志郎・本村浩之. 2023. 九州南岸から得られ
 た分布北限のマホロバハタ, および本種と日本産類似種 (ホ
 ウセキハタとオオモンハタ) との識別形質. Ichthy, Natural
 History of Fishes of Japan, 30: 11–16.
- Nakaya, K. and J. Kawachi. 2013. A review of the
 genus *Apristurus* (Chondrichthyes: Carcharhiniformes:
 Scyliorhinidae) from Taiwanese waters. Zootaxa, 3752: 130–
 171.
- Nakayama, N. 2020. Grenadiers (Teleostei: Gadiformes:
 Macrouridae) of Japan and adjacent waters, a taxonomic
 monograph. Megataxa, 3: 1–383.
- Nakayama, N., Y. Kimura and H. Endo. 2014. *Neoepinnula*
minetomai, a new species of sackfish from off Kuchierabu-
 jima Island, southern Japan (Actinopterygii: Gempylidae).
 Ichthyological Research, 62: 320–326.
- Nakayama, N., T. Yamakawa, M. Takami and H. Endo. 2023.
 Description of a new deep-water eulophiid fish (Perciformes:
 Zoarcoidei) from Japan. Ichthyology & Herpetology, 111:

- 87-97.
- Nguyen, A. T., K., Tsukamoto and M. P. Lokman. 2018. Composition and distribution of freshwater eels *Anguilla* spp. in Vietnam. *Fisheries Science*, 84: 987-994.
- Nielsen, J. G. 1999. Aphyonidae. Page 1985 in K. E. Carpenter and V. H. Niem, eds. Species identification guide for fisheries purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Batoid fishes, chimeras and bony fishes. Part 1 (Elopidae to Linophrynidae). FAO, Rome.
- Nielsen, J. G. and N. R. Merrett. 2000. Revision of the cosmopolitan deep-sea genus *Bassozetus* (Pisces: Ophidiidae) with two new species. *Galaathea Report* 18: 7-56, pl. 1.
- Ochiai, A. 1963. *Fauna Japonica. Soleina* (Pisces). Biogeographical Society of Japan, Tokyo. vi + 114 pp., 24 pls.
- 大橋慎平・今村 央・矢部 衛. 2013. 日本初記録のソコオクメウオ科魚類コンニャクオクメウオ (新称) *Aphyonus gelatinosus*. 魚類学雑誌, 60: 111-116.
- 太下 蓮・伊藤 玄. 2023. 三重県における国内外来種オヤニラミ (*Coreoperca kawamebari*) 初記録. 伊豆沼・内沼研究報告, 17: 29-37.
- 荻原豪太・遠藤広光. 2011. 鹿児島県志布志沖から得られたアマノガワクラカケトラギス (新称) *Parapercus lutevittata* (ワニギス亜目: トラギス科) の記録. 日本生物地理学会会報, 66: 261-266.
- 荻本啓介・園山貴之・吉田朋弘. 2022. 山口県から得られた2例目のハナイシモチ (テンジクダイ科). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 17: 11-15.
- 荻野 星・松沼瑞樹. 2018. 三重県熊野灘から得られたオオメカゴカマス *Rexea nakamurai* (クロタチカマス科) の記録. *Nature of Kagoshima*, 45: 27-31.
- 荻野 星・田城文人・松沼瑞樹. 2019. 日本海から得られたマルバラシマガツオとチカメエチオピア (シマガツオ科) の記録. 魚類学雑誌, 66: 245-252.
- Okada, Y. and S. S. Kubota. 1957. A new cyprinoid fish, *Pseudorasbora parva uchidai*, sub-sp. nov. found in Japan. *Journal of the Faculty of Science, Hokkaido University*. 13: 99-100.
- Okada, Y. and K. Suzuki. 1952. On two new bembroid fishes from the deep sea off Mie Prefecture with special reference in relation to hitherto known species. *Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie*, 1: 67-74.
- 岡本 誠. 2019. 南鳥島北東方海域から得られたヤセムツ科魚類 *Epigonus fragilis* イブシギンヤセムツ (新称). 魚類学雑誌, 66: 79-86.
- 岡本 誠・前田達郎. 2021. 日向灘から得られた Synagropidae スミクイウオ科 (新称) の2種, *Parascombrops analis* バケスミクイウオと *P. ohei* サラシヒメスミクイウオ (新称) の九州からの初記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 23-29.
- 岡本 誠・宮本 圭. 2022. 沖縄島西沖から得られた日本初記録のヤセムツ科魚類 *Epigonus elongatus* コゲメヤセムツ (新称). 魚類学雑誌, 69: 43-50.
- 岡本 誠・柳下直己・窪田考伸・前田達郎. 2021. 宮崎県延岡市沖の日向灘から得られたスミクイウオ科魚類 *Parascombrops nakayamai* オリーブヒメスミクイウオ (新称) の九州からの初記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 11: 1-5.
- 奥 香葉美・田城文人・河崎誠記・甲斐嘉晃. 2023. 京都府で記録されたアヤメエビス (イトウダイ目イトウダイ科) とアオブダイ (ベラ目ブダイ科). *タクサ*, 54: 42-48.
- Orr, J. W., S. Wildes, Y. Kai, N. Raring, T. Nakabo, O. Katugin and J. Guyon. 2015. Systematics of North Pacific sand lances of the genus *Ammodytes* based on molecular and morphological evidence, with the description of a new species from Japan. *Fishery Bulletin*, 113: 129-156.
- Perdices, A., J. Bohlen, V. Šlechtová, and I. Doadrio. 2016. Molecular evidence for multiple origins of the European spined loaches (Teleostei, Cobitidae). *PLOS ONE*, DOI 10.1371/journal.pone.0144628.
- Poss, S. G. and W. N. Eschmeyer. 1975. The Indo-West Pacific scorpionfish genus *Ocosia* Jordan and Starks (Scorpaenidae, Tetraoginae), with description of three new species. *Matsya*, 1: 1-18.
- Ramsar Sites Information Service. 2023. 志津川湾で確認された動物リスト. https://rsis Ramsar.org/RISApp/files/51374340/documents/JP2358_taxo191023.pdf (参照 2024-2-1)
- Randall, J. E. 2009. Five new Indo-Pacific lizardfishes of the genus *Synodus* (Aulopiformes: Synodontidae). *Zoological Studies*, 48: 402-417.
- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 20: 1-332.
- 六山正孝. 1948. 大和川のはす. 陸水学雑誌, 14: 140.
- Russell, B. C., H. Motomura and R. Furuhashi. 2024. The taxonomic status of the lizardfishes *Saurida elongata* (Temminck and Schlegel 1846) and *S. eso* Jordan and Herre 1907 with comments on the validity of *S. argyrophanes* (Richardson 1846). *Ichthyological Research*, doi.org/10.1007/s10228-024-01004-9
- Sakai, H., A. Iwata, K. Watanabe and A. Goto. 2024. Taxonomic re-examination of Japanese brook lampreys of the genus *Lethenteron* with descriptions of two new species, *Lethenteron satoi* sp. nov. and *Lethenteron hattai* sp. nov., and re-description of *Lethenteron mitsukurii*. *Ichthyological Research*, DOI: 10.1007/s10228-024-00997-7.
- 酒井恭平・依田真里・酒井 猛・望岡典隆. 2023. アナゴ科ニセツマグロアナゴの東シナ海初記録と標本に基づく静岡県初記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 39: 9-13.
- 酒井 卓. 2021. 三重県におけるタニヨウジ (ヨウジウオ科) の初記録. *南紀生物*, 63: 179-181.
- 櫻井慎大・大橋慎平・河合俊郎・伊藤正木. 2014. 東北地方沖太平洋から採集された2種のアナゴ科ギンアナゴ属魚類ニセギンアナゴ *Gnathophis ginanago* およびヒメギンアナゴ *Gnathophis xenicus*. *日本生物地理学会会報*, 69: 117-124.
- 笹木大地・木村清志. 2025. 三重県におけるアカメの標本に基づく確かな記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 69-71.
- 笹木大地・武藤 滉・中村潤平・日比野友亮・木村清志. 2025. 三重県におけるハタ科魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 30-48.
- Santini, F. 2006. A new species of Triacanthodidae (Tetraodontiformes, Acanthomorpha) from the central Pacific. *Cybius*, 30: 195-198.
- 佐藤達也・淀 太我・木村清志. 2010. 三重県五十鈴川の魚類相. 三重大学生物資源学研究科紀要, 36: 39-52.
- Sawai, E., Y. Yamanoue, M. Nyegaard and Y. Sakai. 2017. Redescription of the bump head sunfish *Mola alexandrini* (Ranzani 1839), senior synonym of *Mola ramsayi* (Giglioli 1883), with designation of a neotype for *Mola mola* (Linnaeus 1758) (Tetraodontiformes: Molidae). *Ichthyological Research*, 65: 142-160.
- Schwarzhan, W. W. and A. M. Prokofiev. 2017. Reappraisal of *Synagrops* Günther, 1887 with rehabilitation and revision of *Parascombrops* Alcock, 1889 including description of seven new species and two new genera (Perciformes: Acropomatidae). *Zootaxa*, 4260: 1-74.
- 瀬能 宏. 2018. アカナマダ科, フリソデウオ科, リュウグウノツカイ科. 中坊徹次 (編), pp. 154-155. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館へ精緻な写真と詳しい解説へ. 小学館, 東京.
- 瀬能 宏・御宿昭彦・伊東正英・本村浩之. 2013. 日本初記録のニザダイ科テングハギ属の稀種マサカリテングハギ (新称) とその分布特性. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 42: 91-96.
- 瀬能 宏・吉野雄輔. 2002. 幼魚ガイドブック. TBSブリタニカ, 東京. 135 pp.
- Shan, X., Y. Wu, and B. Kang. 2005. Morphological comparison between Chinese ayu and Japanese ayu and establishment of *Plecoglossus altivelis chinensis* Wu & Shan subsp. nov. *Journal of Ocean University of China*, 4: 61-66.
- Smith, D. G., S. V. Bogorodsky, A. O. Mal and T. J. Alpermann. 2019. Review of the moray eels (Anguilliformes: Muraenidae) of the Red Sea, with description of a new species. *Zootaxa*, 4704: 1-87.
- Smith, D. G. and H.-C. Ho. 2018a. Review of the congrid eel genus *Conger* (Anguilliformes: Congridae) in Taiwan. *Zootaxa*, 4454: 168-185.
- Smith, D. G. and H.-C. Ho. 2018b. The congrid eel genus *Bathycongrus* of Taiwan, with descriptions of three new species (Anguilliformes: Congridae). *Zootaxa*, 4454: 118-146.
- Smith, D. G., H.-C. Ho, J.-F. Huang and Y.-H. Chang. 2018. The congrid eel genus *Ariosoma* in Taiwan (Anguilliformes: Congridae), with description of a new species. *Zootaxa*, 4454: 84-106.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020.

- 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.
- Su, Y., H.-C. Lin and H.-C. Ho. 2022a. *Hoplostethus roseus*, a new roughly fish from western Pacific based on morphology and DNA barcoding (Family Trachichthyidae). Journal of Fish Biology, DOI: 10.1111/jfb.15086. (also appeared in. Journal of Fish Biology, 101: 441–452)
- Su, Y., H.-C. Lin and H.-C. Ho. 2022b. A new cryptic species of the pineapple fish genus *Monocentris* (Family Monacanthidae) from the western Pacific Ocean, with redescription of *M. japonica* (Houttuyn, 1782). Zootaxa, 5189: 180–203.
- Suzuki, H. and S. Kimura. 2023. Taxonomic revision of the genus *Equulites* Fowler 1904 (Acanthuriformes: Leiognathidae). Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-023-00935-z. (also appeared in Ichthyological Research, 71: 213–259)
- Suzuki, K. 1964. Results of Amami-Expedition. 2. Fishes. Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie, 5: 153–188.
- 鈴木 清・片岡照男. 1997. 三重の海産魚類. 鳥羽水族館, 鳥羽. 297 pp.
- 鈴木 清・木村清志. 1977. 長良下流域におけるコイ・フナ類の産卵生態および分布に関する調査報告. 三重大学水産学部河川魚類研究会, 津. 33 pp.
- 鈴木 清・高村直人. 1993. 三重県で採集されたトラギス科魚類キスジトラギス. 鳥羽水族館年報, 4: 57–59.
- Suzuki, K. and O. Tsukada, K. 1994. Adult form of the ragfish, *Ikosteus aenigmaticus* collected from Mie Prefecture, Japan. Annual Report of Toba Aquarium, 5: 45–48.
- Suzuki, K., O. Tsukada, K. Yamamoto and M. Furuta. 1994. Record of four rare fishes from Mie Prefecture, Japan. Annual Report of Toba Aquarium, 5: 39–44.
- Suzuki, K., O. Tsukada, K. Yamamoto and M. Furuta. 1995. Record of four rare stromateoid fishes from Mie Prefecture, Japan. Annual Report of Toba Aquarium, 6: 61–67.
- Tabeta, O., T. Takai and I. Matsui. 1975. Record of the Japanese eel from the Philippines. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries, 41: 641–644.
- 高橋夢加・木村清志. 2019. 三重県尾鷲湾から得られたマサカリテングハギの三重県初記録および日本における3個体目の記録. Nature of Kagoshima, 46: 159–16.
- 高橋夢加・木村清志. 2020. 三重県志摩市から得られたシノビテングハギの三重県初記録および北限記録. Nature of Kagoshima, 46: 415–417.
- 高村直人. 2020. 三重県南伊勢町賢浦定置網で漁獲されたエビスズメ. 鳥羽水族館年報, 16: 41–42.
- 田中茂穂. 1916a. 日本産魚類の四新種. 動物学雑誌, 28: 173–174.
- 田中茂穂. 1916b. カワバタモロコの第二産地. 動物学雑誌, 28: 273.
- 田中茂穂. 1917. 日本産魚類六新種. 動物学雑誌, 29: 198–208.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2014. The validity of *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) and a synopsis of species of *Helcogramma* from the Ryukyu Islands, southern Japan (Perciformes: Tripterygiidae). Species Diversity, 19: 97–110.
- Tea, Y. K., A. C. Gill and H. Senou. 2019. *Chromis tingting*, a new species of damselfish from mesophotic coral ecosystems of southern Japan, with notes on *C. mirationis* Tanaka (Teleostei: Pomacentridae). Zootaxa, 4586: 249–260.
- 富森祐樹・荻野 星・内田喜隆・甲斐嘉晃・松沼瑞樹. 2020. 東シナ海北部および日本海から得られたヒメテングハギ, オニテングハギおよびナガテングハギモドキ (ニザダイ科) の記録. 魚類学雑誌, DOI: 10.11369/jji.19-030. (67: 85–93)
- 富山晋一・高見宗広・福井 篤. 2011. 日本初記録の深海性アシロ科魚類ナンコウフクメンイタチウオ (新称) *Bassozetus glutinosus*. 魚類学雑誌 58: 93–97.
- Tomiyama, S., M. Takami and A. Fukui. 2021. Description of two new species of *Bassozetus* (Ophidiiformes: Ophidiidae) and a redescription of *Bassozetus robustus* Smith and Radcliffe 1913. DOI 10.1007/s10228-021-00809-2. (also appeared in Ichthyological Research 69: 17–30)
- 外山太郎. 2024. 茨城県から得られた北限記録のギンガメアジ属魚類2種 (カスミアジ, オニヒラアジ). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 41: 5–12.
- 塚田 修・鈴木 清. 1998. 三重県で初記録のホテイウオ. 鳥羽水族館年報, 9: 39–41.
- Tyler, J. C. 1968. A monograph on plectognath fishes of the superfamily Triacanthoidea. Academy of Natural Sciences of Philadelphia, Monograph, 16: 1–364.
- Tyler, J. C. 1983. Records of fishes of the family Triacanthodidae (Tetraodontiformes) from the western Indian Ocean off east Africa. J. L. B. Smith Institute of Ichthyology, Special Publication, 31: 1–13.
- Van der Laan, R., R. Fricke, W. N. Eschmeyer (eds). 2025. Eschmeyer's Catalog of Fishes: Classification. Electronic version: <http://www.calacademy.org/scientists/catalog-of-fishes-classification/>. (参照 2025-04-01)
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2020b. Redescription of the circumglobal deepwater scorpionfish *Setarches guentheri* (Setarchidae). Ichthyological Research, 68: 32–54.
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2021. Revision of the resurrected deepwater scorpionfish genus *Lythrichthys* Jordan & Starks 1904 (Setarchidae), with descriptions of two new species. Ichthyological Research, 68: 373–403.
- Wada, H., T. Suzuki, H. Senou and H. Motomura. 2020a. *Plectranthias ryukyuensis*, a new species of perchlet from the Ryukyu Islands, Japan, with a key to the Japanese species of *Plectranthias* (Serranidae: Anthiinae). Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-019-00725-6. (also appeared in Ichthyological Research, 67: 294–307).
- 脇本総志・國島大河. 和歌山県串本町から得られた標本に基づく本州初記録のクロマスケ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 24: 46–49.
- Wang, Z.-M., X.-Y. Kong, L.-M. Huang, S.-Y. Wang, W. Shi and B. Kang. 2014. Morphological and molecular evidence supports the occurrence of a single species of *Zebrias zebrinus* along the coastal waters of China. Acta Oceanologica Sinica, 33: 44–54.
- Wibowo K., K. Koeda, N. Muto and H. Motomura. 2018. *Abudefduf nigrimargo*, a new species of damselfish (Perciformes: Pomacentridae) from Taiwan. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-018-0634-7. (also appeared in Ichthyological Research, 65: 471–481)
- Wibowo K., M. Toda and H. Motomura. 2017. Validity of *Abudefduf caudobimaculatus* Okada and Ikeda 1939 and synonymies of *Abudefduf vaigiensis* (Quoy and Gaimard 1825) (Perciformes: Pomacentridae). Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-017-0594-3. (also appeared in Ichthyological Research, 65: 78–91)
- Wisner, R. L. 1976. The taxonomy and distribution of lanternfishes (Family Myctophidae) of the eastern Pacific Ocean. NORDA Report, 3: 1–299.
- 山本敏博・竹茂愛吾・川内陽平・小柳津瞳・青木一弘. 2023. 令和4 (2022) 年度イカナゴ伊勢・三河湾系群の資源評価. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京. 17 pp.
- Yamasaki, Yo Y., M. Nishida, T. Suzuki, T. Mukai, and K. Watanabe. 2015. Phylogeny, hybridization and life history evolution of *Rhinogobius* gobies in Japan, inferred from multiple nuclear gene sequences. Molecular Phylogenetics and Evolution, 90: 20–33.
- 山下剛司・淀 太我・岡田 誠・廣瀬 充・木村清志. 1997. 三重県熊野地方の河川魚類相. 魚類学雑誌, 44: 107–111.
- 淀 太我・山下剛司・佐土哲也・武村 泉・木村清志. 2001. 三重県志摩地方の河川魚類相. 魚類学雑誌, 48: 27–40.
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2018. Redescription of the Indo-West Pacific cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) *Rhabdamia spilota* Allen & Kuitert 1994 and *R. gracilis* (Bleeker 1856). Zootaxa, 4377: 178–190.
- 吉郷英範. 2018. 広島県から記録されている海産魚類目録. 比和科学博物館研究報告, 59: 127–193.
- 吉郷英範. 2019. 日本におけるユゴイ科魚類 (硬骨魚綱: スズキ目) の分布状況. 比婆科学, 265: 1–14.
- 幸 大二郎・児玉華代・鈴木貴志・遠藤広光. 2021. 土佐湾で採集されたヒイラギ科魚類3種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 9: 11–16.

ヌタウナギ綱 Class Myxini

ヌタウナギ目 Order Myxiniformes

ヌタウナギ科 Family Myxinidae Rafinesque 1815

ヌタウナギ属 Genus *Eptatretus* Cloquet 1819ヌタウナギ
Eptatretus burgeri
(Girard 1855)

台湾, 日本, 韓国. 日本では鹿児島県から秋田県にかけて分布する. 浅海から深海まで生息域は広い. 熊野灘沿岸の定置網や熊野灘の巻網で漁獲されている. 体は茶色で, 背中線の上に淡色の皮褶がある, 外鰓孔は通常6対. (木村清志)



ヌタウナギ *Eptatretus burgeri*, FRLM 36273, 443 mm TL, 熊野灘

ムラサキヌタウナギ
Eptatretus okinoseanus
(Dean 1904)

中国, 台湾, 日本. 日本では沖縄県から福島県, 富山湾に分布する. 深海性. 熊野灘の深海調査で採集された. 体は黒褐色で尾部腹中線の上の皮褶は発達する, 外鰓孔は8対. (木村清志)



ムラサキヌタウナギ *Eptatretus okinoseanus*, FRLM 43028, 672 mm TL, 与論島



志摩市志摩町御座, やまみ大敷, 2010年9月 (木村清志撮影)

ヤツメウナギ綱 Class Petromyzonti

ヤツメウナギ目 Order Petromyzontiformes

ヤツメウナギ科 Family Petromyzontidae Bonaparte 1981

カワヤツメ属 Genus *Lethenteron* Creaser & Hubbs 1922

ミナミスナヤツメ

Lethenteron hattai

Iwata, Sakai & Goto 2024

九州北部（長崎県，佐賀県，福岡県），四国，秋田県以南の本州および朝鮮半島南部に分布する．鰓孔間の下方に感丘群があることで日本産同属他種と区別できる（Sakai et al., 2024）．河川上流域に生息する．環境省絶滅危惧Ⅱ類．

（木村清志）

3



ミナミスナヤツメ *Lethenteron hattai*, 三重県

上 成魚, FRLM 32556, 105 mm TL

中 成魚, FRLM 21863, 103 mm TL

下 アンモシーテス幼生, FRLM 33613, 82 mm TL

キタスナヤツメ

Lethenteron mitsukurii

(Hatta 1901)

日本固有種．滋賀県，三重県北中部以北の本州，北海道に分布する．鰓孔間の下方に感丘群がないことで，分布域が重複するミナミスナヤツメ *Lethenteron hattai* Iwata, Sakai & Goto 2024 と区別できる．（Sakai et al., 2024）．河川上流域．環境省絶滅危惧Ⅱ類．

（木村清志）

4



キタスナヤツメ *Lethenteron mitsukurii*

上 成魚, FRLM 36959, 124 mm TL, 滋賀県

下 アンモシーテス幼生, FRLM 52789, 55 mm TL, 三重県



英虞湾内座賀島，旧水産実験所，志摩市志摩町越賀の対岸から望む，2019 年 12 月（大島夢加撮影）

板鰐綱 Class Elasmobranchii

カグラザメ目 Order Hexanchiformes

カグラザメ科 Family Hexanchidae Gray 1851

エドアブラザメ属 Genus *Heptranchias* Rafinesque 1810

エドアブラザメ *Heptranchias perlo* (Bonnaterre 1788)

東部北太平洋を除く全世界の熱帯域から温帯域。日本では琉球列島から北海道南部に分布する。三重県では熊野灘で漁獲された。鰐孔は7対。吻は比較的短く先端は尖る。

(木村清志)



エドアブラザメ *Heptranchias perlo*, FRLM 45498, 837 mm TL, 南伊勢町沖熊野灘

エビスザメ属 Genus *Notorynchus* Ayres 1855

エビスザメ *Notorynchus cepedianus* (Péron 1807)

北大西洋と地中海を除く全世界の温帯域。日本では高知県・山口県から北海道に分布する。沿岸性。三重県では南伊勢町で漁獲された(高村, 2020)。鰐孔は7対。吻は短く先端は丸い。

(木村清志)



エビスザメ *Notorynchus cepedianus*, HUMZ 227761, 1230 mm TL, 北海道

ネコザメ目 Order Heterodontiformes

ネコザメ科 Family Heterodontidae Gray 1851

ネコザメ属 Genus *Heterodontus* Blainville 1816

ネコザメ *Heterodontus japonicus* Miklouho-Maclay & Macleay 1884

中国、台湾、日本、韓国。日本では鹿児島県から岩手県に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網や刺網などで漁獲される。本種は体に10前後のやや不明瞭な暗色横帯があることで日本産同属のシマネコザメ *Heterodontus zebra* (Gray 1831) と区別できる。

(木村清志)



ネコザメ *Heterodontus japonicus*, FRLM 36726, 224 mm TL, 尾鷲市

テンジクザメ目 Order Orectolobiformes

ジンベエザメ科 Family Rhincodontidae Müller & Henle 1841

ジンベエザメ属 Genus *Rhincodon* Smith 1829

ジンベエザメ
Rhincodon typus
Smith 1828

世界の熱帯域から暖海域。日本では琉球列島から青森県に分布する。表層から深海まで生息する。口が頭部前端に開く。写真は御浜町阿田和の定置網に入網したもの。

(木村清志)



ジンベエザメ *Rhincodon typus*
御浜町阿田和 (笹木大地撮影)

ネズミザメ目 Order Lamniformes

ミツクリザメ科 Family Mitsukurinidae Jordan 1898

ミツクリザメ属 Genus *Mitsukurina* Jordan 1898

ミツクリザメ
Mitsukurina owstoni
Jordan 1898

世界中の熱帯域から温帯域。日本では九州南岸から茨城県、富山県に分布する。深海性。三重県では熊野灘の水深 280 m から採集された。吻が長くへら状、開口時上顎が飛び出す。

(木村清志)



ミツクリザメ *Mitsukurina owstoni*, FRLM 35308, 1169 mm TL, 熊野灘

メガマウスザメ科 Family Megachasmidae Taylor, Compagno & Struhsaker 1983

メガマウスザメ属 Genus *Megachasma* Taylor, Compagno & Struhsaker 1983

メガマウスザメ
Megachasma pelagios
Taylor, Compagno &
Struhsaker 1983

世界中の熱帯から温帯。日本では福岡県、高知県、三重県、静岡県、神奈川県、東京都、茨城県で記録されている。表層性。口は非常に大きく、頭部先端に開く。写真は熊野灘で漁獲されたもの。

(木村清志)



メガマウスザメ *Megachasma pelagios*, 熊野灘 (木村清志撮影)



オナガザメ科 Family Alopiidae Bonaparte 1835

オナガザメ属 Genus *Alopias* Rafinesque 1810

ニタリ *Alopias pelagicus* Nakamura 1935

全世界の熱帯域, 温帯域. 日本では琉球列島から本州に分布する. 表層性. 三重県では熊野灘の巻網で漁獲された. マオナガ *Alopias vulpinus* (Bonnaterre 1788) によく類似するが, 胸鰭上方の体側面に白色域がないことで区別できる. (木村清志)

ニタリ *Alopias pelagicus*, FRLM 49148
1100 mm TL, 熊野灘

3



ウバザメ科 Family Cetorhinidae Gill 1861

ウバザメ属 Genus *Cetorhinus* Blainville 1816

ウバザメ *Cetorhinus maximus* (Gunnerus 1765)

太平洋, 大西洋の温帯-寒帯域, アフリカ南部 (インド洋はクワズールナタール州南部まで), オーストラリア南部. 外洋, 表層性. 鰓孔が非常に大きく, 体背面から腹面まで達する. 熊野灘にはやや稀に出現する. (木村清志)

4



ウバザメ *Cetorhinus maximus*, 尾鷲市早田町 (中井恭佑氏撮影)

ネズミザメ科 Family Lamnidae Bonaparte 1835

ホホジロザメ属 Genus *Carcharodon* Smith 1838

ホホジロザメ *Carcharodon carcharias* (Linnaeus 1758)

世界中の熱帯から温帯. 日本では琉球列島から北海道. 浅海性. 尾鰭下葉は長く, 両顎歯は二等辺三角形で強い鋸歯縁をもつ. 写真は御浜町阿田和の定置網に入網したもの. (木村清志)

5



ホホジロザメ *Carcharodon carcharias*, 御浜町阿田和 (鈴木国司氏撮影)

アオザメ属 Genus *Isurus* Rafinesque 1810

アオザメ *Isurus oxyrinchus* Rafinesque 1810

世界中の熱帯から温帯。日本では九州から北海道。三重県では熊野灘沿岸の定置網や巻網で漁獲されている。尾鰭下葉は長く、胸鰭は頭長よりも短い。両顎歯は細長く、単尖頭で鋸歯縁がない。(木村清志)



アオザメ *Isurus oxyrinchus*, FRLM 39964, 652 mm TL, 志摩市志摩町片田

ネズミザメ属 Genus *Lamna* Cuvier 1816

ネズミザメ *Lamna ditropis* Hubbs & Follett 1947

台湾からベーリング海、バハカリフォルニアまでの北米西岸。日本では九州北岸以北の日本海沿岸、三重県以北の太平洋沿岸、および北海道に分布する。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。両顎歯は主尖頭の両側に側尖頭をもつ3尖頭であること、尾柄隆起縁は2本あることが特徴。(木村清志)



ネズミザメ *Lamna ditropis*, 南伊勢町賛浦 (岡田 誠撮影)

メジロザメ目 Order Carcharhiniformes

トラザメ亜目 (新称) Suborder Scyliorhinoidei

トラザメ科 Family Scyliorhinidae Gill 1862

ナヌカザメ属 Genus *Cephaloscyllium* Gill 1862

ナヌカザメ *Cephaloscyllium umbratile* Jordan & Fowler 1903

マレーシアから日本、韓国の北西太平洋。浅海域から深海まで生息する。日本では琉球列島から北海道に分布する。三重県では熊野灘の底曳網や釣りで漁獲される。体の斑紋は輪郭の不明瞭な暗色横帯と暗色円斑からなる。腹面は淡色。(木村清志)



ナヌカザメ *Cephaloscyllium umbratile*, FRLM 29142, 756 mm TL, 志摩市志摩町和具沖

メジロザメ亜目 Suborder Carcharhinoidei

ヘラザメ科 Family Pentanchidae Smith 1912

ヘラザメ属 Genus *Apristurus* Garman 1913

ヘラザメ *Apristurus platyrhynchus* (Tanaka 1909)

ボルネオ島からフィリピン, 日本, オーストラリアの西太平洋. 日本では奄美群島から千葉県に分布する. 深海性. 三重県では熊野灘の底曳網や釣りで漁獲される. 本種は第1背鰭始部が腹鰭基底後端と臀鰭始部の中間点より後方にあることで, 第1背鰭始部がこの中間点より前方にあ



ヘラザメ *Apristurus platyrhynchus*, FRLM 27652, 1040 mm TL, 熊野灘

るリュウキュウヘラザメ *Apristurus macrostomus* Chu, Meng & Li 1985 と 2013). 他の日本産ヘラザメ属魚類は第1背鰭始部が腹鰭基底上に位置する. (木村清志)

ニホンヤモリザメ属 Genus *Galeus* Rafinesque 1810

ニホンヤモリザメ *Galeus nipponensis* Nakaya 1975

台湾および日本. 琉球列島から東北太平洋岸に分布する. 深海性. 三重県では熊野灘の底曳網で漁獲される. 尾柄や吻は長く, 臀鰭基底後端から尾鰭始部(腹方)および鼻孔前



ニホンヤモリザメ *Galeus nipponensis*, FRLM 45684, 254 mm TL, 熊野灘

吻長はどちらも眼径より長い. (木村清志)

タイワンザメ科 Family Proscylliidae Fowler 1941

タイワンザメ属 Genus *Proscyllium* Hilgendorf 1904

タイワンザメ *Proscyllium habereri* Hilgendorf 1904

ベトナムから日本, 韓国, ジャワ島西部. 日本では沖縄県から東京都に分布する. 浅海域から深海に生息する. 三重県では志摩市志摩町沖熊野灘の延縄で漁獲された. 第2背



タイワンザメ *Proscyllium habereri*, FRLM 44721, 586 mm TL, 志摩市志摩町和具沖

鰭始部は臀鰭始部より後方に位置する. 尾柄欠刻はない. ヒョウザメ *Proscyllium venustum* (Tanaka 1912) は本種の新参シノニム (Last and Vongpanich, 2014). (木村清志)

ドチザメ科 Family Triakidae Gray 1851

エイラクブカ属 Genus *Hemitriakis* Herre 1923

エイラクブカ *Hemitriakis japonica* (Müller & Henle 1839)

中国, 台湾, 日本, 韓国. 日本では沖縄県から千葉県に分布する. 浅海域から深海まで生息する. 両顎歯は主尖頭の片側に数個の側尖頭をもつ. 第1背鰭始部は胸鰭内角よりも後方に位置する. 環境省準絶滅危惧. (木村清志)



エイラクブカ *Hemitriakis japonica*, FRLM 57413, 910 mm TL, 三重県

ホシザメ属 Genus *Mustelus* Linck 1790

シロザメ *Mustelus griseus* Pietschmann 1908

中国, 台湾, 日本, 韓国. 日本では琉球列島から本州に分布する. 通常浅海域に生息する. 両顎歯は扁平で敷石状, 体はほぼ一様に淡褐色, 腹面は淡色. 環境省準絶滅危惧.

(木村清志)



シロザメ *Mustelus griseus*, FRLM 56613, 994 mm TL, 三重県

ホシザメ *Mustelus manazo* Bleeker 1854

アフリカ東岸から日本, 韓国, オーストラリア, ニューカレドニアに至るインド-西太平洋. 日本では琉球列島から北海道までの広範囲に分布する. 通常浅海域に生息する. 両顎歯は扁平で敷石状, 体背側面は褐色で白点が並ぶ, 腹面は淡色. 環境省準絶滅危惧.

(木村清志)



ホシザメ *Mustelus manazo*, 三重県

上 FRLM 35071, 754 mm TL

下 FRLM 26541, 407 mm TL

ドチザメ属 Genus *Triakis* Müller & Henle 1838

ドチザメ *Triakis scyllium* Müller & Henle 1839

中国, 台湾, 日本, 韓国. 日本では九州から北海道南部に分布する. 浅海性, 内湾性. 三重県では熊野灘沿岸の刺網や定置網でよく漁獲される. 伊勢湾内にも分布する. 両顎歯は主尖頭の両側に側尖頭をもつ. 体背面は褐色で不規則な暗色斑や円斑がある. 腹面は淡色. (木村清志)



ドチザメ *Triakis scyllium*, FRLM 36812, 398 mm TL, 志摩市志摩町御座

メジロザメ科 Family Carcharhinidae Jordan & Evermann 1896

メジロザメ属 Genus *Carcharhinus* Blainville 1816

クロヘリメジロザメ *Carcharhinus brachyurus* (Günther 1870)

全世界の熱帯から暖海域. 日本では九州から東北地方まで分布する. 沿岸性. 三重県では熊野灘の巻網で漁獲された. 本種は体や鰭に顕著な斑紋はなく, 第2背鰭始部は臀鰭始部のわずかに後方に位置する.

(木村清志)



クロヘリメジロザメ *Carcharhinus brachyurus*, FRLM 40510, 892 mm TL, 熊野灘

ハナザメ
Carcharhinus brevipinna
(Valenciennes 1839)

東太平洋を除くインド洋，太平洋，大西洋の熱帯から暖海域。日本では琉球列島から静岡県に分布する。沿岸性。三重県では熊野灘の巻網および御浜町阿田和の定置網で漁獲された。本種は吻端が尖り，第1背鰭始部は胸鰭内角よりもやや後方，第2背鰭始部と臀鰭始部はほぼ同位置にある。全長80-100 cmになると，腹鰭を除く各鰭の先端が黒くなる。

(木村清志)

4



ハナザメ *Carcharhinus brevipinna*

上 FRLM 40509, 942 mm TL, 熊野灘

下 FRLM 65818, 790 mm TL, 御浜町阿田和

カマストガリザメ
Carcharhinus limbatus
(Valenciennes 1839)

全世界の熱帯から暖海域。汽水域にも出現する。日本では琉球列島から九州沿岸。三重県，三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。第1背鰭始部は胸鰭内角のほぼ直上かやや前方，第2背鰭始部は臀鰭始部のやや前方に位置する。幼魚ではすべての鰭の先端が黒い。

(木村清志)

5



カマストガリザメ *Carcharhinus limbatus*, FRLM 51058, 770 mm TL, 南伊勢町賛浦

ドタブカ
Carcharhinus obscurus
(Lesueur 1818)

全世界の熱帯から亜熱帯。汽水域にも出現する。日本では琉球列島から千葉県に分布する。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。第1背鰭始部は胸鰭内角のほぼ直上，第2背鰭始部は臀鰭始部よりやや前方に位置する。尾鰭下葉後端や胸鰭腹面は暗色。

(木村清志)

3



ドタブカ *Carcharhinus obscurus*, FRLM 40508, 996 mm TL, 熊野灘

メジロザメ
Carcharhinus plumbeus
(Nardo 1827)

全世界の熱帯から温帯に生息し，日本では北海道から沖縄まで分布する。三重県では御浜町阿田和の定置網に入網した1標本が得られている。本種は第1背鰭起部が胸鰭基底後端のほぼ直上か，わずかに前方に位置することや第1背鰭が大きいことが特徴。

(笹木大地)

5



メジロザメ *Carcharhinus plumbeus*, FRLM 65813, 788 mm TL, 御浜町阿田和

スミツキザメ
Carcharhinus tjtjt
(Bleeker 1852)

東インド洋から西太平洋，北限は韓国南部．日本では琉球列島から三重県，小笠原諸島に分布する．浅海性．三重県では志摩市志摩町沖の熊野灘で釣りによって採集された．第2背鰭先端のみが黒いのが特徴．

(木村清志)



スミツキザメ *Carcharhinus tjtjt*, KAUM-I. 71258, 629 mm TL, 鹿児島県

ヨシキリザメ属 Genus *Prionace* Cantor 1849

ヨシキリザメ
Prionace glauca
(Linnaeus 1758)

全世界の熱帯から冷水域．日本では琉球列島から北海道に分布する．三重県では熊野灘の巻網で漁獲される．胸鰭は長く，体高より大．第1背鰭基底は胸鰭始部よりも腹鰭始部に近い．成魚は弱い尾柄隆起縁がある．

(木村清志)



ヨシキリザメ *Prionace glauca*, 熊野灘

上 FRLM 50082, 1326 mm TL

下 FRLM 44523, 457 mm TL

イタチザメ科 Family Galeocerdonidae Poey 1875

イタチザメ属 Genus *Galeocerdo* Müller & Henle 1837

イタチザメ
Galeocerdo cuvier
(Péron & Lesueur 1822)

全世界の熱帯から亜寒帯．海域から汽水域，淡水域にも出現する．日本では琉球列島から青森県に分布する．三重県では熊野灘の定置網や釣りで漁獲された．噴水口をもつ．成魚には尾柄隆起縁がある．体背側面には幅狭く短い暗色横帯をもつ．第1背鰭に暗色縦帯がある．極めて凶暴で人を襲う．

(木村清志)



イタチザメ *Galeocerdo cuvier*, FRLM 39965, 873 mm TL, 志摩市志摩町和具沖

シュモクザメ科 Family Sphyrnidae Bonaparte 1840

シュモクザメ属 Genus *Sphyrna* Rafinesque 1810

アカシュモクザメ *Sphyrna lewini* (Griffith & Smith 1834)

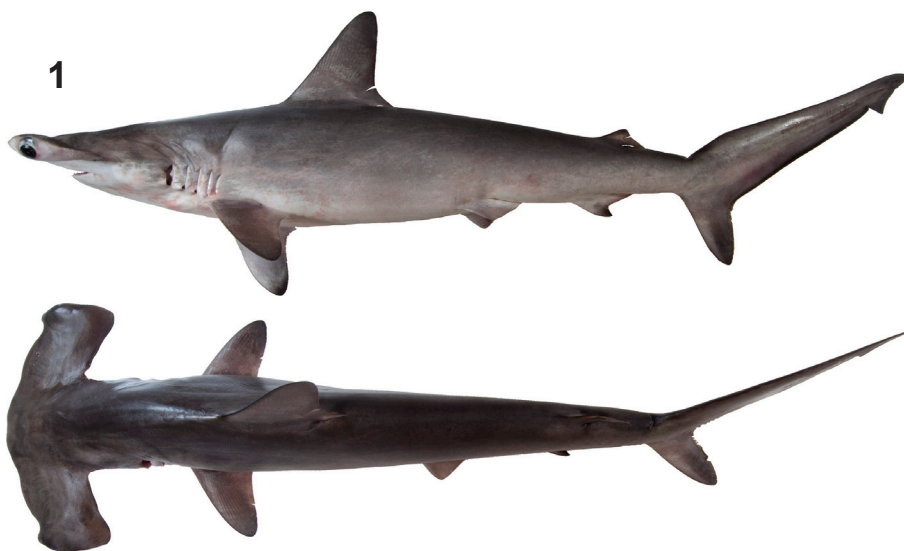
全世界の熱帯域から暖海域。日本では琉球列島から北海道に分布する。通常表層に生息する。三重県では熊野灘の定置網で漁獲された。頭部前縁は丸く弧を描き、中央は明瞭に凹む。
(木村清志)



アカシュモクザメ *Sphyrna lewini*, 熊野灘 (岡田 誠撮影)

シロシュモクザメ *Sphyrna zygaena* (Linnaeus 1758)

全世界の熱帯域から温帯域。海域から汽水域、淡水域にも出現する。日本では琉球列島から北海道に分布する。三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲される。頭部前縁は丸く弧を描き、中央はほとんど凹まず、ほぼ直線状。アカシュモクザメ *Sphyrna lewini* (Griffith & Smith 1834) よりも出現数は多い。
(木村清志)



シロシュモクザメ *Sphyrna zygaena*, FRLM 44090, 815 mm TL, 志摩市志摩町和具

ツノザメ目 Order Squaliformes

ヨロイザメ科 Family Dalatiidae Gray 1851

ヨロイザメ属 Genus *Dalatias* Rafinesque 1810

ヨロイザメ *Dalatias licha* (Bonnaterre 1788)

全世界の熱帯域、温帯域。日本では沖縄県から茨城県に分布する。深海性。三重県では熊野灘の水深 280 m の刺網で採集された。第 1 背鰭はほぼ体の中央に位置し、その前縁には棘がない。
(木村清志)



ヨロイザメ *Dalatias licha*, KAUM-I. 125082, 441 mm TL, 台湾



御浜町, 阿田和定置網, 2024 年 4 月
(笹木大地撮影)

ダルマザメ属 Genus *Isistius* Gill 1865

ダルマザメ *Isistius brasiliensis* (Quoy & Gaimard 1824)

全世界の熱帯域，温帯域．日本では沖縄県から茨城県に分布するほか，千島列島南部太平洋沖での記録がある．生息域は表層から深海に達する．三重県では熊野灘の巻網で採集された．第1背鰭は体の後方に位



ダルマザメ *Isistius brasiliensis*, FRLM 57216, 254 mm TL, 熊野灘

置する．鰓孔付近の腹側面，腹面に濃褐色帯がある．（木村清志）

ツラナガコビトザメ属 Genus *Squaliolus* Smith & Radcliffe 1912

ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae* Teng 1959

南東インド洋，西太平洋．日本では大隅諸島から伊豆諸島に分布．生息域は表層から深海に達する．三重県では熊野灘の巻網や釣りで採集された．第1背鰭はほぼ体の中央に位置し，その前縁には棘がある．上唇



ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae*, FRLM 56010, 252 mm TL, 志摩市志摩町和具沖に肉質突起がある．眼窩の上縁はわずかに逆V状．（木村清志）

オオメコビトザメ *Squaliolus laticaudus* Smith & Radcliffe 1912

東太平洋を除く全世界の熱帯域，温帯域．日本では大隅諸島から伊豆諸島に分布．生息域は表層から深海に達する．三重県では熊野灘の巻網で漁獲された．第1背鰭はほぼ体の中央に位置し，その前縁には棘がある．上唇に肉質突起がなく，眼窩の



オオメコビトザメ *Squaliolus laticaudus*, FRLM 47898, 208 mm TL, 熊野灘

上縁はほぼ直線状か弱く弧を描く．（木村清志）

カラスザメ科 Family Etmopteridae Fowler 1934

カラスザメ属 Genus *Etmopterus* Rafinesque 1810

ホソフジクジラ *Etmopterus brachyurus* Smith & Radcliffe 1912

東インド洋－西太平洋のオーストラリア，フィリピンから日本に分布する．日本では沖縄諸島から千葉県．深海性．三重県では熊野灘の底曳網や深海延縄，釣りで漁獲される．熊野灘での生息数は本属で最多．体側の鱗は列をなす．第2背鰭上に鱗を



ホソフジクジラ *Etmopterus brachyurus*, FRLM 54651, 393 mm TL, 志摩市沖熊野灘

もつ．腹鰭上方にある黒色斑後分枝は第2背鰭棘より前方に始まり，前分枝より長い．後分枝は細く先端は

尖る．尾鰭下葉始部の黒色斑は後方に細く伸び，尾鰭上の黒色線よりも長い．（木村清志）

フジクジラ *Etmopterus lucifer* Jordan & Snyder 1902

東インド洋－西太平洋のオーストラリアからニュージーランド，フィリピンから日本に分布する．日本では沖縄諸島から北海道．深海性．三重県では熊野灘の深海延縄で漁獲さ



フジクジラ *Etmopterus lucifer*, KAUM-I. 157258, 409 mm TL, 熊本県

れた．体側の鱗は列をなす．腹鰭上方にある黒色斑後分枝は第2背鰭棘

下に始まり，前分枝より短い．（木村清志）

ヒレタカフジクジラ
Etmopterus molleri
(Whitley 1939)

西太平洋のオーストラリア東部からニュージーランド、沖縄諸島から三浦半島に分布。深海性。三重県では熊野灘の底曳網や釣りで採集された。体側の鱗は列をなす。第2背鰭



ヒレタカフジクジラ *Etmopterus molleri*, FRLM 55731, 365 mm TL, 志摩市阿児町安乗沖

上に鱗がない。腹鰭上方にある黒色斑後分枝は第2背鰭始部より前方に始まり、前分枝より長い。後分枝は

細く先端は尖る。尾鰭下葉始部から後方に伸びる黒色斑は太く、尾鰭上の黒色線と同長か短い。(木村清志)

カラスザメ
Etmopterus pusillus
(Lowe 1839)

世界中の主として温帯域に分布する。日本では沖縄県から北海道に分布。表層から深海域まで分布する。三重県では熊野灘の深海延縄や底曳



カラスザメ *Etmopterus pusillus*, FRLM 35265, 205 mm TL, 熊野灘

網で採集される。体側の鱗は列をなさず、棘をもたない。(木村清志)

ワニグチツノザメ属 Genus *Trigonognathus* Mochizuki & Ohe 1990

ワニグチツノザメ
Trigonognathus kabeyai
Mochizuki & Ohe 1990

台湾、九州西岸、土佐湾、熊野灘、駿河湾、小笠原諸島、およびハワイ諸島に分布する。表層から深海に分布する。三重県では巻網で採集され



ワニグチツノザメ *Trigonognathus kabeyai*, FRLM 55453, 252 mm TL, 熊野灘

た。吻は短く、下顎の先端は尖る。第1背鰭基底は第2背鰭基底より短

い。(木村清志)

オンデンザメ科 Family Somniosidae Jordan 1888

ユメザメ属 Genus *Centroscyrnus*
Barbosa du Bocage & de Brito Capello 1864

ユメザメ
Centroscyrnus owstonii
Garman 1906

世界中の熱帯域から暖海域。日本では奄美群島から千葉県に分布する。三重県では熊野灘の深海延縄で漁獲された。下顎歯の先端は側方に向く。吻は長く、口前吻長は口角幅とほぼ同長で、眼の後縁から第1鰓孔前縁の距離とほぼ同長かより長い。第1背鰭は第2背鰭より小さい。体表は鱗で覆われるが、滑らかな感



ユメザメ *Centroscyrnus owstonii*, FRLM 27661, 815 mm TL, 熊野灘

触。体はほぼ一様に黒く、眼は緑色。(木村清志・岡田 誠)

ビロウドザメ属 Genus *Zameus* Jordan & Fowler 1903

ビロウドザメ
Zameus squamulosus
(Günther 1877)

全世界の熱帯域、温帯域。日本では琉球列島から北海道まで分布している。深海性。三重県では熊野灘の深海延縄で漁獲された。下顎歯の先端は上方に向く。口前吻長は口角幅



ビロウドザメ *Zameus squamulosus*, KAUM-I. 51392, 484 mm TL, 与論島

とほぼ同長。体表はビロウド状で、粗雑な感触。(木村清志・岡田 誠)

アイザメ科 Family Centrophoridae Bleeker 1859

アイザメ属 Genus *Centrophorus* Müller & Henle 1837

タロウザメ

Centrophorus granulosus
(Bloch & Schneider 1801)

東太平洋を除く全世界の熱帯域、温帯域。日本では高知県から神奈川県に分布。深海性。三重県では熊野灘の 500 m 以深から深海延縄や深海カゴで採集された。鱗に中央隆起縁がある。胸鰭の内角部は後方に伸長する。
(木村清志)

5



タロウザメ *Centrophorus granulosus*, FRLM 27663, 1212 mm TL, 熊野灘

ヘラツノザメ属 Genus *Deania* Jordan & Snyder 1902

ヘラツノザメ

Deania calcea (Lowe 1839)

全世界の熱帯域、温帯域。日本では八重山諸島から東北地方の太平洋沖に分布。三重県では熊野灘の深海延縄で採集された。表層から深海域まで分布する。吻は長くへら状。体は灰褐色。第2背鰭の上方約 1/2 は暗色。
(木村清志)

5



ヘラツノザメ *Deania calcea*, FRLM 27654, 963 mm TL, 熊野灘

サガミザメ

Deania hystricosa
(Garman 1906)

西太平洋の日本周辺および東大西洋。日本では三重県から千葉県に分布。深海性。三重県では熊野灘の深海延縄で漁獲された。吻は長くへら状。体は黒褐色。第2背鰭はほぼ一様に暗色。
(木村清志)

5



サガミザメ *Deania hystricosa*, FRLM 27657, 654 mm TL, 熊野灘

ツノザメ科 Family Squalidae Blainville 1816

ヒゲツノザメ属 Genus *Cirrhigaleus* Tanaka 1912

ヒゲツノザメ

Cirrhigaleus barbifer
Tanaka 1912

東インド洋、ニューカレドニアまでの西太平洋。日本では沖縄県から千葉県に分布。深海性。三重県では熊野灘の釣りで採集された。吻の腹面に1対のひげ状皮弁がある。
(木村清志)

5



ヒゲツノザメ *Cirrhigaleus barbifer*, FRLM 49947, 922 mm TL, 志摩市志摩町和具沖

ノコギリザメ目 Order Pristiophoriformes

ノコギリザメ科 Family Pristiophoridae Bleeker 1859

ノコギリザメ属 Genus *Pristiophorus* Müller & Henle 1837

ノコギリザメ *Pristiophorus japonicus* Günther 1870

北西太平洋の台湾，中国東シナ海，黄海，渤海沿岸，朝鮮半島，日本。日本では沖縄県から北海道に分布する。浅海域から深海まで分布する。三重県では熊野灘の底曳網で漁獲された。本属魚類は本種のほか、フィリピンに1種，オーストラリアに3種，西インド洋に1種，西大西洋に1種が分布する。（木村清志）



ノコギリザメ *Pristiophorus japonicus*, FRLM 52872, 1114 mm TL, 熊野灘

カスザメ目 Order Squatiniformes

カスザメ科 Family Squatinidae Blainville 1816

カスザメ属 Genus *Squatina* Duméril 1805

カスザメ *Squatina japonica* Bleeker 1858

北西太平洋の台湾，中国東シナ海，黄海沿岸，朝鮮半島，日本沿岸。日本では沖縄諸島から北海道に分布する。浅海性。胸鰭の外角は直角から100°程度。体背中線上に小棘が並ぶ。環境省準絶滅危惧。（木村清志）



カスザメ *Squatina japonica*, FRLM 21016, 711 mm TL, 三重県

コロザメ *Squatina nebulosa* Regan 1906

北西太平洋の中国南シナ海，東シナ海沿岸，台湾，朝鮮半島南部，日本沿岸。日本では琉球列島から新潟県に分布する。主として浅海域に生息する。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。胸鰭の外角は120°程度。体背中線上に小棘がない。（木村清志）



コロザメ *Squatina nebulosa*, FRLM 56596, 1457 mm TL, 熊野灘

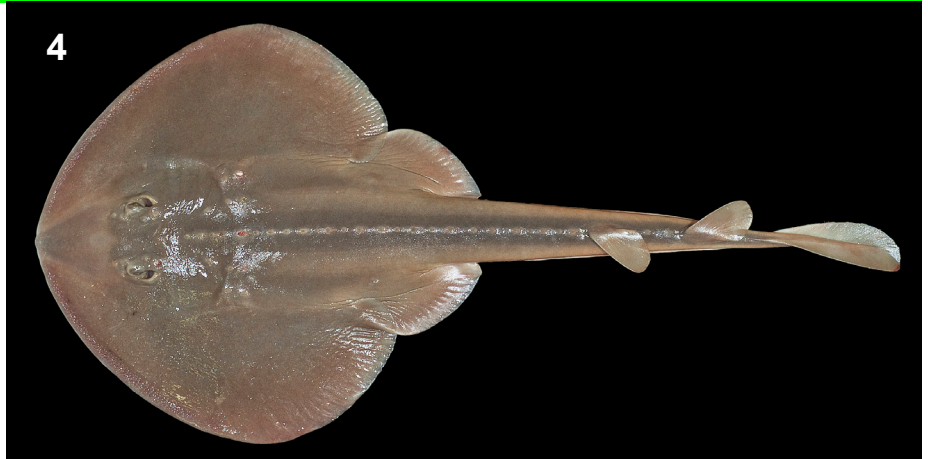
シビレエイ目 Order Torpediniformes

ウチワザメ科 Family Platyrhinidae Jordan 1923

ウチワザメ属 Genus *Platyrhina* Müller & Henle 1838

オニノウチワ *Platyrhina hyugaensis* Iwatsuki, Miyamoto & Nakaya 2011

鹿児島県から三重県に分布。三重県では志摩市志摩町の熊野灘で定置網や刺網で漁獲された。頭部や肩帯の棘は白色あるいは黄色斑で囲まれない。項部背中線の左右にそれぞれ1棘がある。志摩町御座の定置網で採集された2個体が本種のパラタイプに指定された。(木村清志)



オニノウチワ *Platyrhina hyugaensis*, FRLM 35030, 400 mm TL, 志摩市志摩町和具

ウチワザメ *Platyrhina tangi* Iwatsuki, Zhang & Nakaya 2011

ベトナム、中国南シナ海、東シナ海沿岸、台湾、韓国、日本の北西太平洋。日本では九州から東京湾に分布する。頭部や肩帯の棘は白色あるいは黄色斑で囲まれる。項部の棘は背中線上のみ。環境省準絶滅危惧。(木村清志)



ウチワザメ *Platyrhina tangi*, FRLM 40569, 531 mm TL, 三重県

シビレエイ科 Family Narkidae Fowler 1934

シビレエイ属 Genus *Narke* Kaup 1826

ハクテンシビレエイ *Narke dipterygia* (Bloch & Schneider 1801)

オマーンから日本までのインド-西太平洋。日本では山口県、和歌山県、三重県、静岡県、および若狭湾から報告がある。三重県では尾鷲の定置網や熊野灘の巻網で漁獲された。背鰭は1基で、腹鰭の縁辺は湾入する。頭部や体の背面に白点がある。(木村清志)



ハクテンシビレエイ *Narke dipterygia*, FRLM 44466, 78 mm TL, 熊野灘

シビレエイ
Narke japonica
(Temminck & Schlegel 1850)

中国南シナ海，東シナ海沿岸，台湾，朝鮮半島，日本の北西太平洋。日本では鹿児島県から福岡県，九州西岸から若狭湾の東シナ海，日本海沿岸に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網や刺網，熊野灘の巻網で漁獲された。背鰭は1基で，腹鰭の縁辺はほぼ直線状。頭部や体の背面に白点はない。（木村清志）



シビレエイ *Narke japonica*, FRLM 32723, 239 mm TL, 志摩市志摩町御座

ヤマトシビレエイ科 Family Torpedinidae Henle 1834

ヤマトシビレエイ属 Genus *Tetronarce* Gill 1862

ツキシシビレエイ
Tetronarce formosa
(Haas & Ebert 2006)

台湾と日本。日本では高知県から茨城県に分布する。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。背鰭は2基。体盤幅は体盤長より長い。吻の前縁はほぼ直線状。尾鰭後縁は湾入する。（木村清志）



ツキシシビレエイ *Tetronarce formosa*, FRLM 35302, 629 mm TL, 熊野灘

ヤマトシビレエイ
Tetronarce tokionis
Tanaka 1908

オーストラリア西岸の東インド洋，および台湾から日本，オーストラリア東岸の西太平洋。日本では沖縄県から北海道に分布する。三重県では南伊勢町で採集された。背鰭は2基。体盤はほぼ円形。吻の前縁はやや丸い。尾鰭後縁は截形。（木村清志）



ヤマトシビレエイ *Tetronarce tokionis*, FRLM 45643, 339 mm TL, 南伊勢町

ノコギリエイ目 Order Rhinopristiformes

サカタザメ科 Family Rhinobatidae Bonaparte 1835

サカタザメ属 Genus *Rhinobatos* Linck 1790サカタザメ
Rhinobatos schlegelii
Müller & Henle 1841

ベトナム，中国南シナ海，東シナ海沿岸，台湾，朝鮮半島，日本の北西太平洋．日本では沖縄県から茨城県に分布する．胸鰭と腹鰭は隣接する．体背面に斑紋はなく一様に褐色．熊野灘沿岸の定置網，刺網などで漁獲されている．（木村清志）

サカタザメ *Rhinobatos schlegelii*, FRLM 57337, 836 mm TL, 南伊勢町賛浦

シノノメサカタザメ科 Family Rhinidae Müller & Henle 1841

シノノメサカタザメ属 Genus *Rhina* Bloch & Schneider 1801シノノメサカタザメ
Rhina ancylostomus
Bloch & Schneider 1801

紅海，アフリカ東岸からニューカレドニア，日本，オーストラリアに至るインドー西太平洋．日本では沖縄県から北海道に分布する．吻端は丸く，胸鰭と腹鰭は離れる．写真は尾鷲市早田町（熊野灘）の定置網で漁獲されたもの．（木村清志）

シノノメサカタザメ *Rhina ancylostomus*, 尾鷲市早田町（中井恭佑氏撮影）

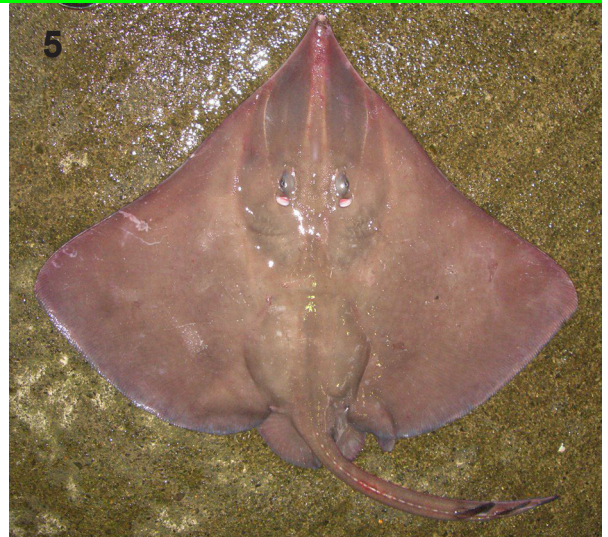
ガンギエイ目 Order Rajiformes

ガンギエイ科 Family Rajidae Blainville 1816

ガンギエイ属 Genus *Dipturus* Rafinesque 1810キツネカスベ
Dipturus macrocauda
(Ishiyama 1955)

中国，台湾，日本．日本では鹿児島県から千葉県，山口県に分布する．体背面に淡色斑がなく，吻がやや長く尖ることでガンギエイ *Dipturus chinensis* (Basilewsky 1855) と区別できる．また尾部中央部がやや太くなることでテングカスベ *Dipturus tengu* (Jordan & Fowler 1903) と区別できる．本種のパラタイプは尾鷲から得られている．写真は尾鷲で漁獲されたもの．鈴木・片岡（1997）は紀北町で採集されたガンギエイを記

録し，また山本章夫による伊勢国魚類写生図にもガンギエイと同定される絵がある（松田・木村，2023）．しかし，これまでのわれわれの調査では三重県からガンギエイは採集されていない．（木村清志）

キツネカスベ
Dipturus macrocauda
尾鷲市（岩田昭人氏撮影）

コモンカスベ属 Genus *Okamejei* Ishiyama 1958

モヨウカスベ *Okamejei acutispina* (Ishiyama 1958)

中国南シナ海, 東シナ海沿岸, 台湾, 韓国, 日本の北西太平洋. 日本では鹿児島県から北海道に分布する. 体背面には暗色点が散在し, 肩帯部に円斑がある. 体腹面のロレンチニ氏瓶は腹鰭前葉始部を越えて後方まで分布する. 環境省準絶滅危惧. (木村清志)

コモンカスベ *Okamejei kenojei* (Bürger 1841)

台湾, 中国東部, 日本, 韓国. 日本では鹿児島県から北海道まで分布している. 尾部背面の棘が雄3列, 雌5列, 体背面に淡色斑点があり, 腹面には比較的大きな暗色斑がある. 本種の新参シノニムとされている *Raja tobae* Tanaka 1916 は鳥羽産の標本に基づいて記載された. しかし, われわれの調査では三重県からの標本や写真を得ることができなかった. (木村清志)

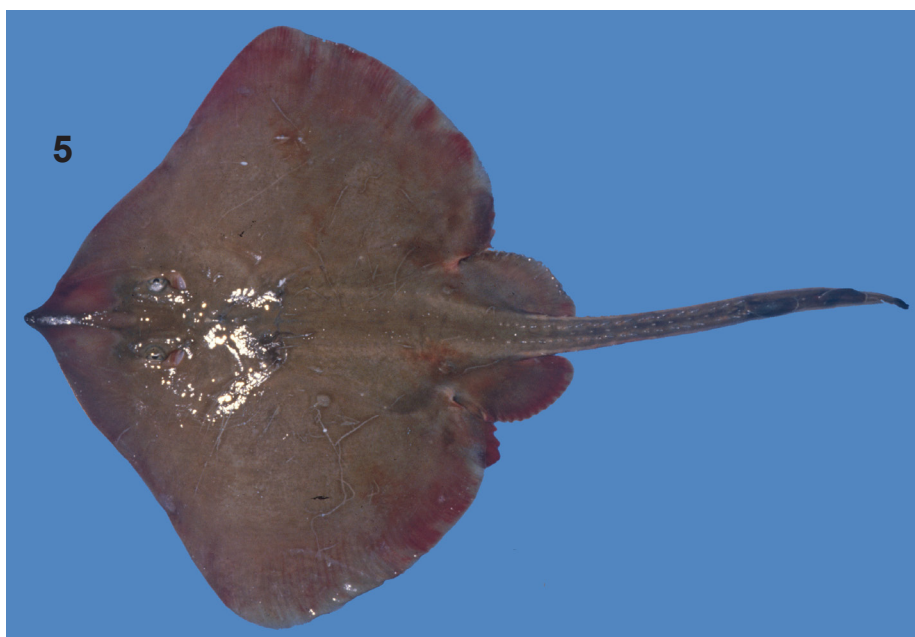
ツマリカスベ *Okamejei schmidtii* (Ishiyama 1958)

宮崎県から東北地方の太平洋岸および対馬に分布する. 体背面には暗色点が散在し, 肩帯部に円斑がある. 体腹面のロレンチニ氏瓶の分布域は腹鰭前葉始部を越えない. 熊野灘沿岸の定置網や刺網で漁獲される. 熊野灘沿岸のガンギエイ科の中では漁獲頻度が高い. (木村清志)

ツマリカスベ *Okamejei schmidtii*
FRLM 39741, 237 mm TL
志摩市志摩町御座



モヨウカスベ *Okamejei acutispina*, FRLM 37087, 476 mm TL, 三重県



コモンカスベ *Okamejei kenojei*, FRLM 8128, 399 mm TL, 東シナ海



ヒトツセビレカスベ科 Family Arhynchobatidae Fowler 1934

トビツカエイ属 Genus *Notoraja* Ishiyama 1958

トビツカエイ *Notoraja tobitukai* (Hiyama 1940)

中国南シナ海・東シナ海, 台湾, 日本. 日本では土佐湾から遠州灘. 背腹両面とも褐色. 背面から皮下の側線管が見える. 本種は熊野灘産標本をホロタイプとして記載された. 写真は尾鰭で水揚げされたもの.
(木村清志)



トビツカエイ *Notoraja tobitukai*, 尾鰭市 (岩田昭人氏撮影)

トビエイ目 Order Myliobatiformes

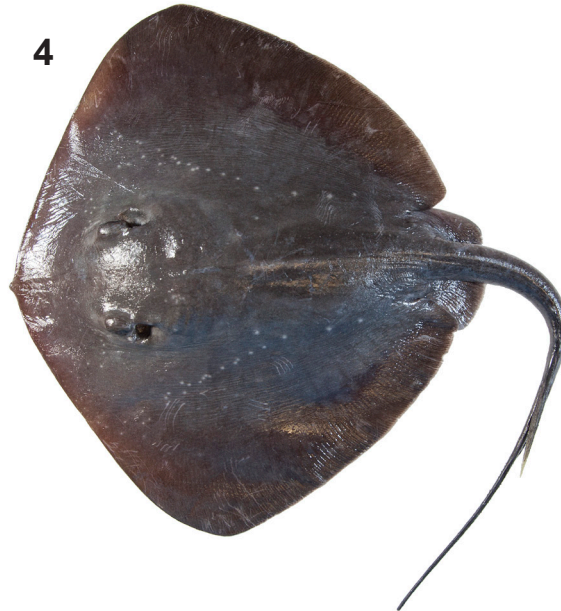
アカエイ科 Family Dasyatidae Jordan & Gilbert 1879

ホシエイ属 Genus *Bathytoshia* Whitley 1933

ホシエイ *Bathytoshia brevicaudata* (Hutton 1875)

インドー西太平洋の温帯から亜寒帯域, 南アフリカ, 日本, ロシアのピョートル大帝湾やサハリン, オーストラリア南部, ニュージーランド. 日本では鹿児島県から北海道まで分布している. 三重県では熊野灘の定置網や刺網, 巻網で漁獲される. 吻端はわずかに突出する. 体背面には白色で縁取られた小孔が並ぶ. 左右の第5鰓孔間の後方に, 前方に屈曲した溝がある.
(木村清志)

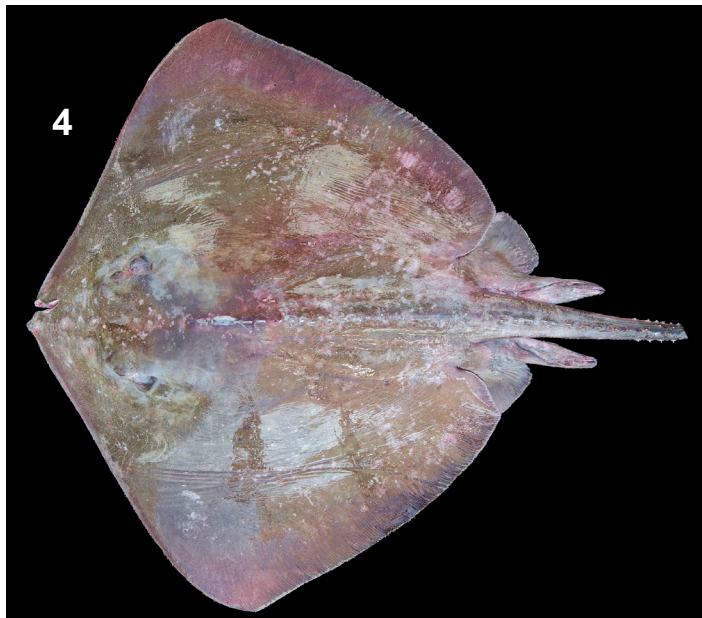
ホシエイ *Bathytoshia brevicaudata*
FRLM 35858, 387 mm DW
南伊勢町賛浦



ウシエイ *Bathytoshia lata* (Garman 1880)

東大西洋と地中海, インドー太平洋ではアフリカ東岸南部からインドネシア, 日本, ニュージーランド. 日本では鹿児島県から千葉県に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲される. 吻端はわずかに突出する. 体背面に明瞭な斑紋はない. 左右の第5鰓孔間の後方に溝がない. 尾部腹中線の皮褶は暗色.
(木村清志)

ウシエイ *Bathytoshia lata*, FRLM 57369
1109 mm DW, 南伊勢町奈屋浦
(尾部損傷)

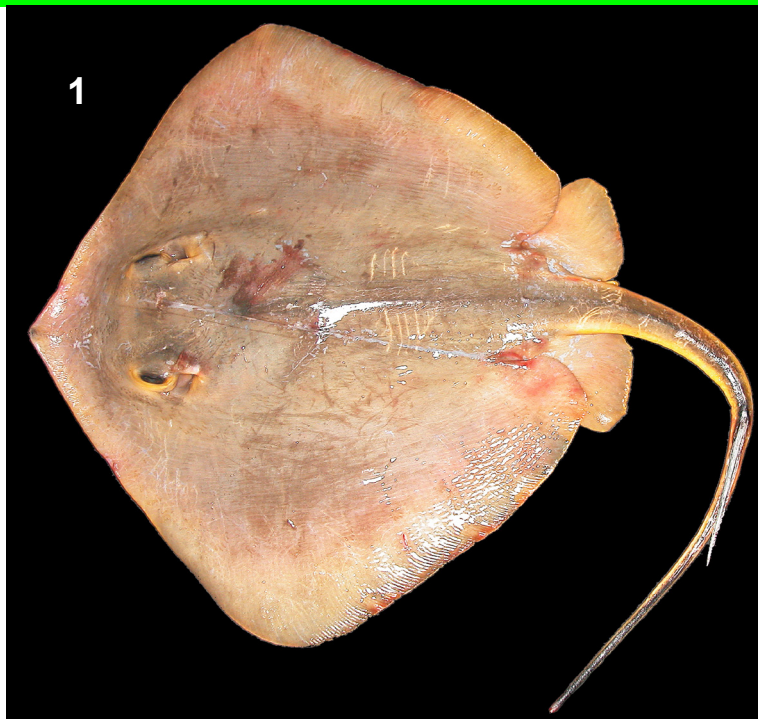


アカエイ属 Genus *Hemitrygon* Müller & Henle 1838

アカエイ *Hemitrygon akajei* (Bürger 1841)

北西太平洋，中国東シナ海，黄海，渤海沿岸，韓国，日本，ロシア，ピョートル大帝湾．日本では鹿児島県から北海道．三重県では伊勢湾および熊野灘の定置網，刺網，底曳網などで漁獲される．左右の第5鰓孔間の後方に溝がない．尾部腹中線の皮褶は暗色．噴水口の後縁付近が黄色であること，体盤腹面の縁辺部も黄色であることが特徴．（木村清志）

アカエイ *Hemitrygon akajei*
FRLM 30556, 245 mm DW
志摩市志摩町和具沖



イズヒメエイ *Hemitrygon izuensis* (Nishida & Nakaya 1988)

鹿児島県から千葉県，九州西岸に分布する．三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲された．左右の第5鰓孔間の後方に溝がない．尾部腹中線の皮褶は白い．（木村清志）

イズヒメエイ *Hemitrygon izuensis*
FRLM 35577, 412 mm DW
南伊勢町賛浦



カラスエイ属 Genus *Pteroplatytrygon* Fowler 1910

カラスエイ *Pteroplatytrygon violacea* (Bonaparte 1832)

全世界の熱帯域から温帯域，亜寒帯に生息する．日本では沖縄県から北海道まで分布する．三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲された．頭部背面前縁は丸く，吻端は非常に短くやや尖る．体背面はほぼ一様に暗色，腹面は暗紫色．（木村清志）

カラスエイ *Pteroplatytrygon violacea*
FRLM 35310, 452 mm DW, 熊野灘



ツバクロエイ科 Family Gymnuridae Fowler 1934

ツバクロエイ属 Genus *Gymnura* van Hasselt 1823

ツバクロエイ

Gymnura japonica
(Temminck & Schlegel 1850)

北西太平洋，中国南シナ海，東シナ海沿岸から日本．日本では鹿児島県から茨城県，新潟県まで分布している．三重県では熊野灘の定置網で漁獲された．尾部は短く体盤長の約1/2．通常体背面に暗色斑が散在する．背鰭はない．（木村清志）

ツバクロエイ *Gymnura japonica*
FRLM 40571, 350 mm DW, 南伊勢町宿浦

2



ウスエイ科 Family Plesiobatidae Nishida 1990

ウスエイ属 Genus *Plesiobatis* Nishida 1990

ウスエイ

Plesiobatis daviesi
(Wallace 1967)

インドー太平洋．日本では沖縄県から千葉県に分布する．写真の標本は南伊勢町の巻網で漁獲された．背鰭はなく，尾部に大きな棘（尾棘）があり，長い尾鰭をもつ．吻が長い．1科1属1種．（木村清志）

ウスエイ *Plesiobatis daviesi*
FRLM 38992, 677 mm DW, 熊野灘

4



ヒラタエイ科 Family Urolophidae Müller & Henle 1841

ヒラタエイ属 Genus *Urolophus* Müller & Henle 1837

ヒラタエイ

Urolophus aurantiacus
Müller & Henle 1841

西太平洋のフィリピン，台湾，東シナ海，日本，韓国．日本では鹿児島県から千葉県，新潟県に分布．三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲される．背鰭はなく，尾棘があり，短い尾鰭をもつ．吻は短い．（木村清志）

ヒラタエイ *Urolophus aurantiacus*
FRLM 32724, 212 mm DW
志摩市志摩町御座

3



マダラトビエイ科 Family Aetobatidae Agassiz 1858

マダラトビエイ属 Genus *Aetobatus* Blainville 1816

ナルトビエイ *Aetobatus narutobiei* White, Furumitsu & Yamaguchi 2013

北西太平洋, ベトナム, 中国, 韓国, 日本. 日本では鹿児島県から神奈川県, 秋田県. 吻は長く尖る. 背鰭は腹鰭間にある. 体背面はほぼ一様に暗色. 環境省準絶滅危惧.

(木村清志)

ナルトビエイ *Aetobatus narutobiei*
FRLM 39652, 352 mm DW, 三重県

4



マダラトビエイ *Aetobatus ocellatus* (Kuhl 1823)

アフリカ東岸, 紅海から仏領ポリネシア, 日本, オーストラリアまでのインド-太平洋に広く分布する. 日本では沖縄県から三重県, 山口県, 新潟県に生息する. 三重県では志摩市沖の熊野灘で定置網によって漁獲された. 体背面に青白色点が散在する.

(木村清志)

マダラトビエイ *Aetobatus ocellatus*
FRLM 36971, 272 mm DW
志摩市志摩町片田

5



トビエイ科 Family Myliobatidae Bonaparte 1835

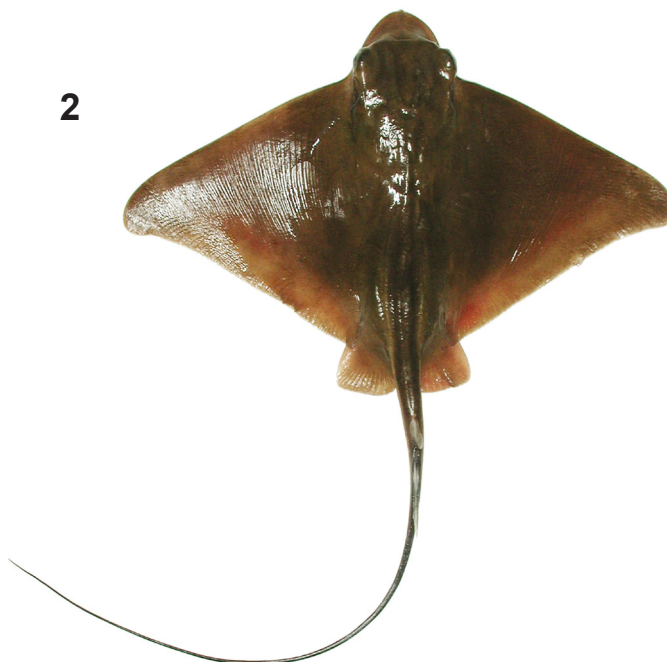
トビエイ属 Genus *Myliobatis* Cuvier 1816

トビエイ *Myliobatis tobijei* Bleeker 1854

北西太平洋, 台湾, 中国東シナ海, 黄海, 渤海, 韓国, 日本. 日本では沖縄県から北海道まで分布する. 三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲される. 吻端は丸い. 背鰭は腹鰭よりも後方に位置する. (木村清志)

トビエイ *Myliobatis tobijei*, FRLM 28528
258 mm DW, 熊野市遊木町

2



イトマキエイ科 Family Mobulidae Gill 1893

イトマキエイ属 Genus *Mobula* Rafinesque 1810

イトマキエイ *Mobula mobular* (Bonnaterre 1788)

全世界の熱帯域，温帯域．日本では沖縄県から北海道まで分布する．三重県では熊野灘の巻網で漁獲された．口が頭部腹面にあることや，尾棘があることが特徴．（木村清志）



イトマキエイ *Mobula mobular*, FRLM 35575, 578 mm DW, 熊野灘

ヒメイトマキエイ *Mobula thurstoni* (Lloyd 1908)

全世界の熱帯域．日本では沖縄県から神奈川県に分布．三重県では熊野灘の巻網で漁獲された．口が頭部腹面にあることや，尾棘がないこと，体背面が暗褐色であることが特徴．（木村清志）



ヒメイトマキエイ *Mobula thurstoni*, FRLM 57412, 1863 mm DW, 熊野灘

全頭綱 Class Holocephali

ギンザメ目 Order Chimaeriformes

ギンザメ科 Family Chimaeridae Rafinesque 1815

ギンザメ属 Genus *Chimaera* Linnaeus 1758

ジョルダングンザメ *Chimaera jordani* Tanaka 1905

東シナ海から日本。日本では三重県、静岡県、東京都から知られている。三重県では志摩半島沖の水深500–600 m から採集された。本種は臀鰭をもち、尾鰭後端が糸状に伸びること、側線が小刻みに波打たないことが特徴。
(木村清志)

5



ジョルダングンザメ *Chimaera jordani*, FRLM 2548, 1035 mm TL, 志摩半島沖 (固定標本)

ギンザメ *Chimaera phantasma* Jordan & Snyder 1900

ボルネオ島、フィリピン、中国、台湾、日本、韓国。日本ではほぼ全土に分布している。三重県では熊野灘の底曳網で漁獲された。本種は臀鰭をもち、尾鰭後端が糸状に伸びること、側線が小刻みに波打つことが特徴。
(木村清志)

4



ギンザメ *Chimaera phantasma*, FRLM 40501, 273 mm TL, 熊野灘



三重大学練習船初代勢水丸による熊野灘底延縄調査，2001年7月（木村清志撮影）

条鰭綱 Class Actinopteri

ガー目 Order Lepisosteiformes

ガー科 Family Lepisosteidae Agassiz 1832

アリゲーターガー属（新称）Genus *Atractosteus* Rafinesque 1820

アリゲーターガー *Atractosteus spatula* (Lacepède 1803)

自然分布はアメリカ合衆国中部および南部，メキシコ北部。日本では飼育後遺棄されたと思われる個体が茨城県から鹿児島県の各所で発見されている。本種を含むガー科の全種が特定外来生物に指定され，その飼育や野外への放出などは厳しく規制されている。成魚では上顎の牙状歯が1列であること，側線鱗数が58-62であること，鰓耙数が59-66



アリゲーターガー *Atractosteus spatula*, FRLM 46370, 533 mm TL, 志摩市志摩町和具

であることによって同科他種と区別できる。本種は通常河川下流域や湖沼などに生息するが，汽水域から沿岸域にも出現する。写真個体は志摩市の和具漁港で採集されたものである。（木村清志）

カライワシ目 Order Elopiformes

カライワシ科 Family Elopidae Valenciennes 1847

カライワシ属 Genus *Elops* Linnaeus 1766

カライワシ *Elops hawaiiensis* Regan 1909

熱帯・亜熱帯性種で，日本では本州以南に分布する。三重県では志摩市や尾鷲市から標本が得られている。幼魚は津市の志登茂川でも採集された。本種は外観的にニシン科やコイ科の種と類似するが，口が大きく眼の後方まで伸びることによって区別できる。（木村清志）



カライワシ *Elops hawaiiensis*, FRLM 60943, 644 mm SL, 紀北町島勝浦

イセゴイ科 Family Megalopidae Jordan & Gilbert 1883

イセゴイ属 Genus *Megalops* Lacepède 1803

イセゴイ *Megalops cyprinoides* (Broussonet 1782)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域，日本では東北以南に分布する。三重県では熊野灘のほか，幼魚は志摩市西川や鈴鹿市の伊勢湾沿岸からも標本が得られている。本種はカライワシに比較して体高が高く，鱗が大きい。背鰭の最後の軟条は伸長する。（木村清志）



イセゴイ *Megalops cyprinoides*, FRLM 49293, 370 mm SL, 尾鷲市

ソトイワシ目 Order Albuliformes

ソトイワシ科 Family Albulidae Bleeker 1849

ソトイワシ属 Genus *Albula* Scopoli 1777

ソトイワシ *Albula argentea* (Forster 1801)

インドネシアから仏領ポリネシア、シンガポール、フィリピン、台湾、日本では岩手県以南に分布する。本属魚類は日本から本種のほか、マルクチソトイワシ *Albula glossodonta* (Forsskal 1775)、キスジソトイワシ *Albula koreana* Kwun & Kim 2011、アラメソトイワシ *Albula oligolepis* Hidaka, Iwatsuki & Randall 2008 が知られている。本種は下顎先端が尖ること、頬の横帯は不明瞭であること、側線有孔鱗数が 68-74 であることで他の 3 種と区別できる。なお、



ソトイワシ *Albula argentea*, FRLM 61749, 406 mm SL, 尾鷲市

山本章夫による伊勢国魚類写生図にはキスジソトイワシと同定される絵がある（木村，2024）。しかし、こ

れまでのわれわれの調査では三重県からキスジソトイワシは採集されていない。（木村清志）

ギス属 Genus *Pterothrissus* Hilgendorf 1877

ギス *Pterothrissus gissu* Hilgendorf 1877

北海道から九州の日本周辺、東シナ海、ポルトガル沖の北西大西洋。深海性。熊野灘の 200 m 以深でしばしば採集される。（木村清志）



ギス *Pterothrissus gissu*, FRLM 54518, 454 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

ソコギス目 Order Notacanthiformes

ソコギス科 Family Notacanthidae Rafinesque 1810

キツネソコギス属 Genus *Notacanthus* Bloch 1788

キツネソコギス *Notacanthus abbotti* Fowler 1934

東インド洋、西太平洋、中部太平洋、アンダマン海からハワイ諸島に分布する。日本では高知県から青森県にかけて知られている。深海性。吻が丸く、背鰭に 12-15 棘をもつ。本種の新参シノニムで



キツネソコギス *Notacanthus abbotti*, BSKU 44275, 246 mm TL, 高知県

ある *Notacanthus macrorhynchus* Matsubara 1936 のホロタイプは熊野灘で採集されたものである。しか

しわれわれの調査では三重県からの標本や写真を得ることができなかった。（木村清志）



朝の尾鷲港，2018 年 5 月（松尾 怜撮影）

ウナギ目 Order Anguilliformes

ホラアナゴ亜目 Suborder Synphobranchoidei

ホラアナゴ科 Family Synphobranchidae Johnson 1862

アサバホラアナゴ属 Genus *Dysomma* Alcock 1889

アサバホラアナゴ *Dysomma anguillare* Barnard 1923

インドー太平洋と北西大西洋に分布し、国内では相模湾から鹿児島県、山口県、琉球列島に分布する。三重県では熊野灘の底曳網や、定置網で

3



アサバホラアナゴ *Dysomma anguillare*, FRLM 32936, 484 mm SL, 尾鷲市

漁獲されることもある。肛門は鰓孔より後方に位置する。左右の鰓孔はよく離れる。鋤骨に極大歯をもち、1列に並ぶ。(日比野友亮)

コンゴウアナゴ属 Genus *Simenchelys* Gill 1879

コンゴウアナゴ *Simenchelys parasitica* Gill 1879

世界中の温帯域の深海に分布し(インド洋北部と地中海を除く)、国内では北海道以南の太平洋岸全域に分布する。三重県では熊野灘での深海延縄やカゴ網で採集されている。

3



コンゴウアナゴ *Simenchelys parasitica*, FRLM 37452, 368 mm SL, 宮城県沖

体は暗褐色で、棒状の鱗に覆われる。口はきわめて小さい。(日比野友亮)

ホラアナゴ属 Genus *Synphobranthus* Johnson 1862

ホラアナゴ *Synphobranthus affinis* Günther 1877

世界中の温帯域を中心とした深海に分布し(インド洋北部、東太平洋北部、地中海を除く)、国内では北海道以南の太平洋岸に分布する。三重県では深海延縄で採集されている。

4



ホラアナゴ *Synphobranthus affinis*, FRLM 28299, 470 mm SL, 熊野灘

体は暗褐色で、楕円形の鱗に覆われる。口は大きく、眼は口裂中央より後方に位置する。背鰭の始部は肛門より後方に位置する。(日比野友亮)

イラコアナゴ *Synphobranthus kaupii* Johnson 1862

世界中の温帯域を中心とした深海に分布し(地中海を除く)、国内では北海道以南の太平洋岸と、長崎県に分布する。三重県では深海延縄で採集されている。体は暗褐色で、棒

5



イラコアナゴ *Synphobranthus kaupii*, FRLM 27659, 458 mm SL, 熊野灘

状の鱗に覆われる。口は大きく、眼は口裂中央付近に位置する。背鰭の始部は肛門より後方に位置する。(日比野友亮)

ソデアナゴ *Synphobranthus* sp.

北海道以南の太平洋岸の深海に分布する。現状では日本国内でのみ確認されており、三重県では詳細な採集情報のない1標本が存在する。体は暗褐色で、円形の鱗に覆われる。口は大きく、眼は口裂中央付近に位置する。背鰭の始部は肛門よりかなり後方に位置する。(日比野友亮)

5



ソデアナゴ *Synphobranthus* sp.
BSKU 46975, 728 mm SL, 高知県

ウナギ亜目 Suborder Anguilloidei

ウナギ科 Family Anguillidae Rafinesque 1810

ウナギ属 Genus *Anguilla* Schrank 1798

ニホンウナギ

Anguilla japonica

Temminck & Schlegel 1846

ベトナム（稀）、フィリピン（稀）、中国、台湾、韓国、日本に分布し、国内では北海道南部から琉球列島にかけて広く分布する（Tabeta et al., 1975；Nguyen et al., 2018；Morita and Kuroki, 2021；Hibino et al., 2022）。背鰭の始部は躯幹部の中央付近に位置する。体には一般に模様



1

ニホンウナギ *Anguilla japonica*, FRLM 36979, 347 mm SL, 三重県

がなく、背面は暗褐色もしくは緑みを帯びた褐色で、腹面は黄白色から白色。体側は黄色みを帯びることが多い。産卵降海期を迎えると二次性徴によって体が銀色を帯びた黒色と

なり、眼や胸鰭が大きくなる。水産重要種で、天然の変態後仔魚（シラスウナギ）を肥育する養殖産業が三重県を含む各地で行われている。環境省絶滅危惧 IB 類。（日比野友亮）

オオウナギ

Anguilla marmorata

Quoy & Gaimard 1824

インド洋南西部と太平洋の熱帯から温帯域に広く分布する。国内では主に黒潮の影響を受ける茨城県以南の太平洋岸や東シナ海に流入する河川や湖沼に分布し、琉球列島では普通種。三重県では熊野灘流入河川や答志島の美多羅志神社境内の池で採集例がある。背鰭の始部は躯幹部中央よりも前方に位置する。体にまだら状斑紋をもつ（幼魚では目立たない）。ニホンウナギに比べて体は太くなる。（日比野友亮）

5



オオウナギ *Anguilla marmorata*, FRLM 37084, 794 mm SL, 尾鷲市北川

シギウナギ科 Family Nemichthyidae Kaup 1859

クロシギウナギ属 Genus *Avocettina* Jordan & Davis 1891

クロシギウナギ

Avocettina infans

(Günther 1878)

全世界の温帯から熱帯外洋域、グリーンランドに分布し、国内では東北地方太平洋岸から熊野灘、沖縄舟状海盆、小笠原諸島、九州－パラオ海嶺に分布する。体は一様に濃褐色で、細長い。肛門は胸鰭よりも大きく後方に位置する。（日比野友亮）

5



クロシギウナギ *Avocettina infans*, HUMZ 235563, 523 mm TL, 福島県

シギウナギ属 Genus *Nemichthys* Richardson 1848

シギウナギ *Nemichthys scolopaceus* Richardson 1848

全世界の温帯から熱帯域に分布し、国内では北海道以南と、東シナ海に分布する。体は著しく細長く千切れやすい。肛門は胸鰭の下方に位置する。両顎は細く、くちばし状に著しく伸長するが、成熟した雄では二次性徴に伴って退縮する。

(日比野友亮)

シギウナギ *Nemichthys scolopaceus*,
FRLM 54599, 708 mm TL, 熊野灘



ウツボ亜目 Suborder Muraenoidei

ウツボ科 Family Muraenidae Rafinesque 1815

タカマユウツボ属 Genus *Anarchias* Jordan & Starks 1906

タカマユウツボ *Anarchias seychellensis* Smith 1962

インドー太平洋に広く分布し、日本では千葉県以南から記録がある。三重県では南伊勢町で採集されている。鰭が尾部先端付近のみにあり、後鼻孔の直後に感覚管孔がある。体色は変化に富み、一様に黄褐色や赤褐色のものから体全体に不定形の褐色、白色の斑紋を持つものもいる。

(日比野友亮)

タカマユウツボ *Anarchias seychellensis*
FRLM 46327, 121 mm SL, 南伊勢町



コケウツボ属 Genus *Enchelycore* Kaup 1856

コケウツボ *Enchelycore lichenosa* (Jordan & Snyder 1901)

台湾、済州島、日本、ガラパゴス諸島から記録があり、国内では相模湾から奄美群島にかけて分布する。三重県では熊野灘沿岸に出現し、ウツボに混じって干物等に加工されている。本種の黄色の地色に褐色の斑紋をもつ色彩はウツボ *Gymnothorax kidako* (Temminck & Schlegel 1846) に似るが、両顎が大きく湾曲し、閉口時にも歯が明らかに露出することや臀鰭に白色縁辺を持たないことで区別される。

(日比野友亮)



コケウツボ *Enchelycore lichenosa*, FRLM 52143, 983 mm SL
志摩市志摩町御座

トラウツボ
Enchelycore pardalis
(Temminck & Schlegel 1846)

オーストラリア沿岸を除くインドー太平洋の広い範囲に分布し、国内では千葉県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸に出現し、志摩半島では「ひめうなぎ」と呼ばれウツボと区別されている。後鼻孔が管状に長く伸長し、角のように見える。体は赤褐色で、白色と褐色の斑紋をもつ。本種は *Enchelycore* に帰属されることが多いが、近年の分子系統の結果はむしろ *Muraena* Linnaeus 1758 に近いことを示している（例えば Smith et al., 2019）。（日比野友亮）



トラウツボ *Enchelycore pardalis*, FRLM 61410, 760 mm SL, 尾鷲市

ウツボ属 Genus *Gymnothorax* Bloch 1795

ハワイウツボ
Gymnothorax berndti
Snyder 1904

インドー太平洋に分布し、国内では駿河湾以南に分布する。三重県では尾鷲市で採集されているが稀。体色は白色から灰褐色で、幅の不規則な斑紋が大きな網目状をなす。臀鰭の黒色域は体側の斑紋と連続する。（日比野友亮）



ハワイウツボ *Gymnothorax berndti*, 尾鷲市（岩田昭人氏撮影）

ニセゴイシウツボ
Gymnothorax isingteena
(Richardson 1845)

オーストラリア沿岸を除く西太平洋に分布し、国内では伊豆半島以南に分布する。三重県では南伊勢町奈屋浦から採集されているが稀。体の地色は白色から淡褐色で、体中に円形や楕円形、もしくはC字型のような黒色斑紋をもつ。斑紋の大きさは成長に伴って相対的に小さくなる。（日比野友亮）



ニセゴイシウツボ *Gymnothorax isingteena*, FRLM 63359, 987 mm TL
 南伊勢町奈屋浦

ウツボ

Gymnothorax kidako (Temminck & Schlegel 1846)

中国, 台湾, 済州島, 朝鮮半島南部, 日本に分布し, 国内の太平洋側では岩手県以南, 日本海側では島根県以南に分布する. 三重県では熊野灘沿岸に普通で, 漁業対象種. 体の地色は黄色で, 褐色の不定形の波状斑紋をもつ. *Gymnothorax pseudokidako* Huang, Smith & Liao 2021 とは臀鰭に白色縁辺があることや, 尾部が全長の 52.9–56.4% とやや長いことなどで区別される (Huang et al., 2021).

(日比野友亮)

ウツボ *Gymnothorax kidako*
FRLM 40329, 541 mm SL
志摩市志摩町和具沖



アミウツボ

Gymnothorax minor (Temminck & Schlegel 1846)

西太平洋のベトナムから日本にかけて, およびオーストラリア沿岸に分布する. 国内の太平洋側では千葉県から鹿児島県, 日本海側では新潟県以南, 東シナ海にかけて分布する. 三重県に産するウツボ科魚類としては唯一伊勢湾にも出現する. 歯に鋸歯状縁がある. 体に横帯状の斑紋をもち, 腹側は明瞭だが背側はむしろ小点の凝集となり帯は不明瞭.

(日比野友亮)

アミウツボ *Gymnothorax minor*
FRLM 65075, 502 mm SL, 明和町大淀



ミゾレウツボ

Gymnothorax neglectus Tanaka 1911

西太平洋のフィリピン, 台湾, 日本に分布し, 国内では神奈川県以南に分布する. 三重県では熊野灘沿岸で採集されている. 通常は 200 m を超える深所に多い. 歯に鋸歯状縁がある, 黄緑色 (死ぬとすぐに褪色) から褐色の地色に多数の円形に近い小白色斑をもつ.

(日比野友亮)



ミゾレウツボ *Gymnothorax neglectus*, KPM-NI 77022, 919 mm TL, 神奈川県 (和田英敏氏撮影)

ユリウツボ

Gymnothorax prionodon Ogilby 1895

西太平洋のベトナムから日本にかけて, およびオーストラリア, ニュージーランド沿岸に分布する. 日本の太平洋側では千葉県以南, 日本海側では山口県に分布する. 体の地色は褐色で, 淡黄褐色のやや不定形な斑紋をもつ. 尾鰭市では「こめうつぼ」と呼ばれる. 熊野灘沿岸の一部ではウツボと同様に利用される.

(日比野友亮)



ユリウツボ *Gymnothorax prionodon*, FRLM 37836, 595 mm SL, 志摩市志摩町御座

アミメウツボ *Gymnothorax pseudothyrsoides* (Bleeker 1853)

アンダマン海と西太平洋の北半球側に分布し、日本では三重県以南に分布する。三重県では御浜町阿田和で採集されているが稀。体の色彩は変化に富み、灰色から黒褐色。体に細い網目状の斑紋をもつが大型の個体ではきわめて不明瞭。また、網目状というよりもむしろ不明瞭な円斑列をもつように見える個体も存在する。三重県では過去にナミウツボ *Gymnothorax undulatus* (Lacepède 1803) の記録があり（片岡・富田, 1981）、本種の誤認の可能性もあるが検証可能な標本は発見されていない。（日比野友亮）



アミメウツボ *Gymnothorax pseudothyrsoides*, FRLM 63318, 791 mm SL
御浜町阿田和

オキノシマウツボ *Gymnothorax ypsilon* Hatooka & Randall 1992

ケルマデック諸島、マスカリン海嶺、ハワイ、台湾、日本に分布し、国内では三重県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で採集されているが稀。体色は白色から灰褐色で、幅の細い横縞が間隔を空けて分布する。頭部前半に斑紋がない。（日比野友亮）

オキノシマウツボ *Gymnothorax ypsilon*
KPM-NI 9844, 881 mm TL, 神奈川県
(瀬能 宏氏撮影)



ウツボ属の一種 *Gymnothorax* sp.

本標本は尾鷲市九鬼町で採集された。体は暗褐色で、生時には不明瞭な円斑列が現れることがある。背鰭と臀鰭の縁辺に明瞭な白色縁をもたず、稀に尾鰭の先端に僅かな淡色域がある。前鼻管は単純な管状。両顎はやや湾曲する。大型の個体では背鰭前方付近が肥厚する。現在笹木大地らによって日本初記録種とした報告を準備している。（日比野友亮）

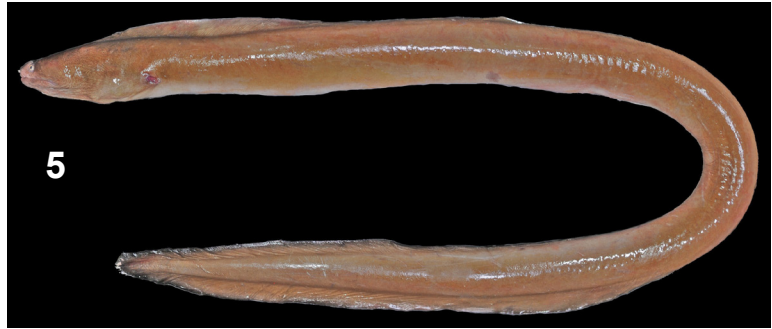


ウツボ属の一種 *Gymnothorax* sp., FRLM 61412, 1252 mm TL, 尾鷲市九鬼町

タケウツボ属 Genus *Strophidon* McClelland 1844

ゴボウウツボ *Strophidon tetraporus* Huang & Liao 2020

少なくとも日本を含む北西太平洋に分布する (Huang et al., 2020). 三重県では賀田湾で採集されている。従来 *Strophidon sathete* Hamilton 1822 と混同されてきた種で、国内における多くの記録が誤り。体は暗褐色で、眼は口裂中央よりも前方に位置する。 *Strophidon sathete* とは尾部長が短いことや、脊椎骨数が 182–197 とやや少ないこと、眼下感覚管孔が一



ゴボウウツボ *Strophidon tetraporus*, FRLM 63100, 1430 mm SL, 尾鷲市賀田湾

般に 4 個あり、このうち最後端のもことなどで区別される。
のは眼の後縁よりも後方に位置する (日比野友亮)

タケウツボ *Strophidon ui* Tanaka 1918

少なくとも日本を含む北西太平洋に分布する (Huang et al., 2020). 三重県では尾鷲湾と志摩市安乗町から採集されている。体は暗褐色で、眼は口裂中央よりも前方に位置する。同属他種の中ではもっとも吻が短く、体が細い傾向にある。 *Strophidon sathete* Hamilton 1822 とは上顎と下顎の内列歯が少ないこと (5–11; 4–7) でも区別される。 (日比野友亮)



タケウツボ *Strophidon ui*, FRLM 37836, 988 mm SL, 尾鷲市

タケウツボ属の一種 *Strophidon* sp.

本標本は尾鷲市から採集された。体は暗褐色で、眼は口裂中央よりも前方に位置する。本属としては脊椎骨数が 155–174 ともっとも少なく、尾部も短い。現在日比野友亮らによって日本初記録種とした報告を準備している。 (日比野友亮)



タケウツボ属の一種 *Strophidon* sp., FRLM 34524, 810 mm TL, 尾鷲市

アナゴ亜目 Suborder Congroidei

ウミヘビ科 Family Ophichthidae Günther 1870

ゴマウミヘビ属 Genus *Apterichtus* Duméril 1805

ダイダイマダラウミヘビ *Apterichtus hatookai* Hibino, Shibata & Kimura 2014

台湾と日本に分布し、日本では静岡県、愛知県、三重県、愛媛県に分布する。体はやや透明感のある褐色で、頭部から胸部付近にかけて朱色の斑紋をもつ。側頭部感覚管孔は 7 個。インド太平洋に広く分布する *Apterichtus klazingai* (Weber 1913) に似るが、頭部の斑紋はやや大きく、後頭部側面のものの最大長径は眼径と同じかまたは超えることによって区別される。 (日比野友亮)



ダイダイマダラウミヘビ *Apterichtus hatookai*, OMNH-P 13794, 479 mm TL, 愛媛県

ヒモウミヘビ属 Genus *Callechelys* Kaup 1856

クロウミヘビ *Callechelys kuro* (Kuroda 1947)

台湾と日本に分布し、国内では静岡県、三重県、高知県、愛媛県、山口県（園山ほか、2020）に分布する。三重県では志摩市の複数か所から採集されている。体は黒色から褐色で、眼の後方、下顎先端付近などに斑入り状の白色斑をもつ。（日比野友亮）

4



クロウミヘビ *Callechelys kuro*, FRLM 10965, 683 mm TL, 志摩市志摩町御座

ショウキウミヘビ属 Genus *Cirrhimuraena* Kaup 1856

ゴテンバウミヘビ *Cirrhimuraena chinensis* Kaup 1856

少なくとも中国、台湾、日本に分布し、国内では三重県津市御殿場海岸産の標本に基づいて日本初記録として報告された（Hibino and Agyeman, 2025）。体は黄褐色で、腹部は白色。吻は尖り、上唇に沿って10本以上の口髭がある。背鰭始部は胸鰭中央付近直上に位置する。胸鰭

5



ゴテンバウミヘビ *Cirrhimuraena chinensis*, KMNH-VR 100620, 240 mm TL
津市御殿場海岸

は大きく、鎌状。東南アジアからも分布情報があるが、遺伝的に異なるものである可能性が高く、今後研究が必要。（日比野友亮）

ヒレアナゴ属 Genus *Echelus* Rafinesque 1810

ヒレアナゴ *Echelus uropterus* (Temminck & Schlegel 1846)

オーストラリア沿岸を含む西太平洋に分布し、国内の太平洋側では相模湾、日本海側では新潟県以南に分布する。三重県では熊野灘で採集さ

4



ヒレアナゴ *Echelus uropterus*, FRLM 51037, 463 mm TL, 伊勢湾

れている。体の背面は淡い褐色で、臀鰭に短い黒色域をもつ。腹面は白色。尾部先端付近の背鰭と（日比野友亮）

ミナミミズアナゴ属 Genus *Muraenichthys* Bleeker 1853

ワカウナギ *Muraenichthys hattae* Jordan & Snyder 1901

台湾、中国、韓国、日本に分布し、国内では三重県（尾鷲市）、和歌山県、大阪府、瀬戸内海、鹿児島県から採集されている（吉郷、2018；畑、

5



ワカウナギ *Muraenichthys hattae*, FRLM 32932, 343 mm TL, 尾鷲市

2020）。頭部は小さく、背鰭始部は肛門直上よりもわずかに前方に位置する。歯は臼歯状。（日比野友亮）

シノミミズアナゴ
Muraenichthys thompsoni
Jordan & Richardson 1908

インドー太平洋に広く分布し、日本では三重県（志摩市）と宮崎県で採集されている。頭部は大きく、背鰭始部は躯幹部のほぼ中央か、それよりわずかに前方に位置する。ウシイバーミミズアナゴ *Muraenichthys gymnopterus* Bleeker 1853 ときわめてよく似るが、歯は2列を超えないこと、鋤骨歯が臼歯状ではなく尖ること、背鰭始部がやや前方に位置することなどで区別される (Hibino et al., 2019). (日比野友亮)



シノミミズアナゴ *Muraenichthys thompsoni*, KMNH VR 100226, 209 mm TL, 台湾

ニンギョウアナゴ属 Genus *Myrophis* Lütken 1852

セレベスヒレアナゴ
Myrophis microchir
(Bleeker 1864)

インドー太平洋に広く分布するが、紅海から記載された *Myrophis lepturus* Kotthaus 1968 との間に分類学的混乱がみられる。国内では太平洋側では三重県以南、日本海側では秋田県以南に分布する。別属のヒレアナゴとは尾部先端付近の垂直鰭の黒色域が臀鰭のみに現れることや、歯の列数は最大でも2列であることで区別される。 (日比野友亮)



セレベスヒレアナゴ *Myrophis microchir*, FRLM 49215, 345 mm TL, 紀北町

ムカシウミヘビ属 Genus *Neenchelys* Bamber, 1915

ムカシウミヘビ
Neenchelys similis
Ho, McCosker & Smith 2015

パプアニューギニア、バンダ海、台湾、日本に分布する。国内では茨城県（三澤ほか, 2020）、静岡県（相模湾と駿河湾）、三重県から記録されている。ツルギムカシウミヘビ *Neenchelys mccoskeri* Hibino, Ho & Kimura 2012 とは背鰭の始部が躯幹部中央よりもはるかに前方に位置すること、胸鰭が大きいことで容易に区別される。日本で得られる個体は従来 *Neenchelys daedalus* McCosker 1982 だと考えられていたが、脊椎骨数に大きな差異があり、近年になって別種であることが明らかとなった。 (日比野友亮)



ムカシウミヘビ *Neenchelys similis*, FRLM 38980, 737 mm TL, 熊野灘

ウミヘビ属 Genus *Ophichthus* Ahl 1789

モンガラドオシ *Ophichthus erabo* Jordan & Snyder 1901

西インド洋と北西太平洋に分布し（ただし西インド洋のものは別種の可能性が高い）、国内では千葉県銚子以南の太平洋岸，東シナ海に分布する。体に褐色の円斑を多数もつ。頭部の斑紋はきわめて小さく，密で，前鼻管にも斑紋がある。

（日比野友亮）



モンガラドオシ *Ophichthus erabo*, FRLM 38980, 737 mm TL, 熊野灘

クサナギウミヘビ *Ophichthus kusanagi* Hibino, McCosker & Tashiro 2019

台湾と日本に分布し，国内では駿河湾，三重県尾鷲沖（パラタイプ），土佐湾から採集されている。体は一様に暗褐色。背鰭と臀鰭は淡褐色で，暗褐色ないし黒色の縁取りをもたない。背鰭の始部は胸鰭後端直上よりもはるかに後方に位置し，鰓孔と背鰭の始部との距離は胸鰭長の3.0-3.5倍。

（日比野友亮）



クサナギウミヘビ *Ophichthus kusanagi*, FRLM 61321, 638 mm TL, 熊野灘

メダマウミヘビ *Ophichthus megalops* Asano 1987

台湾と日本に分布し，国内では本種のタイプ標本である三重県尾鷲産の1標本のみが知られる。体は背側面が褐色，腹部は乳白色で，臀鰭の末端に黒色域をもつ。眼は大きく，背鰭の始部は胸鰭後端直上よりもはるかに後方に位置する。

（日比野友亮）



メダマウミヘビ *Ophichthus megalops*, TOU-AE 6872, 442 mm TL, 台湾

スソウミヘビ
Ophichthus urolophus
(Temminck & Schlegel 1846)

東インド洋からオーストラリア沿岸にかけて分布し、国内の太平洋側では東北地方以南、日本海側では新潟県以南に分布する。三重県では熊野灘の底曳網でたびたび混獲さ



スソウミヘビ *Ophichthus urolophus*, FRLM 32917, 447 mm TL, 熊野灘

れる。体は暗褐色で、腹部ではやや淡い個体もある。イナカウミヘビ *Ophichthus asakusae* Jordan & Snyder

1901 とは尾部先端が細く、表面が平滑であることなどで区別される。
 (日比野友亮)

ホタテウミヘビ
Ophichthus zophistius
(Jordan & Snyder 1901)

台湾、中国、韓国、日本に分布し、国内の太平洋側では宮城県以南 (Ramsar Sites Information Service, 2023)、日本海側では新潟県以南、口永良部島まで分布する。三重県では本科魚類としてもっとも普通に出現し、通常は沿岸の浅所であるが、稀に水深 100 m を超えるような沖合の表層でも採集されている。体は暗褐色で、不明瞭な帯状の斑紋をもつ。背鰭始部付近は暗褐色。従来インドー太平洋に広く分布するトンガリホタテウミヘビ *Ophichthus altipennis* (Kaup 1856) と同種として扱われたが、吻がより鈍いこと、背鰭の始部は通常鰓孔直上か、より後方に位置すること、尾部が太く緩やかに先細



ホタテウミヘビ *Ophichthus zophistius*, FRLM 47470, 714 mm TL, 津市白塚町

ることなどで区別される。

(日比野友亮)

ダイナンウミヘビ属 Genus *Ophisurus* Lacepède 1800

ダイナンウミヘビ
Ophisurus macrorhynchus
Bleeker 1852

中国、台湾、韓国、日本に分布し、国内の太平洋側では北海道白尻、日本海側では新潟県以南に分布する。体は銀色を帯び、背面は淡褐色。口は大きく、吻と下顎はよく尖る。大型で 1.5 m を超える。(日比野友亮)



ダイナンウミヘビ *Ophisurus macrorhynchus*, FRLM 38898, 1750 mm TL, 尾鷲市曾根町

ミナミホタテウミヘビ属 Genus *Pisodonophis* Kaup 1856

ミナミホタテウミヘビ
Pisodonophis cancrivorus
(Richardson 1848)

インドー太平洋に広く分布し、国内の太平洋側では神奈川県、日本海側では京都府舞鶴以南に分布する。体は暗褐色から淡い黄褐色までやや変異があり、腹部はやや淡い。背鰭始部は胸鰭中央付近直上に位置する。歯はやや丸みを帯び、特に前方鋤骨歯はよく発達し白歯状を呈する。
 (日比野友亮)



ミナミホタテウミヘビ *Pisodonophis cancrivorus*, FRLM 44093, 560 mm TL, 志摩市志摩町御座

ミミズアナゴ属 Genus *Scolecenchelys* Ogilby 1897

ミサキウナギ *Scolecenchelys aoki* (Jordan & Snyder 1901)

韓国と日本に分布し、国内の太平洋側では北海道（津軽海峡）から宮崎県に、日本海側では秋田県から長崎県にかけて分布する。本種の新参シノニムである *Muraenichthys okamurai* Machida & Ohta 1996 のタイプ産地は志摩市の大王崎沖。体は淡褐色で尾部先端付近は黄色みを帯びる。背鰭の始部は肛門直上よりもわずかに後方に位置する。総脊椎骨数は 131–137。 (日比野友亮)



ミサキウナギ *Scolecenchelys aoki*, FRLM 45291, 336 mm TL, 志摩市志摩町御座

ノドグロミミズアナゴ *Scolecenchelys fuscogularis* Hibino, Kai & Kimura 2013

韓国（東シナ海）と日本に分布し、国内では丹後沖と三重県熊野灘紀伊長島沖（パラタイプ）から採集されている。体は赤褐色。ミサキウナギに似るが脊椎骨数が 140 以上と多いこと、鰓嚢部腹面に黒色素胞が集まることで区別される。 (日比野友亮)



ノドグロミミズアナゴ *Scolecenchelys fuscogularis*, FRLM 46467, 139 mm TL
志摩市志摩町和具沖

サンゴミミズアナゴ *Scolecenchelys iredalei* (Whitley 1927)

インドー太平洋に広く分布し、国内では馬毛島と三重県（志摩市）から採集されている。ミミズアナゴ *Scolecenchelys gymnota* Bleeker 1857 に似るが主上顎骨歯が 1 列であること、肛門前脊椎骨数が 53–56 と多いことなどで区別され、ミサキウナギとは眼後部の感覚管孔が 2 と少ないことや脊椎骨数が 122–129 と少ないことなどで区別される。 (日比野友亮)



サンゴミミズアナゴ *Scolecenchelys iredalei*, FRLM 36656, 200 mm TL
志摩市志摩町御座（固定標本）

ボウウミヘビ属 Genus *Xyrias* Jordan & Snyder 1901

ボウウミヘビ *Xyrias revulsus* Jordan & Snyder 1901

インド洋から西太平洋に分布し、国内では神奈川県から土佐湾の太平洋岸、沖縄舟状海盆、尖閣諸島に分布する。体は淡褐色で、背側面に多数の小褐色斑をもつ。背面は淡褐色。口は大きく、吻と下顎は尖る。主上顎骨歯はきわめて小さく歯帯状。
(日比野友亮)



ボウウミヘビ *Xyrias revulsus*, FRLM 56095, 679 mm TL, 熊野灘

ハモ科 Family Muraenesocidae Kaup 1859

ハモ属 Genus *Muraenesox* McClelland 1843

スズハモ *Muraenesox bagio* (Hamilton 1822)

インドー西太平洋に広く分布し、国内では北海道以南（琉球列島を除く）に分布する。三重県では稀。ハ



スズハモ *Muraenesox bagio*, FRLM 15367, 1445 mm SL, 志摩市志摩町御座
モとは肛門前側線孔数が33-39と47-59と少ないことで区別される。
少ないこと、肛門前背鰭軟条数が
(日比野友亮)

ハモ *Muraenesox cinereus* (Forsskal 1775)

インドー西太平洋に広く分布し、国内では北海道以南（琉球列島では稀）に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘の広い範囲で漁獲され、一部



ハモ *Muraenesox cinereus*, FRLM 45487, 570 mm SL, 伊勢湾

は活魚で流通する。体の背側面は金色を帯びた褐色で、腹面は白色。歯は鋭く、鋤骨歯は三角形に近い。
(日比野友亮)

ハシナガアナゴ属 Genus *Oxyconger* Bleeker 1864

ハシナガアナゴ *Oxyconger leptognathus* (Bleeker 1858)

オーストラリア、台湾、中国、韓国、日本に分布し、国内では熊野灘、土佐湾、鹿児島県、山口県、長崎県



ハシナガアナゴ *Oxyconger leptognathus*, FRLM 32933, 296 mm SL, 尾鷲市

に分布する。吻はよく尖り、前鼻孔は肛門は体の中央よりも後方に位置する。
(日比野友亮)



津市御殿場海岸、ゴテンバウミヘビの採集地、2024年6月（日比野友亮撮影）

クズアナゴ科 Family Nettastomatidae Kaup 1859

イトアナゴ属 Genus *Saurenychelys* Peters 1864

イトアナゴ

Saurenychelys fierasfer
(Jordan & Snyder 1901)

台湾と日本に分布し、国内では三重県、和歌山県、土佐湾、愛媛県、山口県、長崎県、宮崎県、鹿児島県に分布する。従来本種に対しては *Saurenychelys cancrivora* Peters 1864 (タイプ産地：インド) が使われてきたが、ここでは Lin et al. (2015) の見解を踏まえ *S. fierasfer* を充てた。本属魚類についてはさらなる分類学的再検討が必要。
(日比野友亮)

4



イトアナゴ *Saurenychelys fierasfer*, FRLM 35097, 536 mm SL, 熊野灘

アナゴ科 Family Congridae Kaup 1856

ヒモアナゴ属 Genus *Acromycter* Smith & Kanazawa 1977

ヒモアナゴ

Acromycter nezumi
(Asano 1958)

中国、台湾 (Ho et al., 2018)、日本に分布し、国内では東北地方太平洋沖から土佐湾、東シナ海、沖縄舟状海盆に分布する。本種は三重県尾鷲沖の標本に基づいて新種として記

4



ヒモアナゴ *Acromycter nezumi*, FRLM 33945, 216 mm SL, 熊野灘

載された。鰓孔内側は黒い。口は小さく、口裂の後端は眼の前縁直下付近。後鼻孔は眼の前上方に位置する。
(日比野友亮)

ゴテンアナゴ属 Genus *Ariosoma* Swainson 1838

ハナアナゴ

Ariosoma anago
(Temminck & Schlegel 1846)

オーストラリア、台湾、韓国、日本に分布し、国内の太平洋側では千葉県から鹿児島県、日本海側では山口県から五島列島に分布する。三重

3



ハナアナゴ *Ariosoma anago*, FRLM 45978, 201 mm SL, 紀宝町鶴殿

県では熊野灘各地の定置網で普通に漁獲される。頭部の暗色斑は濃く、臀鰭縁辺には幅の太い明瞭な黒色縁辺がある。
(日比野友亮)

オオシロアナゴ

Ariosoma majus
(Asano 1958)

中国、台湾、韓国、日本に分布し、国内の太平洋側では千葉県から鹿児島県にかけて、日本海側では山口県から東シナ海に分布する。三重県では熊野灘各地の定置網で漁獲される

3



オオシロアナゴ *Ariosoma majus*, FRLM 36449, 413 mm SL, 志摩市志摩町御座

が個体数は多くない。頭部の暗色斑は淡く不明瞭。臀鰭の大部分は半透明で、後方に細い暗色縁辺がある。学名の表記については Smith et al. (2018) の見解に従い *Ariosoma majus* とした。
(日比野友亮)



津市御殿場海岸、ゴテンバウミヘビの採集地、2024年6月 (日比野友亮撮影)

ゴテンアナゴ
Ariosoma meeki
(Jordan & Snyder 1900)

中国, 台湾, 韓国, 日本に分布し, 国内では青森県から鹿児島県にかけて分布する. 三重県では熊野灘, 伊勢湾ともに普通に出現するが, 個体数は多くなく他のアナゴ科に混じってみりん干しとして加工されることがある. 眼の後縁に上下2個の暗褐色斑がある. 後頭部に側線管の開口部がない. 台湾では遺伝的な2型が確認されている (Smith et al., 2018). (日比野友亮)

3



ゴテンアナゴ *Ariosoma meeki*, FRLM 49228, 418 mm SL, 伊勢湾

シロアナゴ
Ariosoma shiroanago
(Asano 1958)

台湾, 韓国, 日本に分布し, 国内の太平洋側では千葉県から土佐湾, 日本海側では山口県, 東シナ海にかけて分布する. 本種は三重県尾鷲沖の標本に基づいて新種として記載された. オオシロアナゴとは脊椎骨数が156-162と多いこと, 肛門前側線

5



シロアナゴ *Ariosoma shiroanago*, KAUM-I. 55863, 465 mm SL, 沖縄島

孔数が55-59と多いことで区別される. (日比野友亮)

ツマグロアナゴ属 Genus *Bathycongrus* Ogilby 1898

ツマグロアナゴ
Bathycongrus retrotinctus
(Jordan & Snyder 1901)

西太平洋に広く分布し, 国内では茨城県から高知県に分布する. 体は暗褐色で, 腹部は白い. 吻はやや長い. 体は暗褐色で, 腹部は白い. 吻はやや短い. 鋤骨の正中線上に2本

4



ツマグロアナゴ *Bathycongrus retrotinctus*, FRLM 34150, 397 mm SL, 熊野灘

の大型の歯が並び, その周囲を囲むように小型の歯が並ぶ. 総脊椎骨数は143-151 (Smith and Ho, 2018b; 酒井ほか, 2023). (日比野友亮)

ニセツマグロアナゴ
Bathycongrus wallacei
(Castle 1968)

南西インド洋とインドネシアから日本にかけての北西太平洋に分布し, 国内では神奈川県から土佐湾, および東シナ海に分布する (酒井ほか, 2023). 体は暗褐色で, 腹部は白い. 吻はやや長い. 鋤骨の正中線上に2本の大型の歯が並び, その直後に小型の歯が並ぶ. 総脊椎骨数は169-181 (Smith and Ho, 2018b; 酒井ほか, 2023). (日比野友亮)

4



ニセツマグロアナゴ *Bathycongrus wallacei*, FRLM 40710, 392 mm SL, 高知県

クロアナゴ属 Genus *Conger* Bosc 1817

キリアナゴ *Conger cinereus* Rüppell 1871

インドー太平洋に広く分布し、国内では主に琉球列島に分布する（本州、四国では稀）。三重県ではきわめて稀で、1個体が尾鷲市から得られているのみ。体は紫みを帯びた褐色で、興奮すると体に幅の揃った横帯が現れる。背鰭は大きく、始部は胸鰭後端よりも前方に位置する。（日比野友亮）

5



キリアナゴ *Conger cinereus*, FRLM 38698, 724 mm SL, 沖縄県

ダイナンアナゴ *Conger erebennus* (Jordan & Snyder 1901)

少なくとも韓国と日本に分布し、国内では北海道から与論島にかけて分布する。三重県では志摩市沖で延縄や釣り、定置網による採集例があり、ムツ釣りの餌として利用されている。体は褐色で、腹部は白

3



ダイナンアナゴ *Conger erebennus*, FRLM 47889, 523 mm SL, 南伊勢町賛浦

い。体の側線孔とは別に小白色点の列が背側面にあるがきわめて小さく視認しにくい。頭部は大きく、全長の約16–18%。台湾で *Conger macrocephalus* Kanazawa 1958 として

報告されている種 (Smith and Ho, 2018a) は本種の可能性があり、種の異同を含めて再検討する必要がある。（日比野友亮）

クロアナゴ *Conger jordani* Kanazawa 1958

少なくとも中国、台湾、韓国、日本に分布し、国内では青森県以南に分布する。三重県では概ね熊野灘全域に出現するが、伊勢湾では湾口部に限られる。骨が硬く、県内ではほとんど利用されない。体は紫みを帯

2



クロアナゴ *Conger jordani*, FRLM 47892, 536 mm SL, 南伊勢町賛浦

びた褐色で、腹部は白い。頭部は小さく、全長の約14%。ダイナンアナゴとは頭部が小さいことや背鰭の始部が胸鰭後端直上よりも後方に位置

すること、胸鰭軟条数が15–16と少ないことで区別される。成熟サイズにも差異が認められる。近年学名が変更された。（日比野友亮）

マアナゴ *Conger myriaster* (Brevoort 1856)

中国、台湾、韓国、日本に分布し、国内では北海道以南（琉球列島を除く）に分布する。体は褐色で、頭部と体の側線孔は白く縁取られて目立

1



マアナゴ *Conger myriaster*, FRLM 41431, 290 mm SL, 津市柳山津興

つ。体背側面には白色点列がある。三重県では伊勢湾、熊野灘双方に出

現し、伊勢湾中部や尾鷲沖周辺では重要な漁獲対象種。（日比野友亮）

オキアナゴ属 Genus *Congriscus* Jordan & Hubbs 1925

オキアナゴ *Congriscus megastomus* (Günther 1877)

中国、台湾、日本、東太平洋北部（変態前仔魚のみ）に分布し、国内の太平洋岸では相模湾から土佐湾、日本海側では山口県、東シナ海、沖縄舟状海盆、九州ーパラオ海嶺に分布する。三重県では志摩市や尾鷲市から

3



オキアナゴ *Congriscus megastomus*, FRLM 54650, 466 mm SL, 志摩市沖熊野灘

採集されている。体は微かに透明感のある淡褐色で、わずかに紫みを帯びる。尾部先端に黒色斑がある。体

後方の背鰭、臀鰭、尾鰭縁辺は白い。歯形仔魚はきわめて大型。（日比野友亮）

ギンアナゴ属 Genus *Gnathophis* Kaup 1859

ニセギンアナゴ *Gnathophis ginanago* (Asano 1958)

現在のところ日本でのみ知られる種で、太平洋側では青森県沖から錦江湾、日本海側では山口県、東シナ海中央部大陸棚縁域に分布する（櫻井ほか, 2014; 岩坪, 2017）。本

4



ニセギンアナゴ *Gnathophis ginanago*, KAUM-I. 769, 253 mm TL, 鹿児島県

種は尾鷲沖の標本に基づいて新種記載された。体は淡褐色で、背鰭と臀鰭に黒色縁辺がある。側線孔は胸鰭付近で側線管の下側に開口する。肛

門前側線孔数は35–40。総脊椎骨数は126–135。両顎歯は小さく、鈍い円錐形を呈する。（日比野友亮）

ギンアナゴ
Gnathophis heterognathos
 (Bleeker 1858)

中国, 台湾, 韓国, 日本, 天皇海山, ハワイ海嶺に分布し, 国内の太平洋側では北海道から鹿児島県, 日本海側では新潟県から山口県, 東シ

3



ギンアナゴ *Gnathophis heterognathos*, FRLM 43649, 165 mm SL, 志摩市志摩町御座

ナ海に分布する。体は淡褐色で, 生鮮状態では体側が銀色を帯びる。背鰭と臀鰭に黒色縁辺がある。側線孔

は胸鰭付近でも側線管の上側に開口する。肛門前側線孔数は 29-35。総脊椎骨数は 117-124。 (日比野友亮)

ヒメギンアナゴ
Gnathophis xenica
 (Matsubara & Ochiai 1951)

現在のところ日本でのみ知られる種で, 福島県沖から土佐湾にかけての太平洋岸に分布する (櫻井ほか, 2014)。体は褐色で, 腹部は白い。背鰭と臀鰭に黒色縁辺がない。肛門前側線孔数は 41-49。総脊椎骨数は 151-159。 (日比野友亮)

5



ヒメギンアナゴ *Gnathophis xenica*, HUMZ 206828, 316 mm SL, 福島県

ミナミアナゴ属 Genus *Japonoconger* Asano 1958

ミナミアナゴ
Japonoconger sivicolus
 (Matsubara & Ochiai 1951)

中国, 台湾, 日本に分布し, 国内では千葉県から土佐湾と沖縄舟状海盆に分布する。本種は三重県尾鷲沖の標本に基づいて新種として記載された。体は暗褐色で, 尾部は糸状にならず中庸。鋤骨歯帯は長い。

(日比野友亮)

ミナミアナゴ *Japonoconger sivicolus*
 KMNH VR 100223, 548 mm SL, 台湾

5



キツネアナゴ属 Genus *Rhynchoconger* Jordan & Hubbs 1925

キツネアナゴ
Rhynchoconger ectenurus
 (Jordan & Richardson 1909)

ベトナム, 中国, 台湾, 韓国, 日本に分布し, 国内では愛知県から鹿児島県に分布する。体の背面は紫がかった暗褐色で, 腹部は白い。尾部先端は細く, 尾鰭は黒い。鋤骨歯帯は短い。

(日比野友亮)

5



キツネアナゴ *Rhynchoconger ectenurus*, FRLM 40713, 439 mm SL, 高知県

アイアナゴ属 Genus *Uroconger* Kaup 1856

アイアナゴ *Uroconger lepturus* (Richardson 1845)

インド洋から西太平洋に分布し、国内では駿河湾以南、長崎県、沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘の底曳網で漁獲され、稀に定置網でも採集されている。体の背面は暗褐色で、腹部は白色から褐色。尾部先端は細く、尾鰭は黒い。歯は概してやや大きい。遺伝的に複数の系統が含まれる (Ho et al., 2015)。

(日比野友亮)



アイアナゴ *Uroconger lepturus*, FRLM 49192, 326 mm SL, 南伊勢町奈屋浦

ニシン目 Order Clupeiformes

ニシン亜目 Suborder Clupeoidei

キビナゴ科 Family Spratelloididae Jordan 1925

キビナゴ属 Genus *Spratelloides* Bleeker 1851

キビナゴ *Spratelloides gracilis* (Temminck & Schlegel 1846)

インドー太平洋の熱帯から温帯域、日本では茨城県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で普通に見られる。本種は体側に銀色の縦帯があること、吻が眼径より長いことで同属のミナミキビナゴ *Spratelloides delicatulus* (Bennett 1832) やリュウキュウキビナゴ *Spratelloides atrofasciatus* Schultz 1943 から区別できる。

(木村清志)



キビナゴ *Spratelloides gracilis*, FRLM 28535, 73 mm SL, 熊野市遊木町

カタクチイワシ科 Family Engraulidae Gill 1861

タイワンアイノコイワシ属 Genus *Encrasicholina* Fowler 1938

タイワンアイノコイワシ *Encrasicholina punctifer* Fowler 1938

アンダマン海から中部太平洋、日本では神奈川県以南に分布する (畑・本村, 2018)。三重県では熊野灘、伊勢湾の両方から標本が得られている。本属は腹部に稜鱗をもつことでカタクチイワシ属と、臀鰭始部が背鰭基底後端よりも後方にあることによってインドアイノコイワシ属と区別できる。本種は上顎が短く、後端は前鰓蓋骨前縁に達しないことで、日本産同属2種、シロ



タイワンアイノコイワシ *Encrasicholina punctifer*, FRLM 61669, 64 mm SL, 尾鷲市

ガネアイノコイワシ *Encrasicholina heteroloba* (Rüppell 1837) やミズスル *Encrasicholina pseudoheteroloba* (Hardenberg 1933) と区別できる。

(木村清志)

カタクチイワシ属 Genus *Engraulis* Cuvier 1816

カタクチイワシ *Engraulis japonica* Temminck & Schlegel 1846

北海道から九州、カムチャツカ半島、沿海州、東シナ海・南シナ海の中国沿岸、フィリピン、インドネシアスラウェシ島に分布する。三重県沿岸に広く分布し、伊勢湾では重要な漁獲対象魚となっている。

(木村清志)



カタクチイワシ *Engraulis japonica*, FRLM 37117, 105 mm SL, 志摩市志摩町御座

インドアイノコイワシ属 Genus *Stolephorus* Lacepède 1803

インドアイノコイワシ *Stolephorus balinensis* (Bleeker 1849)

西太平洋の熱帯域、マレーシアからパプアニューギニア、中国南シナ海沿岸から台湾、九州、四国に分布する。日本からは沖縄、鹿児島、宮崎、高知各県で記録されている (Hata et al., 2021)。三重県では南伊勢町で採集された。本種は上顎が短く、後縁は前鰓蓋骨前縁に達する程度であること、腹鰭前稜鱗が少なく 2-6 であることによって、日本産同属のナンブウアイノコイワシ *Stolephorus*



インドアイノコイワシ *Stolephorus balinensis*, FRLM 60867, 123 mm SL, 南伊勢町宿浦

apiensis (Jordan & Seale 1906) や *mercurius* Hata, Lavoué & Motomura 2021 と区別できる。 (木村清志)

ウルメイワシ科 Family *Dussumieriidae* Gill 1861

ウルメイワシ属 Genus *Etrumeus* Bleeker 1853

ウルメイワシ *Etrumeus micropus* (Temminck & Schlegel 1846)

中国南シナ海からサハリン、日本では九州から北海道に分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘沿岸に広く分布する。本科魚類は腹中線上に稜鱗がない。

(木村清志)



ウルメイワシ *Etrumeus micropus*, FRLM 54852, 87 mm SL, 英虞湾内座賀島

マイワシ科 (新称) Family *Alosidae* Svetovidov 1952

マイワシ属 Genus *Sardinops* Hubbs 1929

マイワシ *Sardinops melanosticta* (Temminck & Schlegel 1846)

台湾からサハリンにかけての北西太平洋、日本では九州から北海道に分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘沿岸に広く分布する。本種は体側に 1-2 列の暗色点をもつ。体側に暗色点をもつホシヤマトミズン *Amblygaster sirm* (Walbaum 1792) とは主鰓蓋骨下部に斜めの骨質条線を



マイワシ *Sardinops melanosticta*, FRLM 37112, 169 mm SL, 志摩市志摩町御座

もつこと、下枝鰓耙数が 58 以上であることで区別できる。 (木村清志)

コノシロ科 Family Dorosomatidae Gill 1861

コノシロ属 Genus *Konosirus* Jordan & Snyder 1900

コノシロ

***Konosirus punctatus*
(Temminck & Schlegel 1846)**

ベトナム北部から沿海州，日本では九州から北海道にかけて分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘沿岸に広く分布する。河口から河川下流部によく進入する。背鰭の最後の軟条は伸長する。体型が類似するリュウキュウドロクイ *Nematalosa come* (Richardson 1846) やドロクイ *Nematalosa japonica* Regan 1917 とは上顎後端が下方に曲がらないことで区別できる。(木村清志)



コノシロ *Konosirus punctatus*, FRLM 37669, 169 mm SL, 志摩市大王町波切

サッパ属 Genus *Sardinella* Valenciennes 1847

カタボシイワシ

***Sardinella aurita*
Valenciennes 1847**

大西洋，インドー太平洋の熱帯・温帯域に広く分布する。日本では宮城県および京都府以南に分布。本種は腹鰭が9軟条であることによって同属他種から区別できる。

(木村清志)



カタボシイワシ *Sardinella aurita*, FRLM 36738, 107 mm SL, 志摩市志摩町御座

オグロイワシ

***Sardinella melanura*
(Cuvier 1829)**

アフリカ東岸からサモア，トンガのインドー太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。日本では沖縄から三重県にかけて分布する。本種は尾鰭両葉の後端が明瞭に黒いことが特徴。同様に尾鰭後端が黒いシマカゼイワシ *Sardinella electra* Hata & Motomura 2019 とは背鰭始部に黒斑がないことで区別できる。

(木村清志)



オグロイワシ *Sardinella melanura*, FRLM 39808, 88 mm SL, 志摩市志摩町御座

**サッパ *Sardinella zunasi*
(Bleeker 1854)**

中国南シナ海沿岸からピョートル大帝湾，日本では九州から北海道に分布する。本種は腹鰭が8軟条であること，尾鰭後端が黒くないこと，背鰭始部に黒斑がないことで，日本産同属他種から区別できる。また体型が類似したミズン *Herklotsichthys quadrimaculatus* (Rüppell 1837) とは臀鰭最後の2軟条が伸長することによって区別できる。(木村清志)



サッパ *Sardinella zunasi*, FRLM 37813, 102 mm SL, 志摩市志摩町御座

ネズミギス目 Order Gonorynchiformes

ネズミギス科 Family Gonorynchidae Fowler 1941

ネズミギス属 Genus *Gonorynchus* Scopoli 1777

ネズミギス

Gonorynchus abbreviatus
Temminck & Schlegel 1846

ベトナムからフィリピン、韓国、日本に至る西太平洋。日本では沖縄から茨城県、九州から新潟県の日本海・東シナ海に分布する。三重県では熊野灘の定置網で漁獲される。吻は尖り、腹面に1本のひげがある。背鰭、尾鰭の先端は黒い。

(木村清志)

2



ネズミギス *Gonorynchus abbreviatus*, FRLM 36962, 126 mm SL, 志摩市志摩町御座



ネズミギス *Gonorynchus abbreviatus*, FRLM 58461, 70 mm SL, 南伊勢町宿浦

コイ目 Order Cypriniformes

ドジョウ亜目 (新称) Suborder Cobitoidei

ドジョウ科 Family Cobitidae Swainson 1838

シマドジョウ属 Genus *Cobitis* Linnaeus 1758

アジメドジョウ

Cobitis delicata Niwa 1937

日本固有種。木曽川以西の長野県から奈良県北部・京都府。河川上中流域の平瀬に生息する。3対の口ひげを持ち、背鰭が体中央より後方に位置し、眼から吻端にかけての縦帯をもたず、口器が吸盤状になることで他の日本産ドジョウ科と区別できる。近年アジメドジョウ属 *Niwaella*

2



アジメドジョウ *Cobitis delicata*, FRLM 32524, 48 mm SL, 三重県

Nalbant 1963 からシマドジョウ属 (2016)。環境省絶滅危惧Ⅱ類。
Cobitis に戻された (Perdices et al., (淀 太我))

オオガタスジシマドジョウ

Cobitis magnostriata
Nakajima 2012

日本固有種。自然分布は琵琶湖および周辺河川。3対の口ひげを持ち、第2口ひげの長さは眼径とほぼ同程度。尾鰭基底の黒点は上下とも明瞭で接続する。オスの胸鰭骨質盤は円形。体側の斑紋は周年明瞭な縦条であることで他の三重県産ドジョウ科と区別できる。少なくとも3種以上の交雑で生まれた異質四倍体性種。

5



オオガタスジシマドジョウ *Cobitis magnostriata*, FRLM 50530, 58 mm SL, 滋賀県

三重県では国内外来魚として雲出川に生息している (三内・尾山 2025)。環境省絶滅危惧ⅠB類。(淀 太我)

**トウカイコガタ
スジシマドジョウ
Cobitis minamorii tokaiensis
Nakajima 2012**

日本固有亜種。遠州灘西部・三河湾・伊勢湾流入河川の支流や水路に生息する。3対の口ひげを持ち、尾鰭基底の上下の黒斑は下がやや不明瞭で、尾鰭に規則的な3-4列の横帯をもち、繁殖期のオスのみ体側の斑紋列が縦条になる。分布の重複するニシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type B とは、吻が短く丸いこと、第



トウカイコガタスジシマドジョウ *Cobitis minamorii tokaiensis*, FRLM 52775
43 mm SL, 三重県

2口ひげが短く眼径以下であること、尾鰭基底の下黒斑がやや不明瞭なこと、オスの胸鰭骨質板が円形なこ

とで区別できる。タイプ産地は三重県雲出川水系の水路。環境省絶滅危惧IB類。(淀 太我)

**ニシシマドジョウ
Cobitis sp. BIWAE type B**

日本固有種。新潟県・長野県・静岡県から福井県・滋賀県・三重県と兵庫県北部から島根県東部にかけての河川中流域に不連続分布する。3対の口ひげをもち、第2口ひげが眼径より長く、尾鰭基底の上下の黒斑は下が顕著に不明瞭（琵琶湖産を除く）、オス胸鰭の骨質板がくちばし状なことで他の日本産ドジョウ科と区別できる。ただし、オオシマドジョウ



ニシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type B, FRLM 52836, 62 mm SL, 度会町下久具

ウ *Cobitis* sp. BIWAE type A は本種のゲノムが倍化して生まれた種と考

えられており、両者の形態的な識別は困難。(淀 太我)

ドジョウ属 Genus *Misgurnus* Lacepède 1803

**ドジョウ
Misgurnus anguillicaudatus
(Cantor 1842)**

朝鮮半島，中国大陸東部からベトナム北部，台湾，海南島。国内の自然分布は詳細が不明だが現在北海道から九州まで広く分布する。河川支流や細流，水路に多く生息する。日本に生息する同属他種とは，オス胸鰭の骨質板が斧状，口ひげの長さが中庸で，背鰭最終軟条が分枝し，背



ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus*, FRLM 52784, 89 mm SL, 三重県

鰭条数が6-7であることで区別できる。なお，同一種とされているものの遺伝的・形態的に差異のある中国

大陸産の集団が各地に侵入している(松井・中島，2020)。環境省準絶滅危惧。(淀 太我)

**カラドジョウ
Misgurnus dabryanus
(Dabry de Thiersant 1872)**

国外外来種。原産地はアムール川からベトナム北部のアジア大陸東部，朝鮮半島，台湾，海南島。日本各地に侵入している。ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor 1842) と同様に止水的で泥底の環境に生息する。口ひげが長く，やや側扁し，尾柄の膜鰭部が背面腹面とも



カラドジョウ *Misgurnus dabryanus*, FRLM 65876, 68 mm SL, 津市納所町

に発達すること，オス胸鰭の骨質板が棒状に後方に延びること他の日

本産ドジョウ属と区別できる。(淀 太我)

フクドジョウ科 Family Nemacheilidae Regan 1911

ホトケドジョウ属 Genus *Lefua* Herzenstein 1888

ホトケドジョウ
Lefua echigonia
Jordan & Richardson 1907

日本固有種。自然分布は岩手県・秋田県から兵庫県までの本州。ただし和歌山県には分布しない。分布の南限は三重県志摩市である。湧水湿地や細流、谷津田の水路など夏季にも水温の上がない流れの緩やかな環境に生息する。4対の口ひげをも



ホトケドジョウ *Lefua echigonia*, FRLM 54666, 47 mm SL, 三重県

ち、尾鰭に明瞭な黒斑紋をもたず、腹鰭が背鰭のやや前方に位置し、眼から吻端にかけての暗色縦帯を持たないか不明瞭なことで他の日本産ドジョウ科と区別できる。環境省絶滅危惧 IB 類。(淀 太我)

コイ亜目 Suborder Cyprinoidei

コイ科 Family Cyprinidae Rafinesque 1815

フナ属 Genus *Carassius* Jarocki 1822

オオキンブナ
Carassius buergeri buergeri
Temminck & Schlegel 1846

日本産フナ類はゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri* Temminck & Schlegel 1846 を除き生物学的に非常に複雑であり、分類も混迷を極めていいる。本書では中部地方以西の本州太平洋側、四国、九州に自然分布し、大型になり、2倍体で両性生殖を行うものを本亜種とみなす。湖沼や河川中下流域に生息する。ゲンゴロウブナとは鰓耙数が36-45本と少ないこと、体高がやや低いこと、体色が黄色味を帯びることなどで区別できる。他の日本産フナ属とは鰓耙数、背鰭条数、喉部形態で区別可能とされるが、典型的な個体以外は困難。

(淀 太我)



オオキンブナ *Carassius buergeri buergeri*, FRLM 65246, 86 mm SL, 伊賀市柘植川

ゲンゴロウブナ
Carassius cuvieri
Temminck & Schlegel 1846

琵琶湖・淀川水系固有種。京都府巨椋池産の本種を品種改良した養殖品種「かわちぶな」が遊漁目的で「へらぶな」として全国各地に国内外来種として放流され、定着している。侵入先は主としてダム湖を含む湖沼だが、河川からも採集されることがある。他の日本産フナ属とは、鰓耙数が92-128本と多いこと、体高が高いこと、背側の鱗の模様により鱗列が縦線に見えることなどで区別できる。環境省絶滅危惧 IB 類。

(淀 太我)



ゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri*, FRLM 65872, 62 mm SL, 津市雲出川

ギンブナ *Carassius* sp.

本書では本種を日本産フナ属のうち3倍体（まれに4倍体）の集団とする。原則クローン繁殖。全国の湖沼、河川の中下流域などに生息する。本種は大陸起源の3倍体フナが日本列島に分布拡大後、ごくまれに生じる4倍体個体が各地の2倍体フナ *Carassius buergeri* subsp. と交雑して遺伝的多様性を獲得してきたため、遺伝的類似性は異なる生息地域間のギンブナ同士よりも生息地域内におけるギンブナと2倍体フナとの方が高い (Mishina et al., 2021)。そのためか、クローン繁殖集団にもかかわらず、形態も地域やクローン間で多様である。（淀 太我）



ギンブナ *Carassius* sp., FRLM 32610, 72 mm SL, 伊勢市五十鈴川

コイ属 Genus *Cyprinus* Linnaeus 1758

コイ *Cyprinus carpio* Linnaeus 1758

黒海・カスピ海・アラル海流入河川の広域。日本では北海道から沖縄までの全国に生息。ただし大多数はユーラシア大陸由来の外来集団（飼育型）で、在来集団（野生型）はいくつかの大規模河川・湖沼にのみ生息していたと考えられているが、詳細は不明。現在では琵琶湖の深層にのみ非交雑の在来集団が生息していると考えられている (Mabuchi et al., 2008)。主として湖沼や河川中下流域に生息する。在来集団は別種と考えられており、現在研究が進行中である。（淀 太我）



コイ *Cyprinus carpio*, FRLM 52610, 61 mm SL, 伊勢市汁谷川

クセノキプリス科 Family *Xenocyprididae* Günther 1868

ソウギョ属 Genus *Ctenopharyngodon* Steindachner 1866

ソウギョ *Ctenopharyngodon idella* (Valenciennes 1844)

アムール川以南のアジア大陸東部。国外外来種として日本各地に侵入している。三重県では長良川下流域で確認された（鈴木・木村, 1977）。本来の生息環境は大規模河川だが、本邦では移植により中小規模の湖沼などでも確認される。全長100 cmに達する。口ひげは無く、体形は細長い円筒形。開口は端位で吻がやや突出する。強い植物食性。自然繁殖が確認されているのは利根川水系のみだが、寿命が長く、在来水



ソウギョ *Ctenopharyngodon idella*, FRLM 8074, 449 mm SL, 中国

生植物群落に壊滅的な影響を与えることがある。（淀 太我）

カワバタモロコ属 Genus *Hemigrammocypripis* Fowler 1910

カワバタモロコ

Hemigrammocypripis neglecta
(Stieler 1907)

日本固有種。自然分布は静岡県から岡山県、四国瀬戸内側、九州西北部。湖沼や水路に生息する。全長5 cm 程度で、性的二型がありメスの方が体高が高く、オスは金色の婚姻色を呈する。ヒナモロコ *Aphyocypris chinensis* Günther 1868 に似るが腹鰭から肛門にかけての腹縁がキール状なことで区別できる。三重県津市のため池が1916年に本種の第二産地として報告された(田中, 1916b)。外来魚の影響等により、現在三重県内ではごく一部のため池に残存しているのみ。環境省絶滅危惧IB類。



カワバタモロコ *Hemigrammocypripis neglecta*, 三重県 (淀 太我撮影)

(淀 太我)

ワタカ属 Genus *Ischikauia* Jordan & Snyder 1900

ワタカ

Ischikauia steenackeri
(Sauvage 1883)

日本固有種。自然分布は琵琶湖・淀川水系、福井県三方湖(絶滅)、奈良盆地(野生絶滅)。湖沼や河川、水路に生息する。国内外来種として関東地方や東海地方、九州等各地に侵入している。三重県における記録も長良川下流域からのものであり国内外来種である。体は細長く側扁し、吻は細く尖り上方に湾曲する。腹鰭から肛門までの腹縁がキール状を呈するといった特徴的な形態から、他



ワタカ *Ischikauia steenackeri*, FRLM 65232, 217 mm SL, 大阪府

種との区別は容易。(淀 太我)

カワムツ属 Genus *Nipponocypris* Chen, Wu & Hsu 2008

ヌマムツ

Nipponocypris sieboldii
(Temminck & Schlegel 1846)

日本固有種。自然分布は中部地方以西の本州・四国瀬戸内側と九州北部。池沼や河川中下流域に生息するが、河川では本流域よりも流れの緩やかな水路的環境に多い。国内外来種として関東地方などに侵入している。三重県内では熊野地方には分布しない。同属のカワムツ *Nipponocypris temminckii* (Temminck & Schlegel 1846) とは、胸鰭と腹鰭の前縁が赤いこと、背鰭前縁の赤味が薄いこと、臀鰭分枝軟条数が9本であること、側線鱗数が53-60枚であること等で区別できる。

(淀 太我)

ヌマムツ *Nipponocypris sieboldii*

伊勢市楠部町

上 ♂, FRLM 27926, 97 mm SL

下 ♀, FRLM 27927, 109 mm SL



カワムツ

***Nipponocypris temminckii*
(Temminck & Schlegel 1846)**

朝鮮半島南西部と日本列島。日本での自然分布は中部地方以西の本州，四国，九州で，ヌマムツ *Nipponocypris sieboldii* (Temminck & Schlegel 1846) の分布しない紀伊半島南部や山陰地方，四国南部や九州南部にも分布する。主として河川上中流域に生息する。国内外来種として関東や東北地方にも侵入している。ヌマムツとは，胸鰭と腹鰭の前縁が黄色いこと，背鰭前縁が顕著に赤いこと，臀鰭分枝軟条数が10本であること，側線鱗数が43-51であること等で区別できる。（淀 太我）

カワムツ *Nipponocypris temminckii*
上 ♂, FRLM 29604, 111 mm SL
度会町宮川
下 ♀, FRLM 65871, 73 mm SL
津市安濃川

**ハス属 Genus *Opsariichthys* Bleeker 1863**

オイカワ

***Opsariichthys platypus*
(Temminck & Schlegel 1846)**

アジア大陸東北部，朝鮮半島西部，日本列島。日本での自然分布は関東地方以西の本州・四国瀬戸内側と九州北部。湖沼や河川中下流域に生息する。山陰地方や紀伊半島南部，四国南部，九州南部，東北地方や北陸地方には国内外来種として侵入している。三重県内でも熊野地方のものは外来と考えられる。ヌマムツ *Nipponocypris sieboldii* (Temminck & Schlegel 1846) やカワムツ *N. temminckii* (Temminck & Schlegel 1846) とは，体側に暗色縦帯を欠き銀白色で不規則な淡色の横帯を持つことで区別できる。体形や体色はハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris* (Temminck & Schlegel 1846) と類似するが，口裂が「へ」の字状でないこと，側線鱗数が48枚以下なことで区別できる。（淀 太我）

オイカワ *Opsariichthys platypus*
上 ♂, FRLM 29605, 105 mm SL
度会町宮川
下 ♀, FRLM 28252, 80 mm SL
志摩市池田川



**ハス *Opsariichthys
uncirostris uncirostris*
(Temminck & Schlegel 1846)**

日本固有亜種。自然分布は琵琶湖・淀川水系と福井県三方湖。大和川水系も自然分布の可能性がある（六山, 1948）。三方湖では絶滅した可能性が高い。成魚は魚食性が強い。国内外来種として東北地方から九州の各地に侵入している。口裂が「へ」の字状をしていることが大きな特徴で、これは系統的に顎歯をもたない本種の魚食性への適応と考えられている。体形や体色はオイカワ *Opsariichthys platypus* (Temminck & Schlegel 1846) に似る。環境省絶滅危惧Ⅱ類。（淀 太我）



ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris*, FRLM 45909, 164 mm SL, 津市芸濃町

タナゴ科 Family Acheilognathidae Bleeker 1863

タナゴ属 Genus Acheilognathus Bleeker 1859

**イチモンジタナゴ
Acheilognathus cyanostigma
Jordan & Fowler 1903**

日本固有種。自然分布は愛知県以西の本州および四国。湖沼や河川、水路に生息し、流れの緩やかな環境に多い。国内外来魚として九州に定着しているほか、自然分布域でも移植由来の個体による遺伝的攪乱が生じている。ごく短い口ひげ1対をもち、体高が低く、体側の青色縦帯が体前方まで延び、前端が丸まることで、近縁の日本産タナゴ科と区別できる。環境省絶滅危惧ⅠA類。

（淀 太我）

イチモンジタナゴ

Acheilognathus cyanostigma, 三重県

上 ♂, FRLM 10819, 53 mm SL

下 ♀, FRLM 10820, 40 mm SL



カネヒラ

Acheilognathus rhombeus
(Temminck & Schlegel 1846)

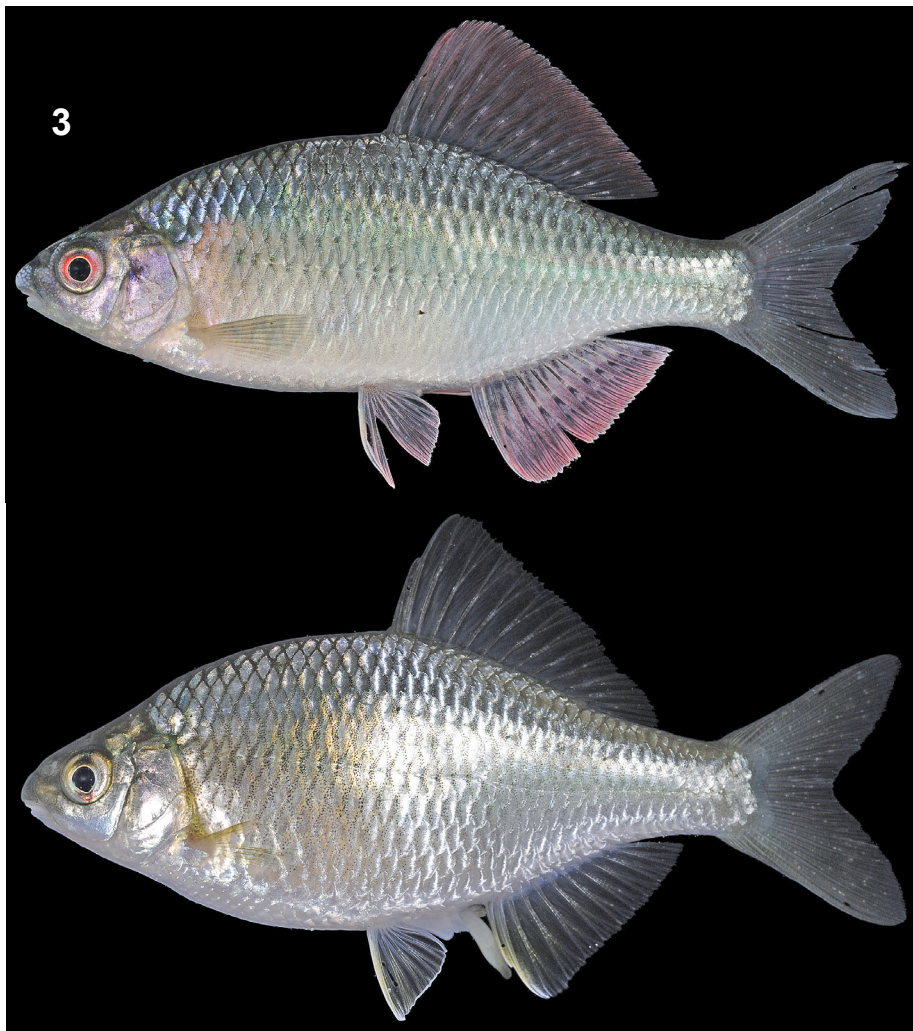
朝鮮半島西部および日本列島。日本での自然分布は琵琶湖淀川水系以西の本州、四国、九州。湖沼や河川、水路に生息する。三重県を含む各地に国内外来種として定着している。短い口ひげ1対をもち、体高が高く、側線は完全で、背鰭分枝条数が12-13本と比較的多いことで近縁の日本産タナゴ科と区別できる。日本産コイ目魚類には珍しい秋産卵。本種はかつて三重県レッドデータブックで絶滅危惧種とされていたが、国内外来種と判明し、取り下げられた。(淀 太我)

カネヒラ *Acheilognathus rhombeus*

津市雲出川水路

上 ♂, FRLM 63363, 67 mm SL

下 ♀, FRLM 63362, 60 mm SL



シロヒレタビラ

Acheilognathus tabira tabira
Jordan & Thompson 1914

日本固有亜種。自然分布は東海地方、近畿地方、山陽地方。湖沼や河川、水路に生息し、やや流れのある環境に多い。三重県に自然分布するが、他地域産の集団も国内外来種として侵入している。短い口ひげ1対を持ち、体高は高く、側線は完全で、オスは臀鰭外縁に白色の婚姻色を発する。三重県から記録のある同種他亜種からは体高が高く、オスの婚姻色が白色なことで区別できる。環境省絶滅危惧 IB 類。(淀 太我)

シロヒレタビラ

Acheilognathus tabira tabira, 滋賀県

上 ♂, WMNH-PIS13760, 57 mm SL

下 ♀, WMNH-PIS13761, 62 mm SL



キタノアカヒレタビラ
Acheilognathus
tabira tohokuensis
Arai, Fujikawa & Nagata 2007

日本固有亜種。自然分布は秋田県から新潟県の本州日本海側。湖沼や河川、水路に生息。三重県には国内外来種として侵入。短い口ひげ1対をもち、体高がやや低く、側線は完全で、オスは背鰭と臀鰭外縁に赤色の婚姻色を発する。アカヒレタビラ *Acheilognathus tabira erythropterus* Arai, Fujikawa & Nagata 2007 や ミナミアカヒレタビラ *Acheilognathus tabira jordanii* Arai, Fujikawa & Nagata 2007 との形態からの識別は困難だが、アカヒレタビラとは卵が長楕円形なことで、ミナミアカヒレタビラとはオスの背鰭と臀鰭の婚姻色が赤色で稚魚・幼魚の背鰭に黒斑がないことで区別できる。三重県内における本亜種侵入水域ではシロヒレタビラ *Acheilognathus tabira tabira* Jordan & Thompson 1914 およびミナミアカヒレタビラの侵入が確認されており（伊藤ほか, 2021）、写真個体も交雑個体の可能性もある。環境省絶滅危惧IB類。（淀 太我）



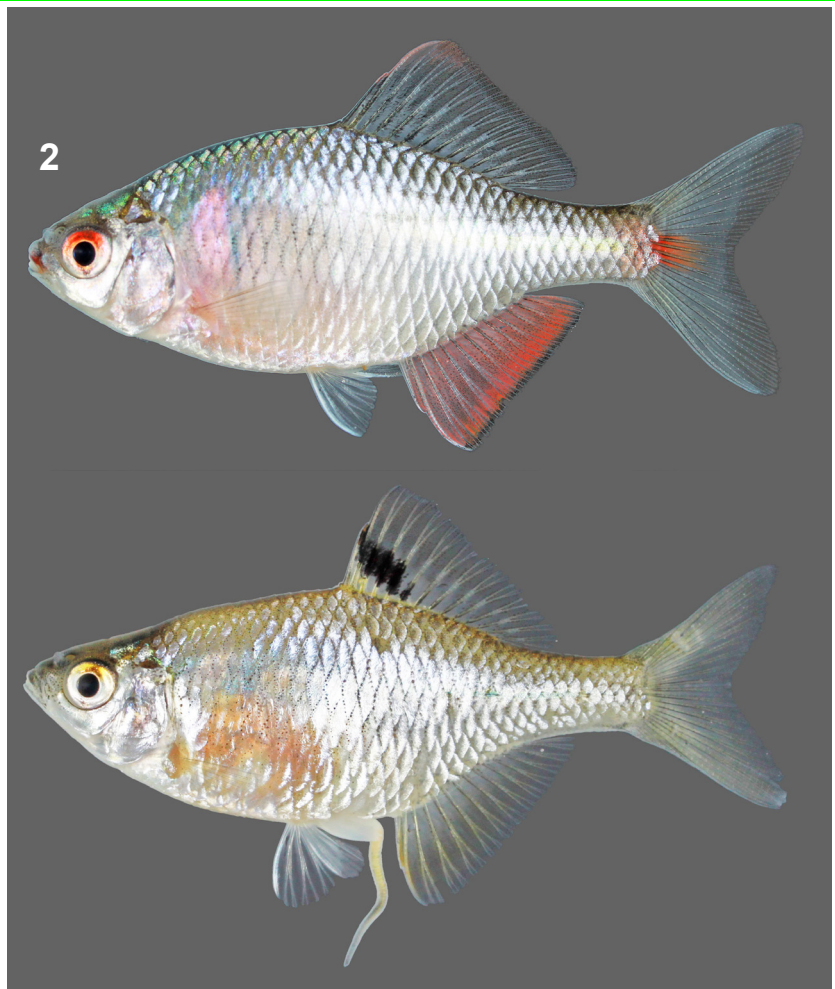
キタノアカヒレタビラ *Acheilognathus tabira tohokuensis*, 三重県
 上 ♂, FRLM 52760, 51 mm SL
 下 ♀, FRLM 52758, 55 mm SL

バラタナゴ属 Genus *Rhodeus* Agassiz 1832

タイリクバラタナゴ
Rhodeus ocellatus ocellatus
(Kner 1866)

中国大陸, 朝鮮半島, 台湾島。国外外来種として北海道から沖縄まで日本全国に侵入している。湖沼や河川、水路に生息する。流れの緩やかな環境に多い。口ひげを持たず、体高は高く、著しく側扁し、側線は不完全で、腹鰭前縁部に白色帯をもつ。近縁亜種のニッポンバラタナゴ *Rhodeus ocellatus kurumeus* Jordan & Thompson 1914 とは腹鰭前縁に白色帯をもつことや側線有孔鱗数が2-7枚であることで区別されるが、交雑が進んでおり形態からの識別は難しい。（淀 太我）

タイリクバラタナゴ
Rhodeus ocellatus ocellatus, 伊勢市汁谷川
 上 ♂, FRLM 52638, 32 mm SL
 下 ♀, FRLM 52583, 28 mm SL,



アブラボテ属 Genus *Tanakia* Jordan & Thompson 1914

ヤリタナゴ

Tanakia lanceolata
(Temminck & Schlegel 1846)

朝鮮半島南部から中国鴨緑江水系，日本列島，日本での自然分布は青森県から熊本県までの本州，四国，九州．湖沼や河川，水路に生息する．流れのやや速い環境に多い．長い1対の口ひげをもち，体高は低く，側線は完全．体側縦帯がなく生時の体色が青みがかったことで近縁の日本産タナゴ科と区別できる．繁殖期のオスでは背鰭上端，臀鰭外縁に加え，一部個体では尾鰭外縁部中央にも赤色を帯びる．環境省準絶滅危惧．
(淀 太我)

ヤリタナゴ *Tanakia lanceolata*，三重県
上 ♂，FRLM 52628, 58 mm SL
下 ♀，FRLM 52586, 54 mm SL

3



アブラボテ

Tanakia limbata
(Temminck & Schlegel 1846)

日本固有種．自然分布は濃尾平野以西の本州，四国，九州．河川や水路に生息する．流れのやや緩やかな環境に多い．長い1対の口ひげをもち，体高はやや高く，側線は完全で，体側縦帯がなく，生時の体色が褐色なことで近縁の日本産タナゴ科と区別できる．環境省準絶滅危惧．
(淀 太我)

アブラボテ *Tanakia limbata*
上 ♂，FRLM 52839, 45 mm SL
三重県
下 ♀，FRLM 10571, 36 mm SL
岐阜県

3



カマツカ科 Family Gobionidae Bleeker 1863

ゼゼラ属 Genus *Biwia* Jordan & Fowler 1903

ゼゼラ

Biwia zezera (Ishikawa 1895)

日本固有種。自然分布は濃尾平野、琵琶湖・淀川水系、山陽地方、九州北部に不連続。湖沼や河川中下流域に生息する。関東地方等に国内外来種として侵入している。他の日本産カマツカ科とは、吻が丸く短いこと、口ひげをもたないこと、背鰭外縁が雌雄ともにやや凹むことで区別できる。口は小さく、突出しない。三重県内の生息場所は極めて限定的。環境省絶滅危惧Ⅱ類。（淀 太我）



ゼゼラ *Biwia zezera*, FRLM 52766, 57 mm SL, 三重県

タモロコ属 Genus *Gnathopogon* Bleeker 1860

タモロコ

Gnathopogon elongatus elongatus (Temminck & Schlegel 1846)

日本固有亜種。自然分布は中部地方以西の本州および四国。国内外来種として北海道と沖縄を除く各地に侵入している。湖沼や河川中下流域、水路に生息する。スゴモロコ属の種 *Squalidus* spp. とは背鰭先端が丸いことで区別できる。琵琶湖固有のホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* (Sauvage 1883) とは口ひげが瞳孔より長いこと等で区別できるが、区別の難しい個体も存在する。また、ホンモロコは近年休耕田における粗放的な養殖が拡大しており、流出個体



タモロコ *Gnathopogon elongatus elongatus*, FRLM 65264, 66 mm SL, 伊賀市柘植川

や交雑個体の存在に留意する必要がある。（淀 太我）

ニゴイ属 Genus *Hemibarbus* Bleeker 1860

ニゴイ

Hemibarbus barbus (Temminck & Schlegel 1846)

日本固有種。自然分布は青森県から滋賀県・三重県までの本州と、山口県・九州北部および愛媛県肱川に不連続分布する。湖沼や河川中下流域に生息する。三重県では、伊勢湾水域にはニゴイ、伊賀水域にはコウライニゴイ *Hemibarbus labeo* (Pallas 1776) が分布する（田畑，私信）。コウライニゴイとは、下唇の皮弁の発達が悪いことで区別できるが、小型



ニゴイ *Hemibarbus barbus*, FRLM 32694, 74 mm SL, 伊勢市神路川

個体ではコウライニゴイも発達して おらず、区別は難しい。（淀 太我）

コウライニゴイ
Hemibarbus labeo
(Pallas 1776)

ロシア・アムール川からベトナム・ソンコイ川までのアジア大陸東部、朝鮮半島、日本列島、台湾、海南島。日本での自然分布は中部地方から島根県・広島県までの本州と四国東部。三重県では伊賀水域に分布する。湖沼や河川中下流域に生息する。下唇皮弁が発達することでニゴイ *Hemibarbus barbus* (Temminck &



コウライニゴイ *Hemibarbus labeo*, FRLM 24865, 136 mm SL, 兵庫県 (固定標本)

Schlegel 1846) と区別できるが、小型個体では難しい。(淀 太我)

ズナガニゴイ
Hemibarbus longirostris
(Regan 1908)

朝鮮半島から中国遼河、日本列島。日本での自然分布は三重県以西の本州。河川中流域に生息する。三重県伊勢湾流入河川の集団は国内外来種の可能性もある。日本産同属他種とは、全長 20 cm 程度と比較的小型なことや、体色の白味が強く、体側や背鰭、尾鰭に明瞭な小斑点が散在することで区別できる。(淀 太我)



ズナガニゴイ *Hemibarbus longirostris*, FRLM 65873, 75 mm SL, 津市雲出川

カマツカ属 Genus *Pseudogobio* Bleeker 1860

ナガレカマツカ
Pseudogobio agathonectris
Tominaga & Kawase 2019

日本固有種。自然分布は静岡県以西の本州。河川の上流域から下流域に生息する。ホロタイプの産地は三重県鈴鹿川水系安楽川。同属で分布が重複するカマツカ *Pseudogobio esocinus* (Temminck & Schlegel 1846) とは、口ひげが長く、吻が短く、暗色斑が明瞭で、胸鰭外縁が丸みを帯びることで区別できるが、両種とも形態変異が大きく、交雑個体も存在するため区別は難しい。(淀 太我)



ナガレカマツカ *Pseudogobio agathonectris*, FRLM 65874, 87 mm SL, 亀山市安楽川

カマツカ
Pseudogobio esocinus
(Temminck & Schlegel 1846)

日本固有種。自然分布は静岡県以西の本州、四国、九州。ただし、紀伊半島南部や四国南部には分布しない。しかし、これらの地方や東日本の各地に国内外来種として侵入している。河川の上流域から下流域に生息する。従来、朝鮮半島や中國大陸に生息する集団も同種とされていたが近年では別種と考えられている。(淀 太我)



カマツカ *Pseudogobio esocinus*, FRLM 65263, 127 mm SL, 伊賀市柘植川

モツゴ属 Genus *Pseudorasbora* Bleeker 1860

モツゴ

Pseudorasbora parva
(Temminck & Schlegel 1846)

朝鮮半島, 日本列島, 中国, 台湾.
日本での自然分布は関東以西の本
州, 四国, 九州. 湖沼や河川中下流域,
水路に生息する. 東日本や北海道に
は国内外来種として侵入している.
口は小さく上向きで口ひげはなく,
側線は完全. 吻端から尾鰭基底にか
けて黒色縦帯をもつ. 同属のシナイ
モツゴ *Pseudorasbora pumila* Miyadi
1930 や ウシモツゴ *Pseudorasbora*
pugnax Kawase & Hosoya 2015 と
は, 側線が完全で, 頭部が小さく,
尾柄が長いことで区別できる.

(淀 太我)

モツゴ *Pseudorasbora parva*
上 FRLM 65261, 50 mm SL
伊賀市滝川
下 FRLM 32692, 45 mm SL
伊勢市五十鈴川

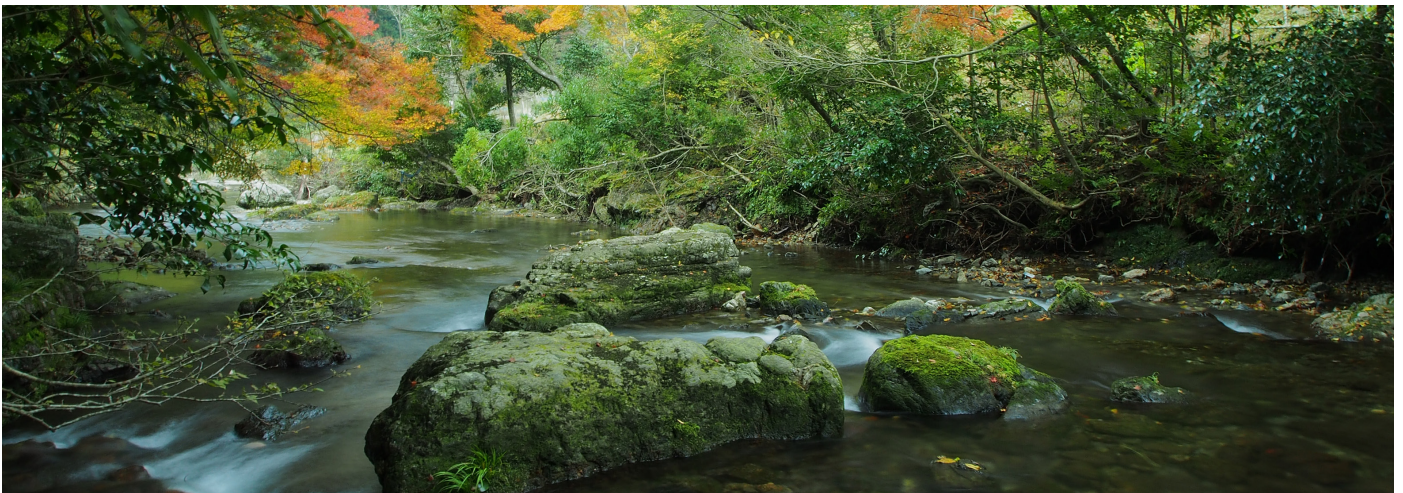


ウシモツゴ

Pseudorasbora pugnax
Kawase & Hosoya 2015

日本固有種. 愛知県, 岐阜県, 三
重県にのみ分布する. 生息地は 10
箇所未満のため池のみ. シナイモツ
ゴ *Pseudorasbora pumila* Miyadi 1930
との形態的識別は困難だが, 本種は
成魚で黒色縦帯を欠くこと, 脊椎骨
数が 33-34 個と少ないこと, 頭部側
線系の形状で区別できる. 環境省絶
滅危惧 IA 類. (淀 太我)

ウシモツゴ *Pseudorasbora pugnax*
上 FRLM 16288, 44 mm SL
三重県 (固定標本)
下 三重県 (武藤 滉撮影)



五十鈴川, 2016 年 11 月 (松尾 怜撮影)

ムギツク属 Genus *Pungtungia* Herzenstein 1892

ムギツク *Pungtungia herzi* Herzenstein 1892

朝鮮半島，日本列島，日本での自然分布は三重県・福井県以西の本州，四国東部，九州北部，河川中流域や水路に生息する。吻は尖り，1対の口ひげをもち，吻端から尾鰭の鰭膜にまで至る太い黒色縦帯をもつ。尾柄も太短く特殊な体型をしており，他種からの識別は容易。卵を保護する性質を持つ他魚種に托卵する。

(淀 太我)

ムギツク *Pungtungia herzi*

名張市名張川

上 FRLM 65265, 54 mm SL

下 FRLM 63324, 24 mm SL



ヒガイ属 Genus *Sarcocheilichthys* Bleeker 1860

カワヒガイ *Sarcocheilichthys* *variegatus variegatus* (Temminck & Schlegel 1846)

日本固有亜種。自然分布は愛知県豊川以西の本州，九州北部。国内外来種として和歌山県に侵入している。吻は丸く，小さな口が下向きに付き，1対のごく短い口ひげをもち，体側に暗色の雲状斑がある。ビワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus microclus* Mori 1927 とは，尾柄高が高く頭長の49%以上であること，頭部が短く吻が丸いことで区別できるが，困難。ビワヒガイは日本各地に国内外来種として侵入しており，三重県にも侵入している可能性はある。また，本種には伊勢湾流入河川集団と西日本集団で遺伝的に大きな差があることが知られている (Komiya et al., 2013)。環境省準絶滅危惧。

(淀 太我)



カワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus variegatus*, 三重県

上 ♂, FRLM 52566, 67 mm SL

下 ♀, FRLM 52567, 84 mm SL

スゴモロコ属 Genus *Squalidus* Dybowski 1872

コウライモロコ *Squalidus chankaensis tsuchigae* (Jordan & Hubbs 1925)

朝鮮半島西部，日本列島．日本での自然分布は濃尾平野，近畿地方から山陽地方，四国北東部．河川中下流域や水路に生息する．同属のイトモロコ *Squalidus gracilis gracilis* (Temminck & Schlegel 1846) とは側線鱗の高さが他の鱗と同程度なことで，デメモロコ *Squalidus japonicus japonicus* (Sauvage 1883) とは口ひげが瞳孔径より長いことで区別できる．別亜種で琵琶湖固有のスゴモロコ *Squalidus chankaensis biwae* (Jordan



コウライモロコ *Squalidus chankaensis tsuchigae*, FRLM 33561, 55 mm SL, 伊勢市五十鈴川

& Snyder 1900) とは口ひげが上顎長とほぼ同じか長いことなどで区別できるが，変異もあり極めて困難．ス

ゴモロコは日本各地に国内外来種として侵入しており，三重県にも侵入している可能性はある．(淀 太我)

イトモロコ *Squalidus gracilis gracilis* (Temminck & Schlegel 1846)

日本固有亜種．自然分布は濃尾平野以西の本州，四国瀬戸内側，九州北部．河川中下流域や水路に生息する．長い口ひげ1対をもち，側線の上下に三角形の暗色斑が並ぶ．側線鱗は他の鱗より上下に高いことで形態的に類似する他種から区別できる．(淀 太我)



イトモロコ *Squalidus gracilis gracilis*, FRLM 52765, 46 mm SL, 東員町員弁川

デメモロコ *Squalidus japonicus japonicus* (Sauvage 1883)

日本固有亜種．自然分布は濃尾平野および琵琶湖．琵琶湖以外では，池沼や流れの緩やかな水路に生息する．瞳孔径より短い口ひげ1対をもつことなどで同属他種から区別できる．琵琶湖集団と濃尾平野集団では遺伝的・形態的に差異が認められている．環境省絶滅危惧Ⅱ類．(淀 太我)



デメモロコ *Squalidus japonicus japonicus*, FRLM 40679, 46 mm SL, 滋賀県

ウグイ科 Family Leuciscidae Bonaparte 1835

ウグイ属 Genus *Pseudaspius* Dybowski 1869

ウグイ *Pseudaspius hakonensis* (Günther 1877)

サハリン，アムール川流域，朝鮮半島，日本列島．日本での自然分布は北海道から九州まで．湖沼，河川上流域から河口域，海域まで多種多様な環境に生息する．純淡水魚が大部分を占めるコイ目魚類において，日本では唯一同種内に河川型と降海型の両生活型をもつ．雌雄ともに婚姻色を発する．三重県には本種のみが自然分布するが，他の日本産同属



ウグイ *Pseudaspius hakonensis*, FRLM 16863, 237 mm SL, 志摩市志摩町御座

5種とは，婚姻色のパターン，背鰭前方鱗数，臀鰭外縁形状，口部形状

等の形質から区別できるものの，難しい．(淀 太我)

ヒメハヤ属 Genus *Rhynchocypris* Günther 1889

アブラハヤ *Rhynchocypris lagowskii steindachneri* (Sauvage 1883)

日本固有亜種。自然分布は青森県から福井県・岡山県の本州。国内外来種として北海道に侵入している。河川の上中流域に生息する。繁殖期にはメスの口吻がへら状に伸長する。三重県で分布が重複するタカハヤ *Rhynchocypris oxycephala jouyi* (Jordan & Snyder 1901) とは、尾柄高が低く頭長の48%以下で、側線上方横列鱗数が20以上、尾鰭基底中央に暗色斑をもち、尾鰭後縁の切れ込



アブラハヤ *Rhynchocypris lagowskii steindachneri*, FRLM 53223, 82 mm SL
伊勢市五十鈴川

みがやや深いことで区別できる。
(淀 太我)

タカハヤ *Rhynchocypris oxycephala jouyi* (Jordan & Snyder 1901)

日本固有亜種。自然分布は神奈川県西部および新潟県境川以西の本州、四国、九州。国内外来種として関東地方等に侵入している。メスの口吻がへら状に伸長する。日本産コイ目のなかでもっとも河川上流にまで生息する。アブラハヤ *Rhynchocypris lagowskii steindachneri* (Sauvage 1883) と重複分布する水系ではタカハヤの方が上流側に偏るが、同所的生息場所では、まれに交



タカハヤ *Rhynchocypris oxycephala jouyi*, FRLM 32559, 73 mm SL, 伊勢市島路川

雑を生じつつも独立集団を維持している。
(淀 太我)

ナマズ目 Order Siluriformes

ナマズ亜目 Suborder Siluroidei

ゴンズイ科 Family Plotosidae Bleeker 1858

ゴンズイ属 Genus *Plotosus* Lacepède 1803

ゴンズイ *Plotosus japonicus* Yoshino & Kishimoto 2008

日本と朝鮮半島に分布し、台湾と中国のものも同種と推測されている。日本では宮城県および新潟県から鹿児島県に分布し、琉球列島にも稀に出現する。4対の髭をもち、体に黄白色の縦線がある（老成魚では不明瞭）。近縁のミナミゴンズイ *Plotosus lineatus* (Thunberg 1787) とは尾鰭背部始部と臀鰭始部の距離が



ゴンズイ *Plotosus japonicus*, FRLM 27230, 195 mm SL, 志摩市志摩町御座

やや短いこと、第1鰓弓の鰓耙数が21-26で、通常23-25と少ないことで区別される。背鰭と胸鰭の棘に強い毒がある。
(日比野友亮)

ギギ科 Family Bagridae Bleeker 1858

ギバチ属 Genus *Tachysurus* Lacepède 1803

ネコギギ

Tachysurus ichikawai
(Okada & Kubota 1957)

日本固有種で、伊勢湾と三河湾に流入する河川の中流域に分布する。浮石のような隠れ家の多い環境を好む。本種は三重県の宮川から得られた標本をもとに新種として記載されたが、ホロタイプは現存しない。鈴鹿川上流の標本に基づき記載された *Coreobagrur okadai* Jayaram 1966 は本種の新参シノニム。雲出川水系中村川は「中村川ネコギギ生息地」とし



ネコギギ *Tachysurus ichikawai*, FRLM 10411, 66 mm SL, 三重県（固定標本）

て天然記念物に指定されている。体は太短く、吻は丸みを帯びる。4対の髭をもつ。尾鰭は二又するが湾入

はやや浅く、両葉の後端は丸みを帯びる。背鰭と胸鰭の棘に毒がある。環境省絶滅危惧 IB 類。（日比野友亮）

ギギ

Tachysurus nudiceps
(Sauvage 1883)

日本固有種で、琵琶湖・淀川水系以西の本州、吉野川、九州北東部に自然分布する。河川の中下流域や湖沼にすむ。三重県では淀川水系にのみ自然分布するが、宮川や雲出川水系などに移入されており、在来種と競合していると考えられる。すでにギギに置き換わった場所もある。体はやや細長く、吻は尖る。4対の髭をもつ。尾鰭は大きく二又する。背鰭と胸鰭の棘に毒がある。

（日比野友亮）

ギギ *Tachysurus nudiceps*
上 FRLM 52908, 174 mm SL
度会町宮川
下 FRLM 63323, 69 mm SL
名張市名張川



アカザ科 Family Amblycipitidae Day 1873

アカザ属 Genus *Liobagrus* Hilgendorf 1878

アカザ

Liobagrus reinii
Hilgendorf 1878

日本固有種で、宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に分布する。河川の主に中上流に生息し、浮石の豊富な環境を好む。体は概ね赤褐色で、4対の太い髭をもつ。繁殖期の雄は頭部が肥大する。尾鰭には切れ込みがない。背鰭と胸鰭の棘に毒がある。2つの大きく分化した遺伝的系統の存在が知られている（Nakagawa et al., 2015）。環境省絶滅危惧 II 類。（日比野友亮）



アカザ *Liobagrus reinii*, FRLM 30986, 82 mm SL, 三重県

ナマズ科 Family Siluridae Rafinesque 1815

ナマズ属 Genus *Silurus* Linnaeus 1758

ナマズ *Silurus asotus* Linnaeus 1758

東アジア全域に分布し、日本では三重県以西が自然分布域と考えられている（少なくとも関東以北では移入）。三重県ではほぼ全域の河川中下流域（緩流域）や水路に分布する。体に雲状紋をもつことが多いが、一



ナマズ *Silurus asotus*, FRLM 52780, 227 mm SL, 津市一志町

様に暗褐色のものもいる。髭は2対だが幼魚では3対。（日比野友亮）

タニガワナマズ *Silurus tomodai* Hibino & Tabata 2018

日本固有種で、中部地方の河川に分布する。河川の主に中上流に生息し、瀬淵が連続するような河床に変化のある場所を好む。三重県橿田川水系がタイプ産地。ナマズに比べ下顎の突出がやや弱く、両眼がやや離れる、生時下顎腹面から腹部にか



タニガワナマズ *Silurus tomodai*, FRLM 52842, 453 mm SL, 加茂川水系（パラタイプ）

けて斑紋に覆われる（ただし色彩は異なる）ことなどで区別される。（日比野友亮）

ニギス目 Order Argentiniformes

ニギス科 Family Argentinidae Bonaparte 1846

カゴシマニギス属 Genus *Argentina* Linnaeus 1758

カゴシマニギス *Argentina kagoshimae* Jordan & Snyder 1902

北西太平洋、台湾から韓国、日本では駿河湾以南の太平洋沿岸、兵庫県以南の日本海沿岸に分布する。熊野灘の底曳網漁で漁獲される。本種は上顎が下顎より突出すること、第1鰓弓の鰓耙が短く、その数は6-10であることが特徴。（榊原弘陸）



カゴシマニギス *Argentina kagoshimae*, FRLM 32894, 141 mm SL, 熊野灘

ニギス属 Genus *Glossanodon* Guichenot 1867

コタカニギス *Glossanodon kotakamaru* Endo & Nashida 2010

土佐湾、奄美大島沖に分布する。三重県では熊野灘から採集された。下顎に部分的に歯（2-4）があり、舌にも歯がある（1-3）ことで同属のイチモンジイワシ *Glossanodon lineatus* (Matsubara 1943) と区別できる。（榊原弘陸）



コタカニギス *Glossanodon kotakamaru*, FRLM 58874, 74 mm SL, 熊野灘（左右反転）

イチモンジイワシ
Glossanodon lineatus
(Matsubara 1943)

山口県日本海側，宮城県から房総半島の太平洋沖（稚魚），熊野灘，土佐湾から記録されている。本種は熊野灘から得られた標本に基づき記載された（Matsubara, 1943）。本種は吻が眼径にほぼ等しいかわずかに短



イチモンジイワシ *Glossanodon lineatus*, HUMZ 234781, 76 mm SL, 茨城県
 いこと，第1鰓弓の鰓耙は27-29で軟条であることから同属他種と区別
 あること，下顎には全体に歯がある（笹木大地）
 が，舌にはないこと，臀鰭は11-13

ニギス
Glossanodon semifasciatus
(Kishinouye 1904)

北西大西洋，インド洋西南部，南アフリカ，東シナ海，日本では青森県以南に分布する。熊野灘の底曳網漁の重要な漁獲対象魚。本種は吻が眼径より明らかに長いことで同属他



ニギス *Glossanodon semifasciatus*, FRLM 27105, 144 mm SL, 熊野灘
 種と区別できる。（榊原弘陸）

デメニギス科 Family Opisthoproctidae Schmidt 1918

ムカシデメニギス属 Genus *Bathylchnops* Cohen 1958

ムカシデメニギス
Bathylchnops exilis
Cohen 1958

日本近海から千島列島，アリューシャン列島，北東太平洋のカナダからバハカルフォルニアに分布。日本では鹿島灘から報告され，三重県では熊野灘で1個体採集された。腹鰭



ムカシデメニギス *Bathylchnops exilis*, FRLM 27899, 309 mm SL, 熊野灘（頭部損傷）
 始部は背鰭始部の前方に位置し，胸鰭よりも臀鰭に近い。（木村清志）

クロデメニギス属 Genus *Winteria* Brauer 1901

クロデメニギス
Winteria telescopa
Brauer 1901

全世界の暖海域，日本では房総半島沖，熊野灘，豆南諸島，小笠原諸島近海，琉球列島近海から記録されている。三重県では熊野灘から1標本が得られている。本種は肛門が背鰭起部より前位であること，眼は斜め前方を向くこと，背鰭は8-9軟条



クロデメニギス *Winteria telescopa*, FRLM 7159, 56 mm SL, 熊野灘（固定標本）
 であることが特徴。（笹木大地）

ギンザケイワシ科（新称） Family Microstomatidae Bleeker 1859

ギンザケイワシ属 Genus *Nansenia* Jordan & Evermann 1896

ギンザケイワシ
Nansenia ardesiaca
Jordan & Thompson 1914

インドー西太平洋，日本では東北地方太平洋沖，相模湾から土佐湾，九州西方，沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は鰓孔の上端は体側の中央より上方にあること，口の後端は眼の前縁を越えること，吻は短く眼径の1/2以



ギンザケイワシ *Nansenia ardesiaca*, FRLM 45665, 139 mm SL, 熊野灘
 下であること，第1鰓弓下枝鰓耙数は18-23であることが特徴。（笹木大地）

ソコイワシ科 Family Bathylagidae Gill 1884

ギンソコイワシ属 Genus *Dolicholagus* Kobylansky 1986

ギンソコイワシ *Dolicholagus longirostris* (Maul 1948)

北太平洋の亜寒帯から寒帯域、日本では北海道オホーツク海、北海道から房総半島の太平洋沖、相模湾から記録されている。三重県では熊野灘から1標本が得られている。本種は鰓孔の上端が体側の中央より下方にあること、腹鰭基部は背鰭起部の後方にあること、体長は頭長の4.5



ギンソコイワシ *Dolicholagus longirostris*, FRLM 7199, 51 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

倍以下であることが特徴。
(笹木大地)

ソコイワシ属 Genus *Lipolagus* Kobylansky 1986

ソコイワシ *Lipolagus ochotensis* (Schmidt 1938)

北太平洋の亜寒帯・寒帯域、日本では北海道オホーツク海沿岸、北海道から岩手県の太平洋沖、房総半島沖、駿河湾、土佐湾、種子島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は鰓孔の上端は体側の中央より上方にあること、口の後端は眼の前縁を越えないこと、鰓蓋骨上部は深く湾入すること、臀鰭基底長は背鰭



ソコイワシ *Lipolagus ochotensis*, FRLM 54597, 98 mm SL, 熊野灘

基底長と同じかまたは短いことが特徴。
(笹木大地)

サケ目 Order Salmoniformes

サケ亜目 Suborder Salmonoidei

サケ科 Family Salmonidae Cuvier 1816

サケ属 Genus *Oncorhynchus* Suckley 1861

サツキマス・アマゴ *Oncorhynchus masou ishikawae* Jordan & McGregor 1925

日本固有亜種。自然分布は神奈川県酒匂川以西の本州太平洋側・瀬戸内側、四国、九州瀬戸内側。国内外来種として各地に侵入している。降海型と河川残留型の生活多型を持ち、降海後河川に遡上してきた個体をサツキマスと呼ぶ。ビワマス *Oncorhynchus* sp. 以外の同属他種とは、体背面に散在する黒点がわずかで、パーマークが側線より下方まで延び、尾鰭に黒点は上下縁以外になく、体側に朱点があることで区別できる。ビワマスとは、相対的に目が小さく、全長20 cm以上になっても朱点が残ることなどで区別できるが、かなり困難。環境省準絶滅危惧。
(淀 太我)



サツキマス *Oncorhynchus masou ishikawae*, FRLM 9503, 486 mm SL, 三重県



アマゴ *Oncorhynchus masou ishikawae*, FRLM 29771, 128 mm SL, 三重県

イワナ属 Genus *Salvelinus* Richardson 1836

ニッコウイワナ

Salvelinus leucomaenis pluvius
(Hilgendorf 1876)

日本固有亜種。太平洋側では宮城県・山形県から岡山県・鳥取県までの本州。冷水性で河川上流域に生息する。分布域北部では降海型も出現する。三重県には本来生息しないが、無秩序に放流されたと考えられる個体が1990年代以降複数水系で確認されている。日本産イワナ類は4亜種に分けられるが、亜種内での形態変異も大きく、区別は難しい。本亜種は瞳孔径の半分を超える大きな白色および桃色斑を有することが特徴。
(淀 太我)

5



ニッコウイワナ

Salvelinus leucomaenis pluvius

松阪市法浄寺川

上 FRLM 11719, 199 mm SL

左 FRLM 11060, 126 mm SL

キュウリウオ目 Order Osmeriformes

キュウリウオ亜目 Suborder Osmeroidei

キュウリウオ科 Family Osmeridae Regan 1913

ワカサギ属 Genus *Hypomesus* Gill 1862

ワカサギ

Hypomesus nipponensis
McAllister 1963

サハリン、千島列島、朝鮮半島、日本列島。日本での自然分布は、太平洋側では東京湾以北、日本海側では宍道湖以北。産卵期に海域から河川やそれに繋がる湖沼に遡上する遡河回遊を基本とするが、生活環を淡水で完結することも可能。国内外来種として日本各地に移植されている。臀鰭外縁が直線状かやや湾入し、縦列鱗数が60以下で、脂鰭が小さくその基底が眼径より短いことで他のキュウリウオ科と区別できる。
(淀 太我)

5



ワカサギ *Hypomesus nipponensis*, FRLM 52308, 104 mm SL, 木曽岬町木曽川

くその基底が眼径より短いことで他のキュウリウオ科と区別できる。

(淀 太我)

アユ科 Family Plecoglossidae Bleeker 1859

アユ属 Genus *Plecoglossus* Temminck & Schlegel 1846

アユ

Plecoglossus altivelis altivelis
(Temminck & Schlegel 1846)

朝鮮半島、日本列島。日本での自然分布は北海道から屋久島。両側回遊魚で成魚は主に河川中流域に生息するが、琵琶湖などに純淡水域で生活環を完結する集団も存在する。口唇が柔らかく櫛状歯をもつ。奄美大島および沖縄島には別亜種リュウキュウアユ *Plecoglossus altivelis ryukyuensis* Nishida 1988 が、中国からベトナム北部には *Plecoglossus altivelis chinensis* Wu & Shan 2005 が分布する (Shan et al., 2005)。琵琶湖および流入河川産のものは鱗が細かく、産卵期が早く、仔稚魚期の塩分耐性や高温耐性が低いなど形態・生態的に異なる。しかし、この琵琶湖産個体が増殖事業で全国に種苗放流されている。
(淀 太我)

1



アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*, FRLM 29773, 147 mm SL, 大台町宮川ダム

湖および流入河川産のものは鱗が細かく、産卵期が早く、仔稚魚期の塩分耐性や高温耐性が低いなど形態・

生態的に異なる。しかし、この琵琶湖産個体が増殖事業で全国に種苗放流されている。
(淀 太我)

シラウオ科 Family Salangidae Bleeker 1859

イシカワシラウオ属 Genus *Neosalangichthys* Fu, Li, Xia & Lei 2012

イシカワシラウオ *Neosalangichthys ishikawae* (Wakiya & Takahasi 1913)

日本固有種。自然分布は青森県から宮崎県（四国を除く）の太平洋沿岸。シラウオ科は細長く透明ないわゆるシラス型稚魚の形態のまま成熟する幼形成熟で、同様に幼形成熟のハゼ科のシロウオ *Leucopsarion petersii* Hilgendorf 1880 とは尾鰭が



イシカワシラウオ *Neosalangichthys ishikawae*, FRLM 63258, 26 mm SL, 鈴鹿市白子町

二叉することや、背鰭始部が臀鰭始部より前に位置することで区別できる。本種は下顎が上顎より前に出る

こと、口蓋骨歯を持つこと、尾柄上下端に黒点を持つことで他のシラウオ科から区別できる。（淀 太我）

シラウオ属 Genus *Salangichthys* Bleeker 1860

シラウオ *Salangichthys microdon* (Bleeker 1860)

サハリンから朝鮮半島、日本列島。日本での自然分布は北海道から九州北部の内湾から河口域。幼形成熟。他のシラウオ科とは、下顎が上顎より前に出ること、口蓋骨歯を持つこと、尾柄上下端に黒点を持たないこ



シラウオ *Salangichthys microdon*, FRLM 40536, 71 mm SL, 木曾岬町木曾川

とで区別できる。（淀 太我）

ワニトカゲギス目 Order Stomiiformes

ヨコエソ科 Family Gonostomatidae Cocco 1838

オニハダカ属 Genus *Cyclothone* Goode & Bean 1883

センオニハダカ *Cyclothone acclinidens* Garman 1899

全世界の熱帯・亜熱帯域、日本では相模湾から土佐湾に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体色が一様に黒色から黒褐色であること、体に発光器があること、尾柄上部発光腺は長くその前端は臀鰭基底後端を越えることで同属他種と区別できる。（笹木大地）



センオニハダカ *Cyclothone acclinidens*, FRLM 28170, 21 mm SL, 熊野灘（固定標本）

ユキオニハダカ *Cyclothone alba* Brauer 1906

全世界の熱帯から亜寒帯域に広く分布する。日本では北海道から琉球列島の太平洋沖、小笠原諸島近海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体色が白色から灰褐色で腹部は黒色であること、第1鰓弓の上枝と下枝の間に1本の鰓耙があることで同属他種と区別できる。（笹木大地）



ユキオニハダカ *Cyclothone alba*, FRLM 27890, 25 mm SL, 熊野灘

オニハダカ
Cyclothone atraria
Gilbert 1905

北太平洋の亜熱帯から亜寒帯域、日本では北海道オホーツク海沖、北海道から琉球列島の太平洋沖、小笠原諸島近海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体色が一樣に黒色から黒褐色であること、体に発光器があること、尾柄上部発光



オニハダカ *Cyclothone atraria*, FRLM 27665, 44 mm SL, 熊野灘

腺は短く尾柄下部発光腺と同長であることで同属他種と区別できる。

(笹木大地)

ウスオニハダカ
Cyclothone pallida
Brauer 1902

全世界の熱帯から温帯域、日本では北海道から琉球列島の太平洋沖、小笠原諸島近海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体色が白色から灰褐色で腹部は黒色であること、第1鰓弓の上枝と下枝の間に2本の鰓耙があること、鰓条部は全体に灰褐色であること、第1鰓弓



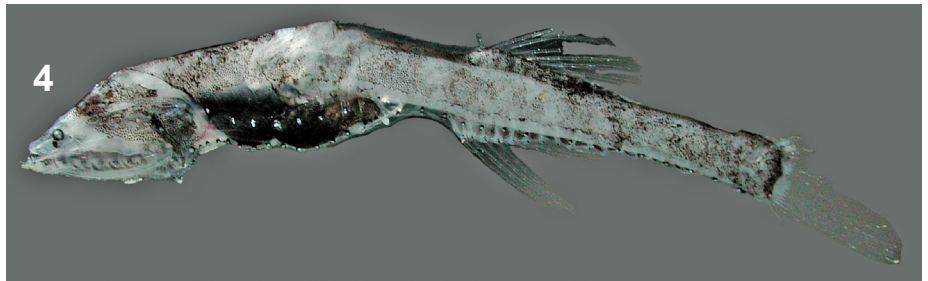
ウスオニハダカ *Cyclothone pallida*, FRLM 7482, 52 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

下枝の鰓葉は狭いことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)

ハイイロオニハダカ
Cyclothone pseudopallida
Mukhacheva 1964

全世界の熱帯から亜寒帯域、日本では北海道から琉球列島の太平洋沖、小笠原諸島近海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体色が白色から灰褐色で腹部は黒色であること、第1鰓弓の上枝と下枝の間に2本の鰓耙があること、鰓条部は基部、縁辺および鰓条骨上が暗褐色であること、第1鰓弓下枝の鰓



ハイイロオニハダカ *Cyclothone pseudopallida*, FRLM 27903, 33 mm SL, 熊野灘

葉は広いことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)

ユメハダカ属 Genus *Diplophos* Günther 1873

ユメハダカ
Diplophos orientalis
Matsubara 1940

西・中央太平洋の温帯域、日本では房総半島沖から土佐湾、琉球列島近海、九州ーパラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種はネットアイユメハダカ *Diplophos taenia* Günther 1873 に似るが、眼は大きく、



ユメハダカ *Diplophos orientalis*, FRLM 37538, 170 mm SL, 熊野灘

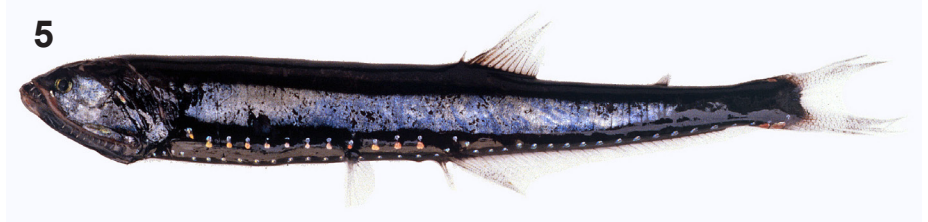
眼径は両眼間隔より長いこと、臀鰭 できる。は通常 60-61 軟条であることで区別

(笹木大地)

ヨコエソ属 Genus *Sigmops* Gill 1883

オオヨコエソ
Sigmops elongatus
(Günther 1878)

全世界の熱帯から亜寒帯域、日本では東北地方から土佐湾の太平洋沖、小笠原諸島近海、沖縄舟状海盆、八重山諸島近海、九州ーパラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種はヨコエソ *Sigmops gracilis* (Günther 1878) に似るが脂鰭



オオヨコエソ *Sigmops elongatus*, FRLM 9496, 150 mm SL, 熊野灘

があることで容易に区別できる。

(笹木大地)

ヨコエソ
Sigmops gracilis
(Günther 1878)

北太平洋の亜熱帯から亜寒帯域、日本では千島海溝、北海道から土佐湾の太平洋沖、東シナ海、小笠原諸島近海、トカラ列島以南、沖縄舟状海盆、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は脂鰭がないこと、背側発光器があること、尾鰭下部発光腺があることが特徴。



ヨコエソ *Sigmops gracilis*, FRLM 57116, 107 mm SL, 志摩半島沖熊野灘

ること、尾鰭下部発光腺があること
 が特徴。(笹木大地)

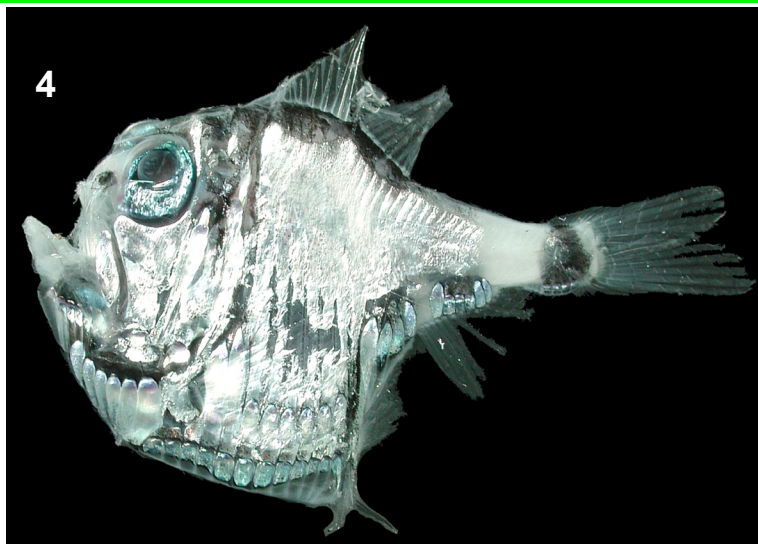
ムネエソ科 Family Sternoptychidae Duméril 1805

テンガムムネエソ属 Genus *Argyrolepecus* Cocco 1829

トガリムネエソ
Argyrolepecus aculeatus
Valenciennes 1850

全世界の亜熱帯から温帯域、日本では東北地方太平洋沖、千葉県銚子から琉球列島の太平洋沖、小笠原諸島近海、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は臀鰭が2基に分かれること、後部腹縁棘は2本でその下縁に鋸歯がないこと、2部に分かれた臀鰭軟条間に棘状突起があること、尾柄下部発光器の下縁に棘状突起があることで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



トガリムネエソ *Argyrolepecus aculeatus*, FRLM 63317, 43 mm SL, 熊野灘

テンガムムネエソ
Argyrolepecus hemigymnus
Cocco 1829

全世界の熱帯から温帯域に広く分布する。日本では東北地方から琉球列島の太平洋沖、小笠原諸島近海、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘から標本が得られている。本種は臀鰭が2基に分かれること、後部腹縁棘は1本で、その下縁に鋸歯があることで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



テンガムムネエソ *Argyrolepecus hemigymnus*, FRLM 30961, 16 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

テオノエソ
Argyrolepecus sladeni
Regan 1908

全世界の熱帯から温帯域に広く分布する。日本では東北地方太平洋沖、駿河湾、小笠原諸島近海、八重山諸島近海、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘から1個体が得られている。本種は臀鰭が2基に分かれること、後部腹縁棘は2本でその下縁に鋸歯がないこと、2部に分かれた臀鰭軟条間に棘状突起がないこと、尾柄下部発光器の下縁に棘状突起がないことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



テオノエソ *Argyrolepecus sladeni*, FRLM 7217, 27 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

キュウリエソ属 Genus *Maurolicus* Cocco 1838

キュウリエソ *Maurolicus australis* Hector 1875

三大洋の南半球，北太平洋，日本では北海道から福岡県の日本海沖，青森県から土佐湾の太平洋沖，鹿児島県，小笠原諸島近海，沖縄舟状海盆に分布する．三重県では熊野灘に分布し，他種の胃内容物からしばしばみつかるといわれる．臀鰭発光器群は連続することが特徴．（笹木大地）



キュウリエソ *Maurolicus australis*, FRLM 44462, 41 mm SL, 熊野灘

ハウネンエソ属 Genus *Polyipnus* Günther 1887

ホシハウネンエソ *Polyipnus matsubarae* Schultz 1961

西・中央太平洋北半球の亜熱帯・温帯域，日本では東北地方太平洋沖，房総半島から日向灘の太平洋，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域，伊豆大島近海，小笠原諸島近海，琉球列島近海，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．本種は後側頭骨棘が小さく，分枝しないこと，竜骨板の縁辺に鋸歯がないこと，背鰭前黒色帯は細く尖り，体側中線を越えることで同属他種と区別できる．（笹木大地）



ホシハウネンエソ *Polyipnus matsubarae*, FRLM 9176, 50 mm SL, 熊野灘（固定標本）

ノコバハウネンエソ *Polyipnus spinifer* Borodulina 1979

日本から南シナ海，スルー海までの西太平洋，日本では相模湾から土佐湾の太平洋，大隅諸島黒島，沖縄舟状海盆，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．本種は後側頭骨棘が大きく，2-3本に分枝すること，竜骨板の縁辺に鋸歯があること，尾柄下縁に鋸歯があること，尾柄下部発光器は個々に分離することで同属他種と区別できる．（笹木大地）



ノコバハウネンエソ *Polyipnus spinifer*, FRLM 34143, 45 mm SL, 熊野灘

カタハウネンエソ *Polyipnus stereope* Jordan & Starks 1904

西太平洋，日本では東北地方太平洋沖，相模湾から鹿児島県の太平洋，宇治群島，奄美大島，沖縄舟状海盆，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は後側頭骨棘が大きく，2-3本に分枝すること，竜骨板の縁辺に鋸歯があること，尾柄下縁に鋸歯がないこと，尾柄下部発光器は互いに接していること，背鰭前黒色域は細く尖ること，尾鰭下葉基部に黒色斑がないことで同属他種と区別できる．（笹木大地）



カタハウネンエソ *Polyipnus stereope*, FRLM 33943, 28 mm SL, 熊野灘

ムネエソ属 Genus *Sternoptyx* Hermann 1781

ムネエソ *Sternoptyx diaphana* Hermann 1781

全世界の熱帯から温帯域に広く分布する。日本では北海道日本海沖、北海道から土佐湾の太平洋沖、小笠原諸島近海、琉球列島太平洋沖、沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は臀鰭基部に透明域があること、臀鰭発光器後縁と臀鰭基部の腹縁は狭いV字型をなすことが特徴。（笹木大地）

ムネエソ *Sternoptyx diaphana*
FRLM 27908, 19 mm SL, 熊野灘



ホシエソ属 Genus *Valenciennellus* Jordan & Evermann 1896

ホシエソ *Valenciennellus tripunctulatus* (Esmark 1871)

全世界の熱帯から温帯域に広く分布する。日本では福島県沖房総半島から相模湾、八丈島近海、小笠原諸島近海、琉球列島近海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は臀鰭発光器群が分離すること、臀鰭が1基である



ホシエソ *Valenciennellus tripunctulatus*, FRLM 27891, 20 mm SL, 熊野灘

こと、尾柄下部発光器が4個であることが特徴。（笹木大地）

ワニトカゲギス科 Family Stomiidae Bleeker 1859

トカゲハダカ属 Genus *Astronesthes* Richardson 1845

トカゲハダカ *Astronesthes ijimai* Tanaka 1908

インドー西太平洋、日本では東北太平洋沖、相模湾から土佐湾の太平洋、東シナ海、大隅諸島黒島、沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は尾柄下部に黒色帯があることでヤモリハダカ *Astronesthes lucifer* Gilbert 1905 に似るが、尾部は太く、尾柄長は尾柄高の1.2-1.8倍（ヤモリハダカでは1.9-2.3倍）であることから区別でき



トカゲハダカ *Astronesthes ijimai*, FRLM 59569, 81 mm SL, 熊野灘

る。（笹木大地）

クロトカゲギス *Astronesthes indopacifica* Parin & Borodulina 1997

東インド洋から西・中央太平洋、日本では青森県八戸沖、東北太平洋沖、茨城県沖、相模湾から土佐湾の太平洋、鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の中間海域、小笠原諸島近海、沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘から標本が得られている。本種は胸部腹側発光器が湾曲して並ぶこと、髭はよく発達し、頭長の



クロトカゲギス *Astronesthes indopacifica*, FRLM 57272, 92 mm SL, 熊野灘

1/3以上であることで同属他種と区別できる。（笹木大地）

ホウライエソ属 Genus *Chauliodus* Bloch & Schneider 1801

ホウライエソ *Chauliodus sloani* Bloch & Schneider 1801

全世界の亜熱帯・温帯域，日本では北海道オホーツク海沖，北海道から琉球列島の太平洋沖，東シナ海，小笠原諸島近海，沖縄舟状海盆，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は前上顎骨の第3歯が第4歯より小さいこと，眼後発光器が円形であることで近縁のヒガシホウライエソ



ホウライエソ *Chauliodus sloani*, FRLM 57104, 217 mm SL, 志摩半島沖熊野灘

Chauliodus macouni Bean 1890 から区別できる．
(笹木大地)

シンジュエソ属 Genus *Ichthyococcus* Bonaparte 1840

シンジュエソ *Ichthyococcus elongatus* Imai 1941

西・中央太平洋北半球の亜熱帯・温帯域，日本では東北地方太平洋沖，房総半島から土佐湾の太平洋，小笠原諸島近海，沖縄舟状海盆，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は囲眼部発光器が2個であること，臀鰭始部は背鰭基底後端よりはるかに後方であること，腹鰭始部は背鰭始部より後



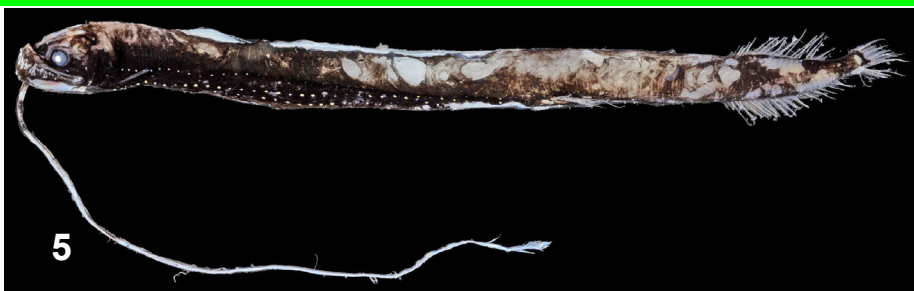
シンジュエソ *Ichthyococcus elongatus*, FRLM 9484, 65 mm SL, 熊野灘

方下にあること，背鰭は14-16軟条であることが特徴．
(笹木大地)

ヤリホシエソ属 Genus *Leptostomias* Gilbert 1905

ヤリホシエソ *Leptostomias multifilis* Imai 1941

東北地方太平洋沖，相模湾，駿河湾，土佐湾，小笠原諸島近海に分布する．三重県では熊野灘から2標本が得られている．本種は同属のフデホシエソ *Leptostomias robustus* Imai 1941 に似るが，下顎ひげの末端球状体に付属枝が多数あり，ブラシ状（フデホシエソでは1-3本の付属枝がある）になること，球状体は短く，ひ



ヤリホシエソ *Leptostomias multifilis*, FRLM 58319, 128 mm SL, 熊野灘

げの長さの10%以下（長く，ひげの長さの25%以上）であることで区別
(笹木大地)

オオクチホシエソ属 Genus *Malacosteus* Ayres 1848

オオクチホシエソ *Malacosteus niger* Ayres 1848

全世界の熱帯・亜熱帯域，日本では岩手県沖，熊野灘，小笠原諸島近海，沖縄舟状海盆，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘から1標本が得られている．本種は胸鰭があること，背鰭と臀鰭が表皮に被われること，下顎にひげがないこと，胸鰭が3-5軟条であることが特徴．
(笹木大地)



オオクチホシエソ *Malacosteus niger*, FRLM 9433, 80 mm SL, 熊野灘
(固定標本，左右反転)

コンテンツカゲギス属 Genus *Melanostomias* Brauer 1902

コンテンツカゲギス *Melanostomias pauciradius* Matsubara 1938

西太平洋北半球の亜熱帯・温帯域、日本では東北地方太平洋沖、相模湾から土佐湾の太平洋、小笠原諸島近海、九州－パラオ海嶺に分布する。本種は熊野灘で得られた標本に基づいて Matsubara (1938) によって記載された。本種は下顎ひげの末端球体状の小球体を黒色素が取り囲むことが特徴。
(笹木大地)



コンテンツカゲギス *Melanostomias pauciradius*, NSMT-P 58470, 210 mm SL, 岩手県 (固定標本)

ミツイホシエソ属 Genus *Opostomias* Günther 1887

ミツイホシエソ *Opostomias mitsuii* Imai 1941

北太平洋の温帯、亜寒帯域、日本では東北地方太平洋沖、鹿島灘、房総半島沖、相模湾、駿河湾、土佐湾、本州南岸の黒潮域、小笠原諸島近海、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘で1個体が得られている。本種は胸鰭に遊離軟条があること



ミツイホシエソ *Opostomias mitsuii*, FRLM 10309, 64 mm SL, 熊野灘 (固定標本, 左右反転)

と、下顎の第1歯が上顎の穴に収納 白色の発光器があることが特徴。
されること、胸鰭遊離軟条の先端に (笹木大地)

クレナイホシエソ属 Genus *Pachystomias* Günther 1887

クレナイホシエソ *Pachystomias microdon* (Günther 1878)

太平洋、大西洋の熱帯・亜熱帯域、日本では東北太平洋沖、本州南岸の黒潮域、小笠原諸島近海、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘から1個体が得られている。本



クレナイホシエソ *Pachystomias microdon*, FRLM 28296, 76 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

種は背鰭基部が臀鰭基部とほぼ同位 ることが特徴。
であること、細長い眼下発光器があ (笹木大地)

ホテイエソ属 Genus *Photonectes* Günther 1887

ホテイエソ *Photonectes albipennis* (Döderlein 1882)

西・中央太平洋の亜熱帯・温帯域、日本では東北地方太平洋沖、鹿島灘、房総半島沖、相模湾、駿河湾、土佐湾、小笠原諸島近海、沖縄舟状海盆、九州－パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は全身が黒いこと、下顎が前上方に湾曲すること、下顎の歯列が1列であること、胸鰭がないことが特徴。
(笹木大地)



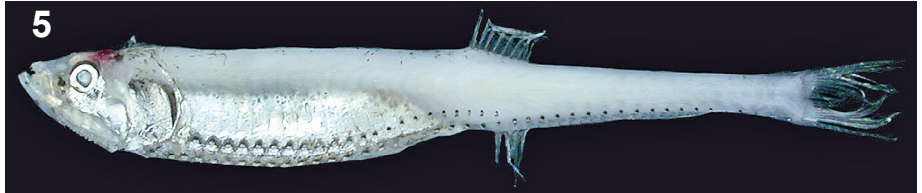
ホテイエソ *Photonectes albipennis*, FRLM 47481, 263 mm SL, 熊野灘

ヨウジェソ属 Genus *Pollichthys* Grey 1959

ヨウジェソ

Pollichthys maui (Poll 1953)

西太平洋の北半球および大西洋の熱帯から温帯域に分布する。日本では房総半島沖、相模湾、駿河湾、鹿児島湾、九州南方海域、奄美大島、琉球列島近海、小笠原諸島近海に分布する。三重県では熊野灘から1個体標本が得られている。本種は囀眼



ヨウジェソ *Pollichthys maui*, KAUM-I. 600, 60 mm SL, 鹿児島県

部発光器が2個であること、臀鰭基底が長く背鰭基底長の約2倍であることが特徴。

(笹木大地)

ギンハダカ属 Genus *Polymetme* McCulloch 1926

ギンハダカ

Polymetme corythaeola (Alcock 1898)

インドー西太平洋、大西洋の亜熱帯・温帯域、日本では東北太平洋沖、相模湾から日向灘に分布する。三重県では尾鷲市場から標本が得られている。本種は腹部体側発光器の第1, 2のものが他と同等の高さにあること、尾部発光器の第2のものが他より高位であること、頭部が大きく、体長は頭長の約4倍であること



ギンハダカ *Polymetme corythaeola*, FRLM 34293, 141 mm SL, 熊野灘

と、第1鰓弓の鰓耙数が5-6 + 10-11 = 15-17であることと別できる。

(笹木大地)

リュウグウハダカ

Polymetme elongata (Matsubara 1938)

北西太平洋、日本では東北太平洋沖、相模湾から土佐湾、天草灘、宇治群島、薩南海域、大隅諸島、東シナ海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は腹部体側発光器の第1, 2のものが他と同等の高さにあること、尾部発光器の第2のものが他より高位であること、頭部が小



リュウグウハダカ *Polymetme elongata*, FRLM 34292, 158 mm SL, 熊野灘

さく、体長は頭長の約5倍であることと、第1鰓弓の鰓耙数が6-7 + 11-12 = 18-19であることから同属他種と区別できる。

(笹木大地)

タマブキイワシ

Polymetme surugaensis (Matsubara 1943)

西太平洋、日本では駿河湾、熊野灘、土佐湾に分布する。三重県では尾鷲市場から標本が得られている。本種は腹部体側発光器の第1, 2のものが他より高位であること、尾部発光器の第1, 2のものが他より高位であることと同属他種と区別できる。



タマブキイワシ *Polymetme surugaensis*, FRLM 34294, 96 mm SL, 熊野灘

ワニトカゲギス属 Genus *Stomias* Cuvier 1816

ワニトカゲギス

Stomias affinis Günther 1887

全世界の熱帯・亜熱帯域、日本では東北地方から琉球列島の太平洋沖、東シナ海、小笠原諸島近海、沖縄舟状海盆、九州ーパラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘から標本



ワニトカゲギス *Stomias affinis*, FRLM 45518, 198 mm SL, 熊野灘

が得られている。本種は最長の犬歯が上顎にあることとシエソ *Stomias nebulosus* Alcock 1889 から区別できる。

(笹木大地)

ヨロイホシエソ
Stomias nebulosus
Alcock 1889

全世界の熱帯・亜熱帯域，日本では青森県八戸沖，鹿島灘，紀伊水道沖，琉球列島近海，小笠原諸島近海，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．



ヨロイホシエソ *Stomias nebulosus*, FRLM 9493, 55 mm SL, 熊野灘

る．本種は最長の犬歯は下顎にあることが特徴．
 (笹木大地)

ウキエソ属 Genus *Vinciguerria* Jordan & Evermann 1896

ウキエソ
Vinciguerria attenuata
(Cocco 1838)

全世界の亜熱帯域，日本では房総半島沖，相模湾，小笠原諸島近海，八重山諸島近海，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は縫合部発光器がないこと，眼は管状でわずかに背面を向くこと，第1鰓弓の鰓耙数は18-20

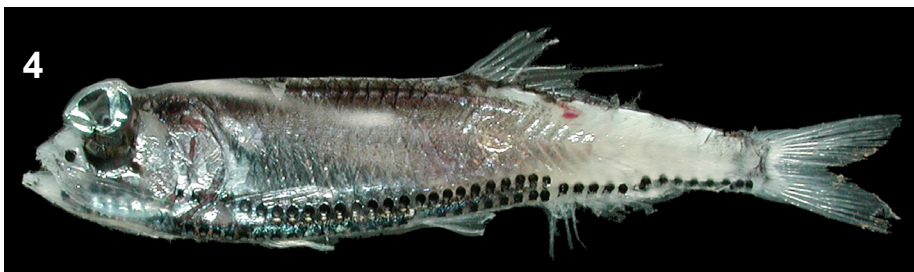


ウキエソ *Vinciguerria attenuata*, FRLM 12902, 28 mm SL, 沖縄県（固定標本）

であることで同属他種と区別できる．
 (笹木大地)

ヤベウキエソ
Vinciguerria nimbaria
(Jordan & Williams 1895)

全世界の熱帯から温帯域，日本では東北地方太平洋沖，房総半島沖，相模湾から土佐湾，福岡県津屋崎，小笠原諸島近海，宮古・八重山諸島近海，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は縫合部発光器があることで同属他



ヤベウキエソ *Vinciguerria nimbaria*, FRLM 28291, 31 mm SL, 熊野灘
 種と区別できる．
 (笹木大地)

オキウキエソ
Vinciguerria poweriae
(Cocco 1838)

全世界の熱帯域，日本では小笠原諸島近海，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘から3個体が得られている．本種は縫合部発光器がないこと，眼は普通形で側面を向くこと，第1鰓弓の鰓耙数は14-16であることから同属他種と区別できる．
 (笹木大地)



オキウキエソ *Vinciguerria poweriae*, FRLM 28056, 14 mm SL, 熊野灘（固定標本）

シャチブリ目 Order Ateleopodiformes

シャチブリ科 Family Ateleopodidae Bonaparte 1850

シャチブリ属 Genus *Ateleopus* Temminck & Schlegel 1846

シャチブリ
Ateleopus japonicus
Bleeker 1853

紅海，インド西太平洋，アフリカ，日本では鹿島灘以南の太平洋沿岸，新潟県以南の日本海沿岸に分布する．三重県では熊野灘に分布する．水深約150-500 mで採集される．
 (榎原弘陸)



シャチブリ *Ateleopus japonicus*, FRLM 55832, 478 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

ヒョウモンシャチブリ属 Genus *Guentherus* Osório 1917

ヒョウモンシャチブリ *Guentherus katoi* Senou, Kuwayama & Hirate 2008

熊野灘，宇治群島沖，沖縄県久米島から記録されている．本種は熊野灘および久米島から得られた標本に基づいて記載された (Senou et al., 2008)．体側に多数の赤褐色から暗褐色の斑紋があることが特徴．

(笹木大地)



ヒョウモンシャチブリ *Guentherus katoi*, KPM-NI 16647, 644 mm SL, ホロタイプ
熊野灘 (瀬能 宏氏撮影)

ヒメ目 Order Aulopiformes

ヒメ科 Family Aulopidae Bonaparte 1831

ヒメ属 Genus *Hime* Starks 1924

イトヒキヒメ *Hime formosana* (Lee & Chao 1994)

駿河湾から鹿児島県の太平洋，沖縄島，東シナ海，台湾，オーストラリア北西岸に分布する．三重県では熊野灘沖合の底曳網で稀に混獲される．本種は鰓耙数が14-17であること，眼は頭部背縁より突出しないこと，雄の背鰭第2軟条が伸長すること，雌の背鰭前端付近に顕著な斑紋がないことで同属他種と区別できる．

(笹木大地)

イトヒキヒメ *Hime formosana*, 熊野灘
上 ♂, FRLM 61339, 193 mm SL
下 ♀, FRLM 64608, 199 mm SL



ヒメ *Hime japonica* (Günther 1877)

太平洋の熱帯から温帯域に広く分布し，日本では青森県から九州南岸，東シナ海大陸棚縁辺に分布する．三重県では熊野灘沖に広く分布しており，志摩半島沖の水深70-150 mに非常に多い．本種は鰓耙数が17-25であること，雄の背鰭前端付近の軟条は伸長しないこと，雌の背鰭前端付近に数個の暗色点があることで同属他種と区別できる．

(笹木大地)

ヒメ *Hime japonica*, FRLM 40877
志摩市志摩町和具沖
上 ♂, FRLM 65834, 151 mm SL
下 ♀, FRLM 65833, 176 mm SL



アオメエソ科 Family Chlorophthalmidae Garman 1899

アオメエソ属 Genus *Chlorophthalmus* Bonaparte 1840

トモメヒカリ

Chlorophthalmus acutifrons Hiyama 1940

インドー西太平洋, インド南部, フィリピンからニュージーランドまで, 済州島, 台湾南部, 日本では青森県から九州南岸の太平洋沿岸に分布する. 本種は鋤骨外縁に歯がないことでアオメエソ *Chlorophthalmus albatrossis* Jordan & Starks 1904 やバケアオメエソ *Chlorophthalmus* sp. と, 尾鰭後端が黒くないことでツマグロアオメエソ *Chlorophthalmus nigromarginatus* Kamohara 1953 と区別できる. (榊原弘陸)



トモメヒカリ *Chlorophthalmus acutifrons*, FRLM 34299, 151 mm SL, 熊野灘

アオメエソ

Chlorophthalmus albatrossis Jordan & Starks 1904

インドネシアからニュージーランド, 済州島, 台湾南部, 日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 新潟県以南の日本海沿岸, 九州ーパラオ海嶺に分布する. 熊野灘の底曳網漁の重要な漁獲対象魚. 本種は千葉県銚子以北に分布するマルアオメエソ *Chlorophthalmus borealis* Kuronuma & Yamaguchi 1941 に似るが, 頭長は体長の 26.2–29.7% であること, 眼径は体長の 10.7–13.0% であることで区別できる. (榊原弘陸)

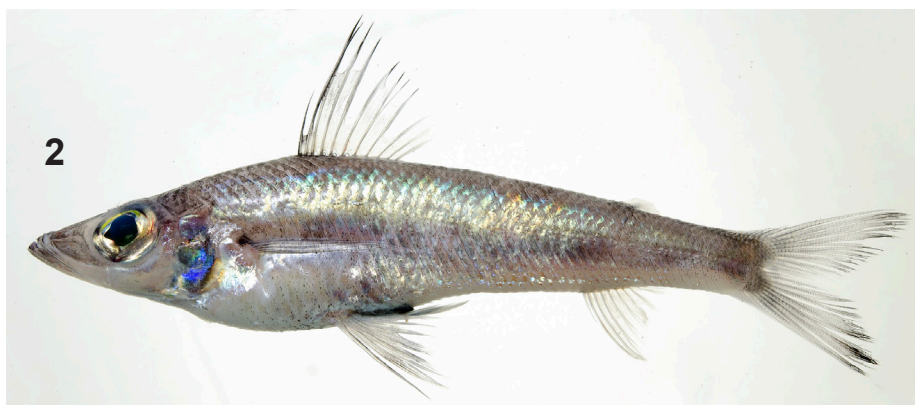


アオメエソ *Chlorophthalmus albatrossis*, FRLM 61347, 116 mm SL, 熊野灘

ツマグロアオメエソ

Chlorophthalmus nigromarginatus Kamohara 1953

インドー西太平洋, インドネシア東部からオーストラリア北西岸, 台湾南部, 日本では熊野灘, 土佐湾, 東シナ海に分布する. 尾鰭後縁が黒いのが特徴. (榊原弘陸)



ツマグロアオメエソ *Chlorophthalmus nigromarginatus*, FRLM 61348, 134 mm SL, 熊野灘

バケアオメエソ

Chlorophthalmus sp.

九州ーパラオ海嶺, 土佐湾, 熊野灘から知られている. 深海性. 三重県では熊野灘の底曳網で漁獲された. 鋤骨の外縁に歯があり, 腹鰭の先端が丸い. (木村清志)

バケアオメエソ *Chlorophthalmus* sp.
KAUM-I. 200261, 280 mm SL, 奄美大島



フデエソ科 Family Notosudidae Parr 1928

フデエソ属 Genus *Scopelosaurus* Bleeker 1860

ヒカリフデエソ *Scopelosaurus hoedti* Bleeker 1860

インドー西太平洋, 日本では仙台湾沖, 房総半島沖, 沖ノ島島周辺から記録されている。三重県では熊野灘から1標本が得られている。本種は腹鰭起部が背鰭起部よりはるかに



ヒカリフデエソ *Scopelosaurus hoedti*, FRLM 30973, 33 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

前にあること, 下顎の側線孔は黒色 白色鱗列があることで同属他種と区別できる。 (笹木大地)

エソ科 Family Synodontidae Gill 1861

ミズテング属 Genus *Harpadon* Lesueur 1825

ミズテング *Harpadon microchir* Günther 1878

北西太平洋, 日本では東京沖, 相模湾, 駿河湾, 鹿児島湾に分布する。三重県では熊野灘で操業するまき網で稀に混獲される。本種はテナガミズテング *Harpadon nehereus* (Hamilton 1822) に似るが, 胸鰭は短く, 後端は腹鰭起部に達しないこと,



ミズテング *Harpadon microchir*, FRLM 54610, 529 mm SL, 熊野灘

背鰭は13-14軟条であることで区別できる。 (笹木大地)

マエソ属 Genus *Saurida* Valenciennes 1850

ワニエソ *Saurida elongata* (Temminck & Schlegel 1846)

インドー西太平洋, 日本では秋田県および相模湾から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸と太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海, 奄美大島に分布する。三重県では伊勢湾, 熊野灘に分布する。本種はマエソに似るが尾鰭下縁が黒いこと, 雄の背鰭第2軟条が伸長すること, 側線鱗数が54-56であることで区別できる。またドロゾメエソ *Saurida fortis* Furuhashi, Russell & Motomura 2022 やクロエソ *Saurida umeyoshii* Inoue & Nakabo 2006 とは第1鰓弓下枝鰓耙基底前端が基鰓骨-下鰓骨接合部の後端よりも前方に位置することで区別できる。 (笹木大地・木村清志)



ワニエソ *Saurida elongata*, 南伊勢町賛浦

上 ♂, FRLM 47853, 301 mm SL

下 ♀, FRLM 47854, 373 mm SL

トカゲエソ
Saurida eso
Jordan & Herre 1907

西太平洋, 日本では青森県から九州南岸の沿岸各地に分布する. 三重県では伊勢湾および熊野灘に分布する. コウカイトカゲエソ *Saurida microlepis* Wu & Wang 1931 は本種の新参シノニム (Russell et al., 2024). 日本産のマエソ属では胸鰭が短くその後端は腹鰭起部に達しないことが特徴. (笹木大地)



トカゲエソ *Saurida eso*, FRLM 46558, 205 mm SL, 伊勢湾

マダラエソ
Saurida gracilis
(Quoy & Gaimard 1824)

インドー太平洋, 日本では相模湾から屋久島の太平洋沿岸, 八丈島, 小笠原諸島, 琉球列島に分布する. 三重県では南伊勢町賛浦の定置網で採集された. 本種は尾鰭にまだら状の暗色斑があること, 胸鰭後端は腹鰭基底後端を越えること, 体に横帯があること, 胸鰭は通常 13 軟条であることで, 近縁のウチウミマダラエソ *Saurida nebulosa* Valenciennes 1850 と区別できる. (笹木大地)



マダラエソ *Saurida gracilis*, FRLM 60868, 89 mm SL, 南伊勢町賛浦

マエソ ***Saurida macrolepis***
Tanaka 1917

日本, 韓国, 台湾, ベトナム, フィリピン, タイ湾, およびマレーシアの北西太平洋, 日本では富山湾と千葉県以南から九州南岸にかけての日本海・東シナ海沿岸と太平洋沿岸, 対馬, 東シナ海陸棚域, 奄美大島に分布する (古橋・本村, 2022; 深谷, 2023). 三重県では伊勢湾, 熊野灘で普通に見られる. 本種は側線鱗数が 46–50 であること, 胸鰭が長く, 後端が背鰭起部と腹鰭起部を結んだ線 (P–D 線) を越えること, 尾鰭上縁に暗色点列をもたないか, あっても不明瞭であること, および標準体長約 20 cm 以上の個体でも体腹側面



マエソ *Saurida macrolepis*, FRLM 50973, 179 mm SL, 志摩市志摩町御座

の黒色素胞は腹中線付近まで分布していないことにより同属他種と区別できる (古橋・本村, 2022; 2023). (笹木大地・木村清志)

ツケアゲエソ
***Saurida* sp.**
cf. *undosquamis*

日本では愛知県から琉球列島に分布する. 三重県では古橋・本村 (2022) によって志摩市および尾鷲市に分布することが示された. 本種は尾鰭上縁に顕著な黒色点列があることでクロエソ *Saurida umeyoshii* Inoue & Nakabo 2006 およびドロゾメエソ *Saurida fortis* Furuhashi, Russell & Motomura 2022 に類似する. クロエソとは側線鱗数が 53–56 (クロエソでは 49–52) であることで区別できる. ドロゾメエソとは第 1 鰓弓下枝



ツケアゲエソ *Saurida* sp. cf. *undosquamis*, FRLM 63057, 315 mm SL, 尾鷲市

鰓耙基底前端が基鰓骨一下鰓骨接合部の後端よりも前方に位置する (ドロゾメエソでは後方に位置する) こと, 腹部の黒色素胞は腹中線付近に分布しない (成魚で腹中線付近に分布する) ことで区別できる (古橋・本村, 2023). 本種については分類学的に混乱しており, 現在も研究が続けられている. (笹木大地・木村清志)

アカエソ属 Genus *Synodus* Scopoli 1777

スナエソ

Synodus fuscus Tanaka 1917

相模湾から九州南岸の太平洋沿岸、能登半島から長崎県、東シナ海大陸棚域、屋久島、奄美大島、台湾南部に分布する。三重県では志摩市安乗沖、御座沖、南伊勢町贅浦から標本が得られている。内列前端の口蓋骨歯数本は長いが、後方の歯との差は小さく、やや不連続的。側線上

4



スナエソ *Synodus fuscus*, FRLM 64576, 118 mm SL, 志摩市志摩町御座
方鱗列数 3.5, 稀に 4.5. 頬部は完全に被鱗する。胸鰭後端は背鰭起部と腹鰭起部を結ぶ線に達しない。
(笹木大地・木村清志)

ホシノエソ

Synodus hoshinonis
Tanaka 1917

インドー西太平洋、日本では千葉県外房域から九州南岸の太平洋沿岸、若狭湾から九州北西岸の日本海沿岸、対馬、種子島、奄美大島、沖縄県に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は鰓蓋上部に1黒斑があることが特徴。(笹木大地)

2



ホシノエソ *Synodus hoshinonis*, FRLM 54655, 235 mm SL, 志摩市和具沖

オグロエソ

Synodus jaculum
Russell & Cressey 1979

インドー西太平洋、日本では相模湾から鹿児島県本土、八丈島、小笠原諸島、薩南諸島以南に分布する。三重県では志摩市片田、御座、南伊勢町贅浦から標本が得られている。本種は尾柄部に1大黒色斑があることが特徴。(笹木大地)

4



オグロエソ *Synodus jaculum*, FRLM 60869, 58 mm SL, 南伊勢町贅浦

ハナトゴエソ
Synodus kaianus
(Günther 1880)

インドー太平洋、日本では駿河湾から日向灘、東シナ海大陸棚縁辺から斜面域に分布する。三重県では熊野灘で操業する底曳網で混獲される。本種は吻が尖ること、上顎が下顎より突出すること、体側に長方形の暗色斑があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)

3



ハナトゴエソ *Synodus kaianus*, FRLM 61377, 171 mm SL, 熊野灘

ハレギエソ
Synodus lautus

Furuhashi & Motomura 2025

日本固有種で現在のところ沖縄トラフ、土佐湾、熊野灘、遠州灘、御蔵島から記録されている。三重県では熊野灘産標本がパラタイプに指定され、伊勢湾口志摩市安乗沖の砂底から幼魚1個体が採集された。本種はこれまでハワイの固有種である *Synodus usitatus* Cressey 1981 に誤同定されていた (Furuhashi and Motomura, 2025)。本種は背鰭軟条

5



ハレギエソ *Synodus lautus*, WMNH-PIS-12741, 146 mm SL, 和歌山県 (パラタイプ)

数 11-13, 臀鰭軟条数 8-10, 側線輪数 56-59, 側線上方鱗列数 3.5, 鰓耙数 30-38, 頬部は完全に被鱗する, 前鼻孔皮弁は短く丸いか三角形

で, 後方に倒しても後鼻孔に達しないなどの特徴をもつ (Furuhashi and Motomura, 2025). (木村清志)

チョウチョウエソ
Synodus macrops
Tanaka 1917

東インド洋から西太平洋に分布する。日本では若狭湾から山口県沖の日本海沿岸、相模湾から鹿児島県本土の太平洋沿岸、東シナ海に分布する。三重県では熊野灘で操業するまき網および紀宝町鵜殿沖の釣りによって採集された。本種は体にXあるいはY字状の暗色斑があることが特徴。(笹木大地)



チョウチョウエソ *Synodus macrops*, FRLM 64540, 156 mm SL, 紀宝町鵜殿沖

アカエソ属の一種 1
Synodus pacificus
Ho, Chen & Shao 2016

本種は台湾（タイプ産地）、フィリピン、ニューカレドニア、および珊瑚海からの標本に基づいて記載された。体側に逆Ω形の暗色斑をもつことで類似したチョウチョウエソ *Synodus macrops* Tanaka 1917 と区別できる。日本からの本種の記録につ



アカエソ属の一種 1 *Synodus pacificus*, FRLM 65639, 166 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖
 いては、井上・遠藤が神奈川県、長崎県、および沖縄県から得られた標本を 2021 年度日本魚類学会年会で
 ポスター発表した。本標本は志摩市志摩町沖の熊野灘で採集された。
 (木村清志)

アカエソ
***Synodus ulae* Schultz 1953**

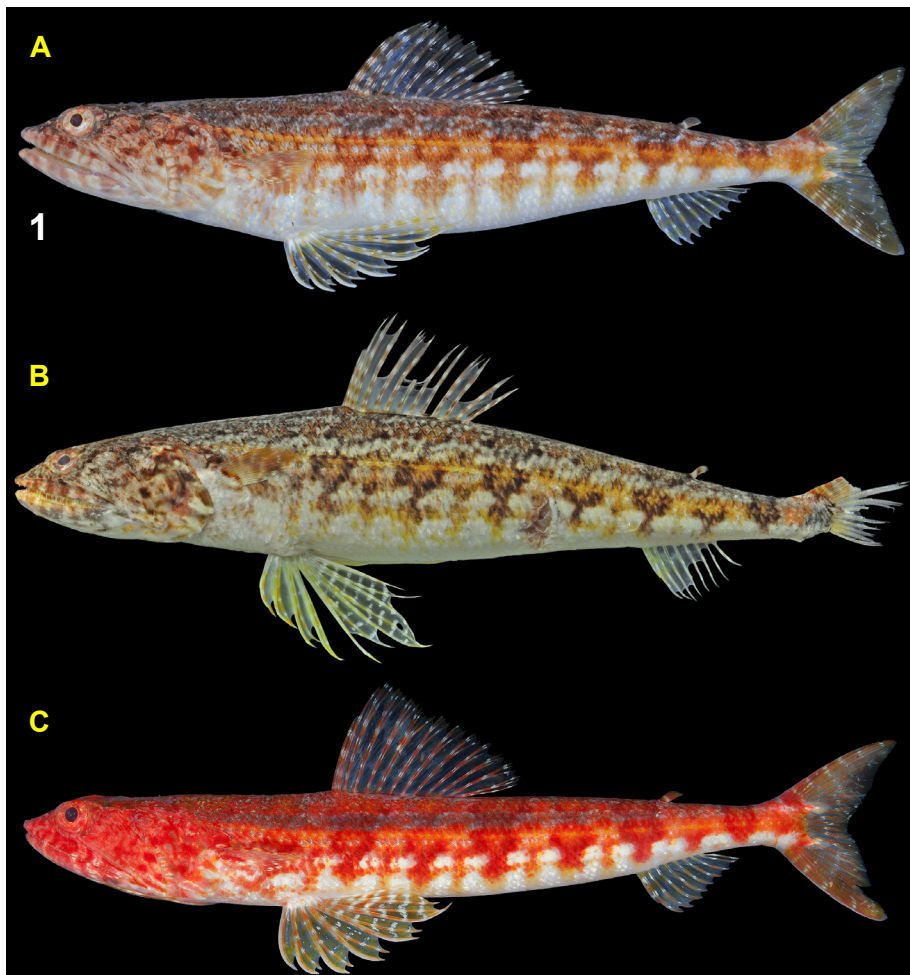
台湾、日本、およびハワイ（タイプ産地）。日本では奄美列島から千葉県まで分布する。内列前端の口蓋骨歯数本は長く、後方の歯とは不連続的。頬部の口裂後方にやや広い無鱗域がある。背鰭軟条 12-14、臀鰭軟条 8-10、側線鱗数 62-65、側線上方鱗列数 5.5、前鼻孔後縁の皮弁はへら状を示すものが比較的多いが、三角形や短い個体もある。体色は変異が大きく、赤い個体が多いものの、茶色の個体も出現する。腹鰭に明瞭な点列状の斑紋がある。側線の 1 列背方の鱗列に沿って灰色縦帯を示すものが多く、この縦帯は固定後明瞭になる。本種は熊野灘沿岸で多くみられる。形態的にミナミアカエソ *Synodus dermatogenys* Fowler 1912 とよく類似するが、ミナミアカエソの体は茶色で、腹鰭に斑紋がないことによって区別できる（古楳、私信）。
 (木村清志)

アカエソ *Synodus ulae*

A FRLM 63344, 217 mm SL
 志摩市志摩町越賀沖

B FRLM 52127, 264 mm SL
 志摩市志摩町御座

C FRLM 61769, 201 mm SL
 志摩市志摩町越賀沖



ミナミアカエソ *Synodus dermatogenys*
 FRLM 56290, 158 mm SL, ベトナム



ヒトスジエソ *Synodus variegatus* (Lacepède 1803)

インドー太平洋。日本では琉球列島から神奈川県まで分布する。内列前端の口蓋骨歯数本は長く、後方の歯とは不連続的。頬部は完全に被鱗する。背鰭軟条 12-13, 臀鰭軟条 8-10, 側線鱗数 60-65, 側線上方鱗列数 5.5, 稀に 6.5。本種は通常側線鱗列上に暗色縦帯をもつが(固定後に明瞭になる), 暗色縦帯がみられない個体もある。尾鰭市で採集された。(木村清志)



ヒトスジエソ *Synodus variegatus*

上 FRLM 61732, 213 mm SL, 尾鷲市九鬼町

下 FRLM 62936, 177 mm SL, 尾鷲市賀田町

アカエソ属の一種 2 *Synodus sp. cf. fasciipelvicus* Randall 2009

本標本は南伊勢町の定置網で漁獲されたもので、次の形質を有している。背鰭軟条 12, 臀鰭軟条 9, 側線鱗数 58, 側線上方鱗数 4.5, 口角後方の頬部に無鱗域がある, 吻端に片側 2 個の小さな暗色点をもつ。この特徴はインドネシア, ロンボク島(タイプ産地)とフィリピン, スミロン島の標本に基づいて記載された *Synodus fasciipelvicus* Randall 2009 の原記載とよく一致する。また本標本はタイプ標本の写真(Randall, 2009)に比較して黄色みが強いが全体的な斑紋の特徴はよく一致してい



アカエソ属の一種 2 *Synodus sp. cf. fasciipelvicus*, FRLM 59564, 110 mm SL

南伊勢町奈屋浦

る。しかしここではタイプ標本との詳細な比較は行っていないため, *fasciipelvicus* に同定することを避けた。(木村清志)

アカエソ属の一種 3 *Synodus sp. cf. ulae* Schultz 1953

本標本は志摩市志摩町越賀沖で釣りによって採集されたもので、以下に示す特徴をもち、アカエソ *Synodus ulae* Schultz 1953 とよく類似している。頬部の口裂後方にやや広い無鱗域がある。背鰭軟条 12, 臀鰭軟条 9, 側線鱗数 64, 側線上方鱗列数 5.5, 前鼻孔後縁の皮弁はへら状。側線の 1 列背方の鱗列に沿って灰色縦帯がある。しかし、腹鰭の斑紋はやや幅広い茶褐色の帯と白色の帯が



アカエソ属の一種 3 *Synodus sp. cf. ulae*, FRLM 63345, 165 mm SL

志摩市志摩町越賀沖

交互に並び、この特徴でアカエソと区別できる(古楳, 私信)。

(木村清志)



英虞湾, 2011 年 8 月 (木村清志撮影)

オキエソ属 Genus *Trachinocephalus* Gill 1861

オキエソ

Trachinocephalus trachinus
(Temminck & Schlegel 1846)

東太平洋を除く全世界の温帯から熱帯域に広く分布する。日本では新潟県および岩手県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸と太平洋沿岸、瀬戸内海、小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。本種は体側に青白い縦線があること、吻が著しく短いこと、臀鰭基底が長いこと、臀鰭は14-17 軟条であることが特徴。

(笹木大地)



オキエソ *Trachinocephalus trachinus*

上 成魚, FRLM 42367, 96 mm SL, 英虞湾内座賀島

中 成魚, FRLM 36760, 120 mm SL, 志摩市志摩町御座

下 稚魚, FRLM 53518, 39 mm SL, 英虞湾内座賀島

ハダカエソ科 Family Paralepididae Bonaparte 1835

ナメハダカ属 Genus *Lestidium* Gilbert 1905

ナメハダカ
Lestidium prolixum
Harry 1953

台湾, 日本, 韓国に分布する。日本では, 茨城県から九州南岸の太平洋沖, 兵庫県浜坂沖, 山口県日本海側, 沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘に分布する。眼の直前に小乳頭突起がないこと, 腹中線の



ナメハダカ *Lestidium prolixum*, FRLM 36589, 261 mm SL, 尾鷲市

発光器は1本であること, 背鰭は腹端は主鰓蓋骨の下方にあることが特徴。
鰭より後方にあること, 発光器の前 (笹木大地)

ハダカエソ属 Genus *Lestrolepis* Harry 1953

フタスジナメハダカ
Lestrolepis japonica
(Tanaka 1908)

台湾, 日本および韓国の北西太平洋に分布する。日本では青森県から房総半島の太平洋沖, 相模湾から記録されている。三重県では熊野灘のまき網で採集された。従来フタスジナメハダカには *Lestrolepis intermedia* (Poey 1868) や *Lestrolepis*



フタスジナメハダカ *Lestrolepis japonica*, FRLM 44459, 225 mm SL, 熊野灘

nigroventralis Ho, Tsai & Li 2019 の学名が用いられていたが, 前者は大西洋種であり (Ho et al., 2019), 後者は本種の新参シノニムである (Ho and Kawai, 2024)。本種は背鰭始部

が腹鰭始部と臀鰭始部のほぼ中間に位置すること, 臀鰭は41-43 軟条であることから日本産同属他種と区別できる。
(笹木大地)

ハダカエソ *Lestrolepis philippina* (Fowler 1934)

オーストラリア北西部, フィリピン, 南シナ海, 台湾, 日本の西太平洋に広く分布する。日本では東北太平洋沖, 房総半島沖, 相模湾から紀伊半島沖, 鹿児島湾, 大隅諸島黒島, 東シナ海北東部に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は背鰭



ハダカエソ *Lestrolepis philippina*, FRLM 32286, 103 mm SL, 台湾

始部が臀鰭始部より腹鰭基底後端に近いこと, 臀鰭は 36-40 軟条であることが特徴。(笹木大地)

ミナミハダカエソ *Lestrolepis pofi* (Harry 1953)

インドー西太平洋, 日本では駿河湾, 鹿児島県与論島から記録があるほか, 台湾北方太平洋で稚魚の記録がある。三重県では熊野灘で操業するまき網によって混獲された 1 標本がある。本種はハダカエソに似るが,



ミナミハダカエソ *Lestrolepis pofi*, FRLM 57422, 156 mm SL, 熊野灘

臀鰭が 32-36 軟条であることで区別できる。(笹木大地)

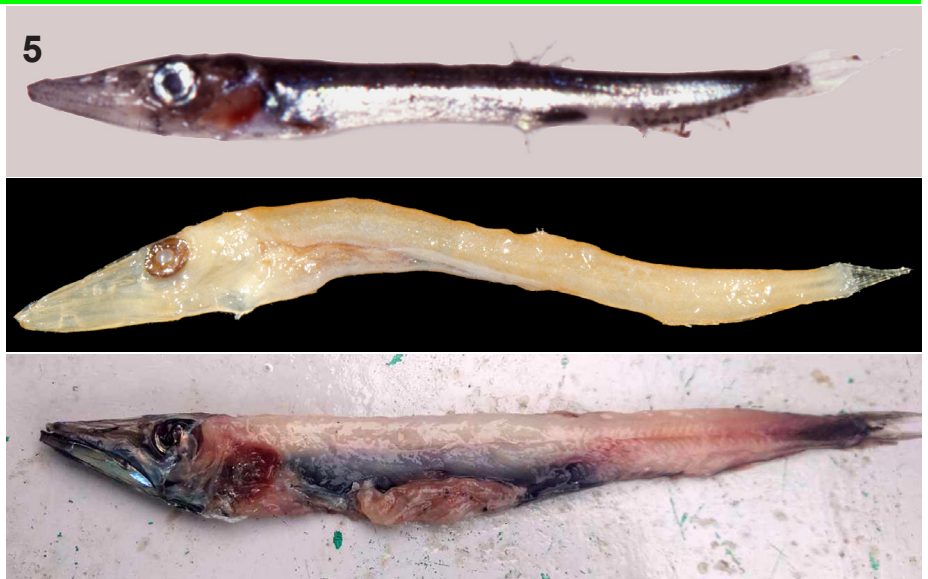
クサビウロコエソ属 Genus *Magnisudis* Harry 1953

クサビウロコエソ *Magnisudis atlantica* (Krøyer 1868)

全世界の温帯から寒帯域, 日本では北海道オホーツク海沖, 北海道から岩手県の太平洋沖, 房総半島沖, 駿河湾, 土佐湾, 小笠原諸島近海, 沖縄舟状海盆, 九州ーパラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。体は細長いこと, 両顎の先端は尖り, くさび状であることが特徴。(笹木大地)

クサビウロコエソ *Magnisudis atlantica*
熊野灘

上 FRLM 9489, 44 mm SL
中 FRLM 7311, 35 mm SL (固定標本)
下 志摩半島沖 (岡本航一氏撮影)



ヤリエソ科 Family Evermannellidae Fowler 1901

ヤリエソ属 Genus *Coccorella* Roule 1929

ミナミヤリエソ *Coccorella atrata* (Alcock 1894)

インドー太平洋, 日本では東北太平洋沖および熊野灘から記録されている。本種は熊野灘で得られた標本に基づいて Kimura and Suzuki (1990) によって日本から初めて記録された。本種は眼が半管状で背側方を向くこと, 下顎歯が 1 列であること, 前頭骨上の感覚管孔は 2 対であること, 体は褐色であることが特徴。(笹木大地)



ミナミヤリエソ *Coccorella atrata*, FRLM 8621, 88 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

キバハダカ科 Family Omosudidae Regan 1911

キバハダカ属 Genus *Omosudis* Günther 1887

キバハダカ *Omosudis lowii* Günther 1887

世界中の熱帯から温帯域，日本では茨城県から房総半島沖，小笠原諸島近海から記録されている．三重県では熊野灘沖から1標本が得られている．本種は両顎に犬歯をもつこと，眼は前上方に開口部をもつ脂脰に被われることが特徴．（笹木大地）



キバハダカ *Omosudis lowii*, FRLM 7288, 28 mm SL, 熊野灘（固定標本）

ミズウオ科 Family Alepisauridae Swainson 1839

ミズウオ属 Genus *Alepisaurus* Lowe 1833

ミズウオ *Alepisaurus ferox* Lowe 1833

全世界に広く分布する．日本では北海道太平洋・オホーツク海，青森県から土佐湾の太平洋，東シナ海，沖縄県に分布する．本種は体が著しく細長いこと，背鰭は大きく，その基底は著しく長いことが特徴．（笹木大地）



ミズウオ *Alepisaurus ferox*, FRLM 60759, 840 mm SL, 志摩市沖熊野灘

ハダカイワシ目 Order Myctophiformes

ソトオリイワシ科 Family Neoscopelidae Jordan 1901

ソトオリイワシ属 Genus *Neoscopelus* Johnson 1863

ソトオリイワシ *Neoscopelus macrolepidotus* Johnson 1863

世界中の熱帯から温帯域に広く分布する．日本では北海道から日向灘の太平洋沖，東シナ海に分布する．三重県では熊野灘で操業する沖合底曳網で採集された．本種は腹鰭より後方の体側発光器が1列であること，体側発光器が臀鰭起部より後方に達しないこと，胸鰭は背鰭基底後端に達することで同属他種と区別できる．（笹木大地）

ソトオリイワシ

Neoscopelus macrolepidotus

上 BSKU 44248, 188 mm SL, 高知県

下 FRLM 31988, 100 mm SL, 熊野灘（固定標本）



サンゴイワシ
Neoscopelus microchir
Matsubara 1943

東太平洋を除く全世界の熱帯から温帯域、日本では北海道太平洋沖、駿河湾から鹿児島県の太平洋、東シナ海、大隅諸島、沖縄舟状海盆、中・西マリアナ海嶺に分布する。三重県では熊野灘で操業する沖合底曳網でしばしば漁獲される。本種は腹鰭より後方の体側発光器が1列であること、体側発光器が臀鰭起部を越えること、胸鰭は背鰭基底後端に達しないことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



サンゴイワシ *Neoscopelus microchir*, FRLM 34102, 126 mm SL, 熊野灘

ハダカイワシ科 Family Myctophidae Gill 1893

ソコハダカ属 Genus *Benthosema* Goode & Bean 1896

ソコハダカ
Benthosema suborbitale
(Gilbert 1913)

全世界の暖海域、日本では房総以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。眼と胸鰭が大きい。眼下発光器がある。胸鰭下発光器はほぼ水平に並ぶ。第2腹部発光器は他より高い位置にある。第2尾鰭前発光器は側線に近い位置にある。

(岡田 誠)



ソコハダカ *Benthosema suborbitale*, FRLM 27095, 18 mm SL, 熊野灘

ミカツキハダカ属 Genus *Bolinichthys* Paxton 1972

フトミカツキハダカ
Bolinichthys distofax
Johnson 1975

太平洋と大西洋の暖海域、日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。頭が大きく、体は短い。虹彩の後半部に白色の三日月形の組織がある。上下の尾柄発光腺はそれぞれ複数のものからなる。腹鰭上発光器は側線から離れる。後部臀鰭発光器の最後は尾柄発



フトミカツキハダカ *Bolinichthys distofax*, FRLM 9752, 25 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

光腺の前端より後方にある。

(岡田 誠)

ホソミカツキハダカ
Bolinichthys longipes
(Brauer 1906)

インドー太平洋の熱帯・亜熱帯海域、日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。虹彩の後半部に白色の三日月形の組織がある。上下の尾柄発光腺はそれぞれ複数のものからなる。腹鰭上発光器は側線上か、わずかに下にある。



ホソミカツキハダカ *Bolinichthys longipes*, FRLM 7521, 20 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

後部臀鰭発光器の最後は尾柄発光腺の前端より前方にある。(岡田 誠)

ブタハダカ属 Genus *Centrobranchus* Fowler 1904

ブタハダカ

Centrobranchus nigroocellatus
(Günther 1873)

世界中の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。体は細く、特に尾柄は細長い。吻端は前方に突出する。側線はなく、鰓耙は退化的。第1肛門上発光器は第3腹部発光器の直上か、それより前にある。尾鰭前発光器は1-2個で体側中央より下側にある。

(岡田 誠)

5



ブタハダカ *Centrobranchus nigroocellatus*, FRLM 12276, 22 mm SL, 和歌山県潮岬沖

ゴコウハダカ属 Genus *Ceratoscopelus* Günther 1864

ゴコウハダカ

Ceratoscopelus townsendi
(Eigenmann & Eigenmann 1889)

全世界の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。体は細く、頭や目は大きい。軀幹部から尾柄の腹面正中線上に発光部がある。

(岡田 誠)

3



ゴコウハダカ *Ceratoscopelus townsendi*, FRLM 58333, 82 mm SL, 熊野灘

アラハダカ属 Genus *Dasyscopelus* Günther 1864

アラハダカ

Dasyscopelus asper
(Richardson 1845)

世界中の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。体はやや細長く厚みがあり、尾柄は細い。鱗ははがれにくい。鰓蓋上端は丸くなめらか。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器列は折れ曲がる。体側後部発光器は1個。尾鰭前発光器は2個。側線有孔鱗数は38-41。尾柄背腹面の発光部は二次性徴を表し、雄は背面、雌は腹面にある。

(岡田 誠)

2



アラハダカ *Dasyscopelus asper*, FRLM 35284, 83 mm SL, 熊野灘

ヒサハダカ

Dasyscopelus obtusirostris
(Tåning 1928)

世界中の熱帯・亜熱帯海域。日本では駿河湾と熊野灘、東シナ海大陸斜面域で記録されている。日周鉛直移動を行う。体はやや側扁する。鱗ははがれやすい。鰓蓋上端は丸く鋸歯状。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器列は少し折れ曲がる。体側後部発光器は1個。尾鰭前発光器は2個。胸鰭は14-20軟条。尾柄背腹面の発光部は二次性徴を表し、雄は背面、雌は腹面にある。

(岡田 誠)

3



ヒサハダカ *Dasyscopelus obtusirostris*, FRLM 58317, 59 mm SL, 熊野灘

ウスハダカ
Dasyscopelus orientalis
(Gilbert 1913)

北西太平洋。日本では東北以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。体高が高く側扁する。鱗ははがれやすい。鰓蓋上端は丸くなめらか。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器列はまっすぐ。体側後部発光器は1個。尾鰭前発光器は2個。側線有孔鱗数は33-36。尾柄背腹面の発光部は二次性徴を表し、雄は背面、雌は腹面にある。

(岡田 誠)



ウスハダカ *Dasyscopelus orientalis*, FRLM 54588, 51 mm SL, 熊野灘

イバラハダカ
Dasyscopelus spinosus
(Steindachner 1867)

インドー太平洋の亜熱帯海域とアガラス海流域。日本では東北以南の太平洋沖に分布する。鱗は強い櫛鱗ではがれにくい。鰓蓋上端は丸く鋸歯状。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器列はまっすぐ。体側後部発光器は1個。尾鰭前発光器は2個。胸鰭は12-15軟条。(岡田 誠)



イバラハダカ *Dasyscopelus spinosus*, FRLM 10654, 32 mm SL, 沖縄県

ハダカイワシ属 Genus *Diaphus* Eigenmann & Eigenmann 1890

メハダカ
Diaphus adenomus
Gilbert 1905

太平洋と大西洋の暖海域。日本では駿河湾以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。大型になり、体形はハダカイワシ *Diaphus watasei* Jordan & Starks 1904 に似るがやや太短い。眼上、眼下に細長い発光器がある。

(岡田 誠)



メハダカ *Diaphus adenomus*, FRLM 56012, 136 mm SL, 熊野灘

ニラミハダカ
***Diaphus aliciae* Fowler 1934**

インドー太平洋の熱帯海域と暖流域、および南緯33度以南のアガラス海流域。日本では房総半島以南の太平洋沖に分布する。小型で体は短い。鼻部の背腹発光器は連続せず、背側は正面を向く。眼の下側には鼻部腹側発光器に加え、微小な眼下発光器がある。胸鰭上発光器には発光鱗を伴う。前部臀鰭発光器列のはじめの位置は高い。後部臀鰭発光器は通常4個(3-4個)。眼径と上顎長はそれぞれ体長の11.0%以上、18.0%以上。背鰭は通常14(13-14)軟条。第1鰓弓の鰓耙数は17-20。

(岡田 誠)



ニラミハダカ *Diaphus aliciae*, FRLM 28302, 35 mm SL, 熊野灘

サガミハダカ
Diaphus chrysorhynchus
Gilbert & Cramer 1897

西太平洋の暖海域。日本では千葉県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。大型種で、体形はハダカイワシ *Diaphus watasei* Jordan & Starks 1904 に似る。尾鰭両葉の後端は黒い。眼前上部発光器がある。鼻部の背腹発光器は臭覚器を避けて発達するが、左右のそれらが吻端部で接することはない。鼻部背側発光器は前方を向く。鼻部腹側発光器の後端は眼の中心より後ろに達する。

(岡田 誠)

コビトハダカ
Diaphus fulgens
(Brauer 1904)

インドー西太平洋の熱帯海域。日本では駿河湾以南の太平洋沖に分布する。小型で体は短い。鼻部の背腹発光器は連続せず、背側は正面を向く。眼の下側には鼻部腹側発光器に加え、微小な眼下発光器がある。胸鰭上発光器には発光鱗を伴う。前部臀鰭発光器列のはじめの位置は高い。後部臀鰭発光器は通常5個(5-6個)。眼径と上顎長は体長の11.0%以下, 17.5%以下。第1鰓弓の鰓耙数は17-20。鼻部腹側発光器は雄で著しく大きい(Wisner, 1976)。

(岡田 誠)

ヒロハダカ
Diaphus garmani
Gilbert 1906

東大西洋を除く全世界の暖海域。日本では岩手県以南の太平洋沖、対馬沖の日本海に分布する。日周鉛直移動を行う。小型種で体はやや側扁する。鼻部の背腹発光器は連続し、背側発光器は斜め前方を向く。胸鰭上発光器は発光鱗を伴い、発光鱗は発光器の2倍以上と大きい。腹鰭上発光器は側線と腹鰭基部前端の中間にある。肛門上発光器列は第5腹部発光器より高位にある。後部臀鰭発光器列は通常5個(5-6個)が同じ高さで揃う。腹鰭は11-13軟条。第1鰓弓の鰓耙数は17-23。Wisner (1976) によれば、胸鰭上発光器は常に、腹鰭上発光器はたいてい、それぞれの鰭の基底よりも側線に近い。尾鰭前発光器はあまり広がらず、第1と第2、第2と第3の間隔は同程度で、第3と第4の間隔はその2倍程度。鼻部背側発光器は雄で大きく明瞭で、腹側と同程度以上の大きさになる。

(岡田 誠)



サガミハダカ *Diaphus chrysorhynchus*, FRLM 63035, 62 mm SL, 尾鷲市



コビトハダカ *Diaphus fulgens*, FRLM 64707, 25 mm SL, 熊野灘 (固定標本)



ヒロハダカ *Diaphus garmani*

上 FRLM 28396, 35 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

中 FRLM 63083, 51 mm SL, 尾鷲市早田町

下 FRLM 53755, 27 mm SL, 口永良部島

スイトウハダカ *Diaphus gigas* Gilbert 1913

西・北太平洋の亜寒帯から暖海域。日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。大型種で、体形はハダカイワシ *Diaphus watasei* Jordan & Starks 1904 に似るが、頭が大きい。眼前上部発光器がある。鼻部の背腹発光器は強大で連続し、臭覚器をとり囲んで左右のそれらが吻端部でほぼ接する。鼻部背側発光器は正面を向く。胸鰭上発光器は側線と胸鰭基底上端の中間にある。第3肛門上発光器と



スイトウハダカ *Diaphus gigas*, FRLM 54585, 127 mm SL, 熊野灘

体側後部発光器は側線よりも発光器1個分だけ下にある。(岡田 誠)

クロシオハダカ *Diaphus kuroshio* Kawaguchi & Nafpaktitis 1978

黒潮流域および北・中央太平洋の亜寒帯から暖海域。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。小型で体は短い。鼻部の背腹発光器は連続せず、背側は正面を向く。眼の下側には鼻部腹側発光器に加え、微小な眼下発光器がある。胸鰭上発光器には発光鱗を伴う。前部臀鰭発光器列のはじめの位



クロシオハダカ *Diaphus kuroshio*, FRLM 9597, 58 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

置は高い。第1鰓弓の鰓耙数は22-25。鼻部腹側発光器は成熟雄では肥大する (Kawaguchi and Nafpaktitis, 1978)。(岡田 誠)

ガンテンハダカ *Diaphus luetkeni* (Brauer 1904)

全世界の暖海域。日本では房総以南の太平洋沖、対馬近海の日本海に分布する。日周鉛直移動を行う。小型種。鼻部の背腹発光器は連続せず、背側は正面を向く。鼻部腹側発光器の背縁に3-5個の微小突起がある。長く伸びた鼻部腹側発光器は雄で強大、雌では細長くなる (Wisner, 1976)。(岡田 誠)



ガンテンハダカ *Diaphus luetkeni*, FRLM 7526, 33 mm SL, 熊野灘 (固定標本; 尾部背面および尾鰭損傷)

ハナレハダカ *Diaphus malayanus* Weber 1913

インド洋から中央太平洋の熱帯海域。日本では相模湾以南の太平洋沖、対馬沖の日本海に分布する。日周鉛直移動を行う。小型種。鼻部の背腹発光器は連続する。胸鰭上発光器は発光鱗を伴い、発光鱗は発光器と同程度の大きさ。腹鰭上発光器は側線と腹鰭基部前端の中間にある。肛門上発光器列は第5腹部発光器より高位にある。後部臀鰭発光器列は通常5個(5-6個)が同じ高さで揃う。胸鰭は10-12軟条。第1鰓弓の鰓耙



ハナレハダカ *Diaphus malayanus*, FRLM 28429, 29 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

数は17-23。胸鰭上発光器は側線よりも胸鰭基底に近く、腹鰭上発光器はたいてい腹鰭基底よりも側線に近い。尾鰭前発光器はあまり広がらず、

第3と第4の間隔は第1から第3のそれと同程度以上。肛門上発光器列は急角度で直線状に並ぶ (Wisner, 1976)。(岡田 誠)

オトメハダカ
***Diaphus mollis* Tåning 1928**

北東太平洋を除く世界中の暖海域。日本では東北以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。小型で体は短い。鰓蓋上端の後背縁部は突出する。鼻部の背腹発光器は連続せず、背側は正面を向く。眼の下側には鼻部腹側発光器に加え、微小な眼下発光器がある。胸鰭上発光器には発光鱗を伴う。前部臀鰭発光器列のはじめの位置は高い。後部臀鰭



オトメハダカ *Diaphus mollis*, FRLM 28116, 20 mm SL, 熊野灘（固定標本）

発光器は通常4個（3-4個）。眼径および上顎長はそれぞれ体長の11.0%以上、18.0%以上。背鰭は通常13

（12-14）軟条。第1鰓弓の鰓耙数は17-20。鼻部腹側発光器は雄で著しく大きい（Wisner, 1976）。（岡田 誠）

ツクシハダカ
Diaphus nielsenii
Nafpaktitis 1978

西インドー西・北・中央太平洋とアガラス海流域。日本では対馬近海で記録されている。小型種。鼻部の背腹発光器は連続する。胸鰭上発光器は発光鱗を伴い、発光鱗は発光器の2倍以上と大きい。腹鰭上発光器は側線と腹鰭基部前端の中間にある。肛門上発光器列は第5腹部発光器より高位にある。後部臀鰭発光器列は通常5個（5-6個）が同じ高さ



ツクシハダカ *Diaphus nielsenii*, FRLM 32892, 32 mm SL, 熊野灘（固定標本）

で揃う。腹鰭は9-10軟条。第1鰓弓の鰓耙数は17-23。（岡田 誠）

シロハナハダカ
Diaphus perspicillatus
(Ogilby 1898)

全世界の暖海域。日本では東北以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。小型で、頭や眼が大きい。眼前上部発光器がある。鼻部の背腹発光器は強大で連続し、臭覚器をとり囲んで左右のそれらが吻端部でほぼ接する。鼻部背側発光器は正面を向く。胸鰭上発光器は側線と胸鰭基底上端の中間にある。第3肛門上発光器と体側後部発光器は側線に接する。（岡田 誠）



シロハナハダカ *Diaphus perspicillatus*, 熊野灘
上 FRLM 58331, 65 mm SL,
下 FRLM 37225, 58 mm SL

タカハダカ
Diaphus schmidtii
Tåning 1932

西・中央太平洋の暖海域。日本では青森県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。小型種で体はやや側扁する。鼻部の背腹発光器は連続し、背側発光器は斜め前方を向く。腹鰭上発光器は側線と腹鰭基部前端の中間より上にある。肛門上発光器列は第5腹部発光器より高位にある。後部臀鰭発光器列は通常5個（5-6個）が同じ高さで揃う。第1鰓弓の鰓耙数は17-23。尾鰭前発光器の間隔は後方に行くほど大きくなる。目が小さく頭長の1/5。第2、第3肛門上発光器の間隔は第1、第2のそれの2倍程度。鼻部背腹発光器は雄が著しく大きい（Wisner, 1976）。（岡田 誠）



タカハダカ *Diaphus schmidtii*, FRLM 64710, 27 mm SL, 熊野灘（固定標本）

センハダカ
Diaphus suborbitalis
Weber 1913

インド洋および西・中央太平洋の暖海域。日本では福島県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。小型種。鼻部の背腹発光器は連続しない。鼻部腹側発光器は発達して眼の真下に位置し、背縁はなめらか。腹鰭上発光器、第3肛門上発光器、後部体側発光器、第4尾鰭前発光器にそれぞれ発光鱗がある。

(岡田 誠)



センハダカ *Diaphus suborbitalis*, FRLM 54586, 57 mm SL, 熊野灘

トドハダカ
Diaphus theta
Eigenmann & Eigenmann 1890

北太平洋の亜寒帯海域。日本では千葉県以北の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。小型で体は短い。鼻部の背腹発光器は連続しない。眼の下側には鼻部腹側発光器に加え、微小な眼下発光器がある。胸鰭上発光器には発光鱗を伴う。前部臀鰭発光器列のはじめの位置は高くな



トドハダカ *Diaphus theta*, FRLM 27904, 28 mm SL, 熊野灘

い。体高は体長の 21.7–24.2%。

(岡田 誠)

ハダカイワシ
Diaphus watasei
Jordan & Starks 1904

インドー西太平洋の暖海域。日本では青森県以南の太平洋沖、島根県以南の日本海に分布する。日周鉛直移動を行う。体長 10 cm を超える大型種。眼前上部発光器がある。鼻部背側発光器は小さい。鼻部腹側発光器は三角形。背鰭は 14–16 軟条、臀鰭は 14–16 軟条。両顎歯は全て小さく絨毛状。

(岡田 誠)



ハダカイワシ *Diaphus watasei*, FRLM 65821, 132 mm SL, 御浜町阿田和

イタハダカ属 Genus *Diogenichthys* Bolin 1939

イタハダカ
Diogenichthys atlanticus
(Tåning 1928)

世界中の暖海域。日本では房総以南の太平洋沖、長崎以南に分布する。日周鉛直移動を行う。眼と胸鰭が大きい。胸鰭下発光器はほぼ水平に並ぶ。第2腹部発光器は他より高い位置にある。尾鰭前発光器は2個で、側線よりかなり下にある。雄の尾柄背面の発光部は大きく尾柄の約半分



イタハダカ *Diogenichthys atlanticus*, FRLM 28415, 16 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

を占める。雌の尾柄腹面の発光部は 小さい (Wisner, 1976)。(岡田 誠)

ダルマハダカ属 Genus *Electrona* Goode & Bean 1896

ダルマハダカ *Electrona risso* (Cocco 1829)

世界中の亜寒帯から暖海域。日本では東北以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。目や頭が大きい。体は短く体高が高い。胸鰭上発光器は胸鰭上端より下にある。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。臀鰭発光器は前後に分かれない。尾鰭前発光器は2個。
(岡田 誠)



ダルマハダカ *Electrona risso*, FRLM 37478, ca. 67 mm SL, 福島県沖
(尾部損傷, 固定標本)

ドングリハダカ属 Genus *Hygophum* Bolin 1939

ツマリドングリハダカ *Hygophum proximum* Becker 1965

インドー太平洋の暖海域と南緯37度以南のアガラス海流域。日本では房総以南の太平洋沖, 長崎以南に分布する。日周鉛直移動を行う。眼と胸鰭が大きい。胸鰭基底上端は眼の中央より下。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。体側後部発光器は2個。第2尾鰭前発光器は側線近くにある。臀鰭は18-21軟条。雄の尾柄背面発光部は大きく尾柄背面の3/4以上を占



ツマリドングリハダカ *Hygophum proximum*, FRLM 54395, 18 mm SL, 宮崎県
(固定標本)

める。雌の尾柄腹面発光部は2, 3の要素が融合し小さく細長い。これは雌雄とも25 mmで明瞭である(Wisner, 1976)。
(岡田 誠)

ドングリハダカ *Hygophum reinhardtii* (Lütken 1892)

全世界の暖海域。日本では青森県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。眼と胸鰭が大きい。胸鰭基底上端は眼の中央か、それより上。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。体側後部発光器は2個。第2尾鰭前発光器は側線近くにある。臀鰭は21-25軟条。雄の尾柄背面発光部は尾柄背面の1/2を占める。雌の尾柄



ドングリハダカ *Hygophum reinhardtii*, FRLM 8450, 14 mm SL, 熊野灘
(頭部損傷, 固定標本)

腹面発光部は3, 4の点が融合する。mm以上で発現する(Wisner, 1976)。これらは雄で25 mm以下, 雌で30
(岡田 誠)

カガミイワシ属 Genus *Lampadena* Goode & Bean 1893

カガミイワシ *Lampadena luminosa* (Garman 1899)

全世界の暖海域。日本では宮城県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。第4胸部発光器は他より著しく高い位置にある。体側後部発光器は1個。尾柄には背・腹面にそれぞれ1つずつ、大きく黒色素で縁取られた発光腺がある。
(岡田 誠)



カガミイワシ *Lampadena luminosa*, FRLM 28303, 23 mm SL, 熊野灘

トミハダカ属 Genus *Lampanyctus* Bonaparte 1840

トミハダカ *Lampanyctus alatus* Goode & Bean 1896

東太平洋を除く全世界の暖海域。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。胸鰭は長く、後端は腹鰭基底後端をはるかに越える。頬に発光器がある。胸鰭上発光器は1個。肛門上発光器列は折れ曲がる。第1-第4前部臀鰭発光器は同じ高さに並ぶ。体側後部発光器は2個。脂鰭基底前縁に発光腺がある。尾柄には背・腹面にそれぞれ、複数のものからなる発光腺がある。



トミハダカ *Lampanyctus alatus*, FRLM 27907, 30 mm SL, 熊野灘

ある。尾鰭前発光器の最後の3つは下に凸の形で並ぶ。(岡田 誠)

マメハダカ *Lampanyctus jordani* Gilbert 1913

西・北・東太平洋の寒帯から亜熱帯暖海域。日本では北海道から土佐湾、小笠原諸島近海に分布する。日周鉛直移動を行う。胸鰭は長く、後端は腹鰭基底後端をはるかに越える。頬に発光器がある。胸鰭上発光器は2個。肛門上発光器列は折れ曲がる。第2、第3前部臀鰭発光器は他より高い位置に並ぶ。体側後部発光器は2個。脂鰭基底前縁に発光腺がある。尾柄には背・腹面にそれぞれ、複数のものからなる発光腺がある。



マメハダカ *Lampanyctus jordani*, FRLM 9989, 103 mm SL, 熊野灘
(左右反転, 固定標本)

る。尾鰭前発光器の最後の3つは(10-14)軟条。胸鰭は通常16(14-17)軟条。下に凸の形で並ぶ。背鰭は通常11軟条。(岡田 誠)

トンガリハダカ *Lampanyctus niger* (Günther 1887)

太平洋の暖海域。日本では東北以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。胸鰭は短いか、ない。胸鰭上発光器は1個で側線のわずかに下にある。肛門上発光器列は折れ曲がる。体側後部発光器は2個。尾柄には背・腹面にそれぞれ、複数のものからなる発光腺がある。尾鰭前発光器の最後は側線上にある。(岡田 誠)



トンガリハダカ *Lampanyctus niger*, FRLM 28306, 52 mm SL, 熊野灘

ホソトンガリハダカ *Lampanyctus nobilis* Tåning 1928

全世界の暖海域。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。胸鰭は長く、後端は腹鰭基底後端をはるかに越える。胸鰭上発光器は1個。肛門上発光器列は折れ曲がる。体側後部発光器は2個。尾柄には背・腹面にそれぞれ、複数のものからなる発光腺がある。



ホソトンガリハダカ *Lampanyctus nobilis*, FRLM 27907, 99 mm SL, 熊野灘
(左右反転, 固定標本)

尾鰭前発光器の最後の3つは真っ直ぐか、上に凸の形で並び、最後は尾鰭基底よりかなり後方にある。胸鰭は13-15軟条。(岡田 誠)

ネッタイニジハダカ
Lampanyctus tenuiformis
(Brauer 1906)

東インド洋－西太平洋，東大西洋の熱帯海域。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。胸鰭は長く，後端は腹鰭基底後端をはるかに越える。胸鰭上発光器は1個。第4胸部発光器は第1－第3より高い位置にある。肛門上発光器列は折れ曲がる。第1，第2肛門上発光器を結ぶ直線は胸鰭基底上端か，それより下を通る。体側後部発光器は2個。第1後部臀鰭発光器は臀鰭基底後端直上にある。尾柄には背・腹面にそれぞれ，複数のもの



ネッタイニジハダカ *Lampanyctus tenuiformis*, FRLM 45516, 92 mm SL, 熊野灘

のからなる発光腺がある。尾鰭前発光器の最後の3つは下に凸の形で並ぶ。本種とニジハダカ *Lampanyctus*

festivus Tåning 1928 を含む種群は再検討が必要とされている (Wisner, 1976). (岡田 誠)

カタハダカ
Lampanyctus turneri
(Fowler 1934)

インド洋および西・北太平洋とアガラス海流域。日本では房総以南の太平洋沖に分布する。胸鰭は長く，後端は腹鰭基底後端をはるかに越える。胸鰭上発光器は1個。腹鰭上発光器は側線にほぼ接する。肛門上発光器列は折れ曲がる。体側後部発光器は2個。尾柄には背・腹面にそれ



カタハダカ *Lampanyctus turneri*, FRLM 9670, 32 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

ぞれ，複数のものからなる発光腺がある。尾鰭前発光器の最後の3つは

真っ直ぐか，上に凸の形で並ぶ。胸鰭は11-13軟条。 (岡田 誠)

ナミトゲハダカ
***Lampanyctus* sp.**

西太平洋。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。胸鰭は長く，後端は腹鰭基底後端をはるかに越える。胸鰭上発光器は1個。肛門上発光器列は折れ曲がる。体側後部発光器は2個。尾柄には背・腹面にそれぞれ，複数のものからなる発光腺がある。尾鰭前発光器の最後の3つは真っ直ぐか，上に凸の形で並び，最



ナミトゲハダカ *Lampanyctus* sp., FRLM 28304, 50 mm SL, 熊野灘

後は尾鰭基底よりわずかに後方にある。胸鰭は13-15軟条。 (岡田 誠)

ススキハダカ属 Genus *Myctophum* Rafinesque 1810

ススキハダカ
Myctophum nitidulum
Garman 1899

世界中の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。体はやや側扁する。鱗ははがれやすい。鰓蓋上端は角張る。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器列はまっすぐ。体側後部発光器は1個。尾鰭前発光器は2個。尾柄背腹面の発光部は二次性徴を表し，雄は背面，雌は腹面にある。

(岡田 誠)



ススキハダカ *Myctophum nitidulum*, FRLM 58335, 60 mm SL, 熊野灘

ウラハダカ属 Genus *Notolychnus* Fraser-Brunner 1949

ウラハダカ *Notolychnus valdiviae* (Brauer 1904)

全世界の暖海域。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。胸鰭上発光器、第3肛門上発光器、体側後部発光器はそれぞれ体の背縁近くにある。2個の尾鰭前発光器は側線の上下に対称に並ぶ。
(岡田 誠)



ウラハダカ *Notolychnus valdiviae*, FRLM 9753, 21 mm SL, 熊野灘
(左右反転, 固定標本)

オオクチイワシ属 Genus *Notoscopelus* Günther 1864

オオセビレハダカ *Notoscopelus caudispinosus* (Johnson 1863)

北東太平洋を除く全世界の暖海域。日本では駿河湾以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。体は厚みがありがっしりとしている。体は円鱗に被われる。第2胸鰭下発光器は胸鰭基底上端よりはるかに上にある。体側後部発光器は2-3個で、側線と平行に並ぶ。尾鰭前発光器は3個。側線有孔鱗数は38-41。背鰭は通常26(24-27)軟条。鰓耙数は14以下。歯はほとんど微小絨毛状だが、後方の下顎歯が肥大する。雄成魚の尾柄上部発光腺の前端



オオセビレハダカ *Notoscopelus caudispinosus*, FRLM 45149, 120 mm SL, 熊野灘

は脂鰭基部にはじまる(藤井・上野, 1976).
(岡田 誠)

オオクチイワシ *Notoscopelus japonicus* (Tanaka 1908)

北西太平洋の暖流域から黒潮-親潮移行域。日本では北海道以南の太平洋沖、島根県以南の日本海に分布する。体はやや細長い。体は楕円鱗に被われる。第2胸鰭下発光器は胸鰭基底上端よりはるかに上にある。体側後部発光器は2-3個で、側線と平行に並ぶ。尾鰭前発光器は4個。側線有孔鱗数は42-43。背鰭は通常19-22軟条。雄成魚の尾柄上部発光



オオクチイワシ *Notoscopelus japonicus*, FRLM 54576, 121 mm SL, 熊野灘

腺の前端は脂鰭後端とかなり離れる(藤井・上野, 1976). (岡田 誠)

イサリビハダカ *Notoscopelus resplendens* (Richardson 1845)

全世界の暖海域。日本では岩手県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。前2種に比べやや小型。体は円鱗に被われる。第2胸鰭下発光器は胸鰭基底上端よりはるかに上にある。体側後部発光器は2-3個で、側線と平行に並ぶ。尾鰭前発光器は3個。側線有孔鱗数は38-41。背鰭は通常23(21-24)軟条。鰓耙数は18以上。歯はすべて微小絨毛状。雄成魚の尾柄上部発光腺の前端



イサリビハダカ *Notoscopelus resplendens*, FRLM 46596, 90 mm SL, 尾鷲市

は脂鰭基部にはじまる(藤井・上野, 1976).

(岡田 誠)

セッキハダカ属 Genus *Stenobranchius* Eigenmann & Eigenmann 1890

セッキハダカ *Stenobranchius nannochir* (Gilbert 1890)

北太平洋の亜寒帯から温帯海域。日本では北海道オホーツク沖、北海道から熊野灘の太平洋沖に分布する。背鰭・臀鰭・尾鰭は一様に黒色。肛門上発光器は直線状に並ぶ。尾柄の上下には小さく複数のものからなる発光腺がある。尾鰭前発光器は多くの場合3(3-4)個。雌雄とも尾柄上下に発光腺をもつ。(岡田 誠)



セッキハダカ *Stenobranchius nannochir*, FRLM 9490, 44 mm SL, 熊野灘

ナガハダカ属 Genus *Symbolophorus* Bolin & Wisner 1959

ナガハダカ *Symbolophorus californiensis* (Eigenmann & Eigenmann 1889)

北太平洋の亜寒帯から温帯海域。日本では北海道から四国の太平洋沖に分布する。頭が小さく体は長い。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器は強く折れ曲がる。体側後部発光器は1個。後部臀鰭発光器の4-5番目までが臀鰭基底上にある。尾柄背腹面の発光部は二次性徴を表し、雄は背面、雌は腹面にある。(岡田 誠)



ナガハダカ *Symbolophorus californiensis*, FRLM 46891, 98 mm SL, 熊野灘

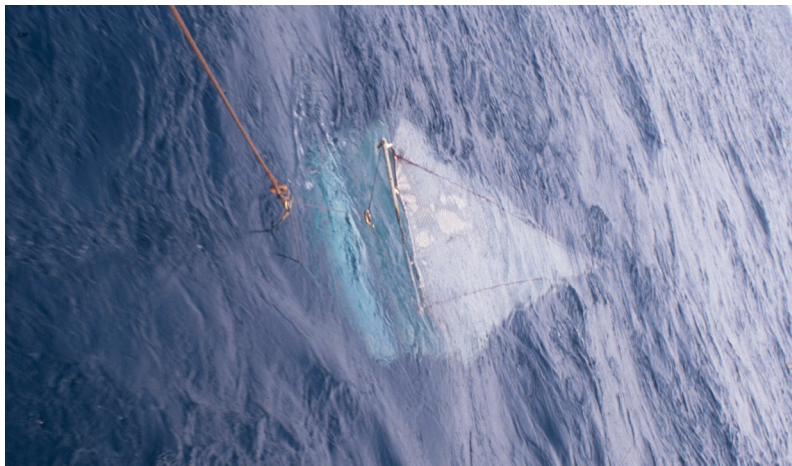
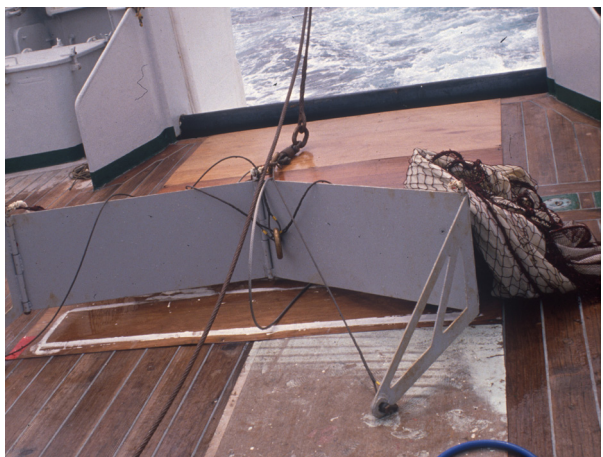
マ加里ハダカ *Symbolophorus evermanni* (Gilbert 1905)

インドー太平洋の暖海域とアガラス海流域。日本では青森県以南の太平洋沖に分布する。日周鉛直移動を行う。頭が比較的大きい。胸鰭下発光器は斜めに並ぶ。肛門上発光器は強く折れ曲がる。体側後部発光器は1個。後部臀鰭発光器の1番目だけが臀鰭基底上にある。尾柄背腹面の発光部は二次性徴を表し、雄は背面、雌は腹面にある。雄の尾柄背面発光部の発光鱗は8枚程度が凹面を



マ加里ハダカ *Symbolophorus evermanni*, FRLM 57275, 74 mm SL, 熊野灘

前方に並び、両端は小さい(Wisner, 1976)。(岡田 誠)



熊野灘, IKMT 調査, 1989 年 4 月 (木村清志撮影)